PS134
E16
91W65227

複写

兵器生產基本教程 六

銃器

陸軍兵器行政本部 監修
陸軍兵器學校 編著

陸軍兵器行政本部監修
陸軍兵器學校編著

兵器生產基本教程

第六卷

銃器

兵器航空工業新聞出版部刊

兵器生產基本教程　第六卷（銃器）目次

第一篇　材　料……一頁
第一章　鐵及非鐵金屬……一
第一節　鐵……一
第二節　非鐵金屬……三
第二章　木材、皮革、纖維材料……四
第一節　木　材……四
第二節　皮　革……五
第三節　纖維材料……六
第三章　藥品類……七
第一節　炭酸「ソーダ」……七
第二節　燐酸「ソーダ」……八
第三節　苛性「ソーダ」……八
第四節　石　鹼……九
第五節　「アルコール」……九
第六節　「クレオソート」……九

PS134
E16

國會圖書館
3.12.20
圖書館藏書

91W65227

第七節　硫酸……一〇
第八節　鹽酸……一一
第九節　鹽化「アンモン」……一一
第十節　硫酸銅……一一
第十一節　重「クロム」酸「カリ」……一二
第十二節　「オレイン」酸……一二
第十三節　「コールタール」……一三
第十五節　「カルナウバ」蠟……一三
第十五節　「パラニトロフエノール」……一三
第十六節　除銅液……一四
第十七節　腔中洗滌液……一四
第十八節　硼砂……一五
第十九節　膠……一五
第二十節　著色劑……一五
第四章　燃料……一七
第一節　木炭……一七
第二節　石炭……一七

第三節　「コークス」……一八
第二篇　工具……二一
第一章　要則……二一
第二章　各兵器所要工具ノ名稱及用法……二一
第一節　白兵用工具……二一
第二節　小銃用工具……二三
第三節　重擲彈筒用工具……二八
第四節　拳銃用工具……二九
第五節　十一年式輕機關銃用工具……三一
第六節　九六式輕機關銃用工具……四一
第七節　九二式重機關銃用工具……四二
第三章　檢査用具ノ名稱及用法……四七
第一節　共通檢査具……四七
第二節　小銃用檢査具……五〇
第三節　機關銃用檢査具……五七
第四章　保存手入用具ノ名稱及用法……六四
第一節　兵器手入臺……六四

第二節　油　罐……六五
第三節　油　差……六六
第四節　注脂器……六八
第五節　刷　毛……六九
第六節　油煎器……七〇
第七節　脂油與熱器……七二
第八節　銃腔洗滌臺及銃托架……七三
第九節　銃腔洗矢……七七
第十節　補足さく杖……七八
第十一節　洗矢修正臺……七九
第十二節　保心筒……七九
第十三節　銃用洗頭及洗管……八一
第十四節　小銃藥室掃除棒……八三
第十五節　圓筒手入棒……八三
第十六節　塗油ひも……八五
第十七節　擲彈筒手入具……八五
第十八節　「ガス」搔……八六

第五章　檢　査……八八
第一節　一般工具……八八
第二節　分解結合及修理工具……八八
第三節　檢査用具……八八
第四節　保存手入用具……八九
第六章　保　存……八九
第一節　手　入……八九
第一款　一般工具……八九
第二款　分解結合及修理工具……八九
第三款　檢査用具……九〇
第四款　保存手入用具……九一
第三篇　銃器ノ構造機能取扱……九三
第一章　刀　劍……九三
第一節　三十二年式軍刀甲(乙)……九三
第二節　九五式軍刀……九四
第三節　三十年式銃劍……九七
第二章　小　銃……九九

第一節　三八式歩兵銃……九九
第二節　九七式狙撃銃……一〇五
第三節　四四式騎銃……一〇七
第三章　拳　銃……一一一
第一節　十四年式拳銃……一一一
第四章　機關銃……一一九
第一節　十一年式輕機關銃……一一九
第二節　九六式輕機關銃……一一九
第三節　九二式重機關銃……一一九
第五章　自動砲……一一七
第一節　九七式自動砲……一一七
第六章　擲彈筒……一一七
第一節　八九式重擲彈筒……一一七
第七章　銃器使用上ノ注意……二〇七
第一節　銃器使用上ノ一般注意……二〇七
第二節　水際ニ於ケル銃器使用上ノ注意……二一一
第三節　炎熱地ニ於ケル銃器使用上ノ注意……二一一
第四節　極寒地ニ於ケル銃器使用上ノ注意……二一三
第四篇　銃器ノ修理……二一四
第一章　刀　劍……二一五
第一節　三十二年式軍刀……二一七
第二節　三十年式銃劍……二一七
第二章　小　銃……二一九
第三章　拳　銃……二二一
第一節　十四年式拳銃……二二一
第四章　機關銃……二三一
第一節　十一年式輕機關銃……二三八
第二節　九六式輕機關銃……二三八
第三節　九二式重機關銃……二五五
第五章　八九式重擲彈筒……二六五
附　表
第一　屯營用銃工具名稱及員數表……二七四
第二　携行銃工具名稱及員數表
第三　九九式携行銃工具名稱及員數表

兵器生産基本教程　第六卷（銃器）目次 終

兵器生産基本教程　第六卷（銃器）

第一編　材料（兵器保存要領第二編參照）

第一章　鐵及非鐵金屬

第一節　鐵

第一　鐵ノ種別及用途例左ノ如シ

區分	種別	用途例
普通	第一種（極軟鋼）	鍛接性ヲ必要トスル鏈鎖類、銃劍ノ鍔、托環、手入具箱、油入
	第二種（至軟鋼）	擲彈筒上部、ばね受、柄桿頭等
	第三種（軟鋼甲）	刀劍ノさや、こじり、止金頭、油入及油導子、小「ボルト」、小ねじ等彈箱
	第四種（軟鋼乙）	同右
	第五種（半硬鋼）	銃劍止金、鯉口、用心金、拳銃彈倉、同さく杖、銃口蓋、輕機規整子等用途廣シ
銅	第六種（硬鋼）	主トシテ衝擊及高壓ヲ受クル部品例ヘバ「ガスポンプ」栓、火砲閉鎖機、螺體、活塞桿等

特殊鋼	銃用鋼 第一種 甲	銃身、尾筒、圓筒
	銃用鋼 第一種 乙	銃身
	銃用鋼 第二種	尾筒
	銃用鋼 第三種	擊莖
	銃用鋼 第四種	抽筒子
	銃用鋼 第五種	尾栓
	銃用鋼 第六種	銃尾機關
	銃用鋼 第七種	銃尾機關
	銃用鋼 第八種	栓脚頭
	ばね鋼 第一種	
	ばね鋼 第二種	
	ばね鋼 第三種	板ばね
	ばね鋼 第四種	蔓卷ばね、渦卷ばね
	ばね鋼 第五種	同
	ばね鋼 第六種	板ばね、蔓卷ばね

鋼	第七種	
	第八種	板ばね
	第九種	同
	第十種	復坐ばね
	第十一種 甲	一般蔓卷ばね
	第十一種 乙	機關銃復坐ばね
	刀劍鋼	刀劍ノ刀劍身等

第二節　非鐵金屬

第二　各種非鐵金屬ノ名稱及用途例左ノ如シ

區分	用途
銅	銅槌、口銅等
鉛	口鉛、光明丹ノ原料等
青銅	齒車、軸筒等
黃銅	軍刀はばき、切羽、鯉口、洗矢、洗管、手入棒等

白銅	銃用彈丸ノ被甲等
「アルミニュウム」合金	眼鏡部品、九五式軍刀ノ柄等
接合用合金 黃銅鑞 甲	刀劍ノさや、こじり、鯉口等主トシテ鐵、銅ノ鑞附用トス
接合用合金 黃銅鑞 乙	主トシテ黃銅鑞附用トス
接合用合金 洋銀鑞	洋銀、鐵、銅ノ鑞附用トス
接合用合金 銀鑞	黃銅、白銅、帶鋸等ノ鑞附用トス
接合用合金 はんだ	亞鉛板、黃銅板及十一年式輕機關銃ノ尾筒ト尾筒下板トノ鑞附等ニ用フ

第二章 木材、皮革、纖維材料

第一節 木材

第三 各種木材ノ名稱及用途例左ノ如シ

區分		用途
堅	ぶな	三十年式銃劍つか木、拳銃床把三十二年式軍刀つか材、小銃銃床木被、彈藥箱
堅	くるみ	三十年式銃劍つか木、拳銃床把三十二年式軍刀つか材、小銃銃床木被十一年式輕機關銃銃床、提げ手九六式輕機關銃銃床、握り、
木	さくら	三十年式銃劍つか木三十二年式軍刀つか材
木	しらかし	八八式騎兵槍つか九二式重機關銃握り
木	むくのき	三十二年式軍刀つか材
木	堅木甲	九二式重機關銃握り保心筒
木	ラウアン	各種箱類、ねじ型箱職工具箱
軟	ほゝのき	九五式軍刀つか木、さや木
軟	まつ	三十二年式軍刀さや板
軟	すぎ	ふいご
軟	もみ	小銃彈藥箱挾板
軟	どろやなぎ	小銃彈藥箱挾板
特殊木	きり	ふいご羽口
特殊木	つぎ	箱類ノ木釘

第二節 皮革

第四 皮革ノ種別及用途例左ノ如シ

材料 木材、皮革、纖維材料

區分	用途
褐色多脂牛革	革帶、劍差、吊革、刀緒、刀差 拳銃入、負革及彈入等
褐色堅牛革	彈入體革及仕切革、前彈入蓋革 拳銃入蓋革等
褐色牝牛革	軍刀切羽等

第三節　纖維材料

第五　各種纖維材料ノ名稱及用途例左ノ如シ

區分	用途
麻 一號厚麻布	十一年式輕機關銃被、彈藥袋、九六式輕機關銃被、彈藥袋甲乙、九二式重機關銃彈藥袋等
麻 四號厚麻布	彈藥箱蓋上布等
麻 一號薄麻布	三八式歩(騎)、四四式騎銃屬品袋 十一年式輕機關銃豫備銃身袋、九六式輕機關銃豫備銃身袋、九二式重機關銃豫備品袋等
麻 二號薄麻布	十一年式輕機關銃彈袋 九六式輕機關銃彈袋 九二式重機關銃銃身包布等

麻・絲	皮革製品及麻布ノ縫絲等
木綿糸	拳銃懸紐
絨布	喇叭ノ握卷、兵器手入ノ毛布等
獸毛 豚毛	毛洗頭
獸毛 馬毛	塗油用洗頭
アスベスト	輕機關銃ノ握革等

第三章　藥品類

第一節　炭酸「ソーダ」

第六　炭酸「ソーダ」ノ性質左ノ如シ

無色透明ノ結晶體ニシテ「アルコール」ニハ溶解セザルモ冷水及溫水ニハ溶解シ强キ「アルカリ」性反應ヲ呈ス

空氣中ニ曝露スルトキハ次第ニ風化崩壞シ白色ノ粉末トナルヲ以テ常ニ密閉シテ冷所ニ格納スベシ

第七　炭酸「ソーダ」ノ用途及用法左ノ如シ

一　汚垢、脂油ノ洗滌及腔中洗滌液ノ製造等ニ用フ

二　洗滌ノ爲單獨ニ使用スル場合ニハ通常水二立ニ付約一〇瓦ノ比ヲ以テ溶解シテ用フ、要スレバ被洗滌品ヲ液中ニ浸シ煮沸ス、但シ本液ヲ用ヒタルトキハ洗滌後十分清水ヲ以テ洗滌シ乾布ニテ水分ヲ拭淨シ鐵製品ニ在リテハ

直チニ防錆用油ヲ塗布スベシ

第二節　燐酸「ソーダ」

第八　燐酸ノ溶液ヲ苛性「ソーダ」又ハ炭酸「ソーダ」ニテ中和シ其ノ溶液ヲ煮詰メテ結晶セシメタルモノニシテ容易ニ風化シ又水ニ溶解スルトキハ「アルカリ」性ヲ呈ス

第九　腔中洗滌液ノ製造ニ用フ

第三節　苛性「ソーダ」

第十　苛性「ソーダ」ノ性質左ノ如シ

一　白色無定形ノ固體ナルモ通常棒狀ニ製シアリ破碎面ハ結晶性ヲ表ハシ水ニ溶解シ多量ノ熱ヲ發ス此ノ溶液ハ強キ「アルカリ」性ヲ呈シ動物質(羽毛、皮、爪等)ヲ腐蝕セシム

二　炭酸「ガス」及水ヲ吸收スル性質強キヲ以テ格納スルニハ廣口瓶ニ收容シ「パラフイン」ヲ塗布セル「ガラス」栓若クハ「パラフイン」ニ浸セル「コルク」栓等ヲ裝シ置クベシ

第十一　「ペイント」及其ノ他ノ塗料ノ剝脫竝ニ洗滌等ニ用フ、コノ際ノ配合左ノ如シ

苛性「ソーダ」　一瓦
清水　五立
「スピンドル」油　一瓩
鋸屑粉　少量

清水ニテ溶解シタル後鑛油ヲ加ヘ乳狀トナルマデ攪拌シ尙鋸屑ヲ加味シテ泥狀トナス

第四節　石鹼

第十二　石鹼ハ大別シテ「カリ」石鹼及「ソーダ」石鹼ノ二種トス、「カリ」石鹼ハ吸濕性強ク質軟カキヲ以テ軟石鹼ト稱シ水ニ溶ケ易シ、「ソーダ」石鹼ハ此等ノ性少キ爲硬石鹼ト稱ス

第十三　「ソーダ」石鹼ハ汚垢、脂油ノ洗滌用等ニ「カリ」石鹼ハ以上ノ外腔中油ノ製造ニ用フ

第五節　「アルコール」

第十四　「アルコール」ノ性質左ノ如シ

一　無色透明、揮發性ノ液體ニシテ中性ナリ、爽快ナル香氣ヲ有シ其ノ味ハ灼クガ如シ

二　引火シ易ク光輝微弱ナル淡藍色ノ火焰ヲ放チテ燃燒ス

三　水「エーテル」、「グリセリン」及諸種ノ揮發油類ニ能ク混和ス

第十五　水ニ溶解スル虞アル藥品ノ練合及「ワニス」、雷汞、無煙藥ノ製造用或ハ鑄染用液ノ配合劑等ニ用フ

第六節　「クレオソート」

第十六　「クレオソート」ノ性質左ノ如シ

一　石炭「タール」ヲ攝氏二一〇—二七〇度ノ間ニ蒸溜シテ得タル不揮發性ノ油ニシテ劇毒性ヲ有ス

二　微ニ綠褐色ヲ呈シ特異ノ臭氣ヲ有シ滲透性強ク「ペイント」、「ワニス」類ヲ溶解ス

三　引火點低キヲ以テ火氣ニ注意スルヲ要ス

第十七　「クレオソート」ノ用途及用法左ノ如シ

一　木材及竹製品ノ防腐、防虫及殺虫用其ノ他一般殺菌及消毒用ニ用フ

二　塗料ヲ施サザル部分ニ用ヒ害虫傳播時期前ニ塗施スルヲ可トス

使用ノ際ハ塗施スベキモノヲ液中ニ浸スカ又ハ之ヲ數回塗布ス

三　「クレオソート」ハ皮膚ニ「かぶれ」ヲ生ゼシムルコトアリ、豫防法トシテ手、顏面等ニ「ワセリン」又ハ「グリセリン」等ヲ塗布スレバ可ナリ

第七節　硫酸

第十八　硫酸ノ性質左ノ如シ

一　無色、無臭、油狀ノ液體ニシテ熱スレバ全ク揮散ス

二　皮膚ニ觸ルレバ之ヲ糜爛シ木、竹及其ノ他ノ動植物ヲ焦蝕ス

三　硫酸ヲ水ニ注グトキハ大ナル熱ヲ發生シテ危害ヲ伴フコトアルヲ以テ稀硫酸ヲ作ルニハ水ヲ淺キ容器ニ取リテ徐ロニ硫酸ヲ加ヘ絕エズ攪拌スベシ

四　金、白金其ノ他白金屬ニ對シテハ作用セザルモ他ノ諸金屬ニ對シテハ作用ス、但シ鉛ニ對シテハ作用微弱ナリ

第十九　稀硫酸トシテ「めつき」前ノ鐵及鋼ノ洗滌用、藥莢等ノ黃銅製品ノ洗滌用等ニ用ス

第八節　鹽酸

第二十　鹽酸ノ性質左ノ如シ

一　純粹ノモノハ無色透明ノ液體ナルモ工業用ノモノハ鐵、砒素等ノ不純物ヲ混在シ黃色若クハ赤色ヲ呈ス、刺戟性ノ臭氣ヲ有シ酸味强ク加熱ニ依リ全ク揮散ス

二　金、白金其ノ他白金屬ヲ除クノ外諸金屬ヲ溶解シ水素ヲ發生ス

第二十一　はんだ鑞ノ媒劑及金屬ノ洗滌用等ニ用フ

第九節　鹽化「アンモン」

第二十二　鹽化「アンモン」ノ性質左ノ如シ

一　磠砂トモ稱シ白色結晶體ノ粉末或ハ纖維狀ノ堅キ結晶塊ニシテ刺戟性ノ味ヲ有シ臭氣ナク一見食鹽ニ類似ス

二　空氣中ニ於テ變化セズ熱スレバ揮發シ約三倍量ノ水竝ニ等分ノ熱湯ニ溶解シ「アルコール」ニハ溶解シ難シ

第二十三　錆染液製造用、鑞附用及乾電池ノ製造用等ニ用フ

第十節　硫酸銅

第二十四　硫酸銅ノ性質左ノ如シ

一　膽礬トモ稱シ藍色透明ノ結晶體ニシテ不快ナル味ヲ有シ有毒性ナリ

二　大氣中ニ於テ徐々ニ風化シ又五倍ノ水竝ニ等分ノ熱湯ニ溶解シ酸性反應ヲ呈ス「アルコール」ニハ殆ド溶解セズ

第二十五　銅めつき、染色用又ハ錆染液製造用等ニ用フ

第十一節　重「クローム」酸「カリ」

第二十六　重「クロム」酸「カリ」ノ性質左ノ如シ

一　美麗ナル鮮赤色ノ結晶體ニシテ劇藥ナリ

二　「アルコール」ニハ溶解セズ常溫ニ於テ水一〇分ニ溶解シ溶液ハ帶赤黃色ニシテ酸性反應ヲ呈ス

三　有毒性ナルヲ以テ取扱ニ注意ヲ要ス、若シ皮膚ノ剝脫セル部分ニ附著スルトキハ往々腫物ヲ生ズ、又鼻腔內ニ此ノ細粉ヲ吸ヒ込ムトキハ鼻腔內膜ヲ侵スコトアリ

第二十七　錆染液劑、媒染劑、鞣皮劑、寫眞用感光劑等ニ用フ

第十二節　「オレイン」酸

第二十八　「オレイン」酸ノ性質左ノ如シ

一　主トシテ「オリーブ」油、扁桃油等ヨリ製シ淡黃色油狀ノ液體ニシテ純粹ナルモノハ無色ナリ

二　水ニハ不溶性ナルモ「アルコール」ニハ容易ニ溶解ス

三　日光及空氣ニ曝セバ酸敗シテ臭氣ヲ發ス

四　弱酸ニシテ侵透力强ク爐渣ノ溶解力大ナリ、又銅、鉛等ニ作用シ鹽類ヲ形成ス

第二十九　腔中油ノ製造用ニ用フ

第十三節　「コールタール」

第三十　石炭「ガス」及「コークス」製造ノ副產物タル黑色油狀ノ液體ニシテ特異ノ臭氣ヲ有ス

第三十一　鐵類ノ防錆、木材ノ防腐、防虫用等ニ用フ

第十四節　「カルナウバ」蠟

第三十二　「カルナウバ」蠟ノ性質左ノ如シ

一　主トシテ南米「ブラジル」ニ產スル一種ノ棕櫚樹ノ葉ノ分泌分ヨリ採取シテ精製シタルモノニシテ粗製品ハ淡黃黃綠又ハ黑褐色ナルモ漂白セルモノハ殆ド白色ナリ

二　一般溶劑ニハ溶劑スルモ「アルコール」ニハ溶解セズ蠟、脂肪、樹脂等ニ混ズルトキハ其ノ熔融點ヲ高ム

第三十三　酷暑時露天格納銃器、火砲等ノ爲必要アルトキハ「ペトロラタム」ニ約四—五%ヲ溶融添加シテ用フ

第十五節　「パラニトロフエノール」

第三十四　「パラニトロフエノール」ノ性質左ノ如シ

一　石炭酸ヲ硝酸ニテ處理シテ得ラルル黃色、褐色又ハ灰色ノ結晶體ニシテ防黴力强シ

二　手指ニ附著スルトキハ黃色ヲ呈スルコトアルモ有害ナラズ

第三十五 皮革製品防黴ノ爲革脂ニ混ジ使用ス

第十六節 除銅液

第三十六 除銅液ハ左記藥品ヲ混合調製シタルモノニシテ銃腔面ニ附著セル被甲ヲ除去スルニ用フ

炭酸「アンモン」	二〇瓦
苛性「ソーダ」	五瓦
過硫酸「アンモン」	五—一〇瓦
水	〇•二五立

第三十七 本液ハ「クロム」めつき銃身ハ勿論一般銃身ニ對シテモ有害ナル侵蝕作用ヲナシ空氣中ニ放置スルトキハ水分ヲ吸收シテ其ノ效力ヲ減ズルヲ以テ嚴ニ注意シ密閉ヲ確實ニスルヲ要ス

第十七節 腔中洗滌液

第三十 腔中洗滌液ノ組成、性質左ノ如シ

一 炭酸「ソーダ」及燐酸「ソーダ」各一〇瓦ヲ一立ノ清水ニ溶解シタル「アルカリ」性溶液ニシテ火藥燼渣ヲ溶解除去ス

二 本液ハ皮膚ヲ荒スコトアルヲ以テ注意スベシ

三 調製ニハ二種「ソーダ」ヲ混合シタルモノヲ溶解スルヨリモ各別ニ溶解シタルモノヲ混合スル方容易ナリ

第三十九 用途——射擊後ニ於ケル銃腔面ノ洗滌用ニ用フ

第十八節 硼砂

第四十 白色ノ結晶體ニシテ大氣中ニテ風化シ常溫ニ於テ一七倍ノ水ニ溶解ス

第四十一 硼砂ノ用途及用法左ノ如シ

一 飽和溶液ト爲シ射擊後ニ於ケル銃腔腔面ノ洗滌用及鐵製品ノ浸漬格納用等ニ用フ

二 本液ハ飲料ニ適スル水一•七立ニ付約一〇〇瓦ノ比ヲ以テ完全ニ溶解シ使用ス、溫湯ヲ以テスレバ溶解容易ナリ

第十九節 膠（ニカウ）

第四十二 膠ノ製法、性質左ノ如シ

一 膠ハ動物ノ皮、骨等ヨリ製シタルモノニシテ粘著力强ク木工作業ニハ缺クベカラザルモノナリ、精製シタルモノハ「ゼラチン」ト稱シ無色透明ニシテ不快ナル臭氣ヲ有セズ

二 通常用フル膠ハ平膠、三千本、千本ノ三種ナリ品質ハ上記順序ナリ

三 一度溶解シタル膠ハ腐敗シ易ク腐敗スルトキハ惡臭ヲ放チ粘著力ヲ減ズ

四 暖キ濕氣ニ遭フトキハ腐敗シ易キヲ以テ之ヲ格納スルニハ成ルベク乾燥セル場所ニ置クベシ

第四十三 木材ノ接合用等ニ用フ

第二十節 著色劑

第四十四 著色劑ハ化學作用ニ依リ鐵又ハ鋼ノ表面ニ密實ナル酸化鐵又ハ燐酸鹽等ノ皮膜ヲ成形セシメ以テ内部ノ酸化ヲ防止シ防錆ノ目的ヲ達スルモノニシテ作業法及目的ニ依リ左ノ配合劑ヲ使用ス

作業法	配合劑	配合量
酸化鐵法	過鹽化鐵	二六瓦
	硫酸銅	一〇瓦
	甘硝石精	二二瓦
	硝酸	一一瓦
	アルコール	一九瓦
	水	九〇〇瓦
簡易皮膜法	鹽素酸「ソーダ」	五〇瓦
硫酸防錆法	硝酸「ソーダ」	二〇瓦
	第一硫酸鐵	三五瓦
	水	四〇〇瓦
簡易錆染法	過鹽化鐵	四〇瓦
	硝酸	一〇瓦

作業法	配合劑	配合量
簡易錆染法	アルコール	一〇瓦
	水	九〇〇瓦
燐酸鹽皮膜法	「パーコパウダー」	三〇瓦
	水	一〇〇〇瓦
	パーコラック	著色後塗布ス
	ワニス	
	ペイント	
ボンデライト法	「パーコパウダー」配合劑	
	燐酸	四二瓦
	燐酸「マンガン」	三三瓦
	燐酸鐵	八瓦
	水	一七瓦

第四章 燃料

第四十五 修理作業ニ用フル燃料ハ木炭、石炭、「コークス」等ノ固體燃料ヲ用フルヲ通常トス

第一節 木炭

第四十六 木炭ノ性質左ノ如シ

一 木炭ハ主トシテ松、樅、栗等ヲ燒キテ製シタル軟質ノモノヲ適當トス

二 松炭ハ其ノ品質他ノ木炭ニ比シ輕軟ニシテ高熱ヲ發シ硫黄分ナク灰分少キヲ以テ材料ノ金質ヲ害スルコト尠シ故ニ硫黄ヲ含有スルヲ忌ム鋼ノ如キニ使用スレバ最モ適當トス

三 一般ニ眞黑色ニシテ破面光澤ヲ呈シ其ノ質稍〻固ク押壓スルモ容易ニ破碎セザルモノヲ良トス

四 生炭(炭化不十分ナルモノ)燒過ギ、過度ニ輕軟ナルモノ又ハ粉炭、雜木炭、或ハ土塊、砂、礫及水分等ヲ多量ニ含有スルモノハ不良ナルモノナルヲ以テ成ルベク使用セザルヲ可トス

第四十七 木炭ノ用途及用法左ノ如シ

一 火造作業及熱處理作業ニ用フ

二 通常三十粍角位ニ割リ又小形ノ鐵具ヲ鍛造スル場合等ニハ十五粍角位ニ破碎シテ用フルヲ可トス

第四十八 石炭ノ種類ハ甚ダ多キモ大別スレバ左ノ如シ

一 無煙炭
二 歴青炭
三 褐炭
四 泥炭

第四十九 石炭ノ性質左ノ如シ

一 石炭ハ木炭ニ比シテ高熱ヲ發シ金物ヲ烙ムルニ適スルモ其ノ含有成分不純ナルモノアル爲動モスレバ金質ヲ害スルコトアリ

二 鍛造用ノ石炭ハ其ノ質軟カクシテ成ルベク硫黄ノ含有量少ク其ノ光澤美ニシテ黑ク且破面多葉狀ヲ爲シ燃燒スルニ當リ膨脹シテ凝集スル性アルモノヲ良トス

第五十 石炭ノ用途左ノ如シ

松炭ニ比シ價格低廉ニシテ熱度强烈ナルヲ以テ鍛造用トシテ廣ク用フ

但シ硫黄分ヲ含ミテ鋼ノ質ヲ害シ又鐵鋼ノ表面ニ凝著シテ不潔ナラシメ且酸化皮膜ヲ以テ其ノ表面ヲ被フコト著シキ缺點ヲ有スルヲ以テ刀、劍其ノ他重要ナルノニハ用ヒザルヲ通常トス

第三節 「コークス」

第五十一 「コークス」ノ性質左ノ如シ

一 「コークス」ハ石炭ヲ乾溜シ且揮發分ヲ除去シテ得タルモノニシテ石炭ヨリ一層高キ熱ヲ發ス

二 品質良好ナルモノハ通常薄鼠色ヲ呈シ金屬狀ノ光澤ヲ帶ビ其ノ質緻密ニシテ堅ク之ヲ打ツトキハ金屬ノ如キ清音ヲ發ス

第五十二 適當ニ(約五粍角)破碎シテ單獨ニ又ハ木炭ト混ジテ用フ

但石炭ニ比シ其ノ燃燒困難ナルヲ以テ强キ通風ヲ要ス

第二篇　工具

第一章　要則

第五十三　本篇ハ職工具（附表第一、第二、第三、第四）及其ノ他ノ工具中、銃工作業ニ必要ナル一般工具、分解結合及修理用具、檢査用具竝ニ保存手入具ノ構造、機能、使用法、保存等ニツキ記述ス

第五十四　工具ハ其ノ用途ニ應ジ常ニ適切ナルモノヲ使用スルト共ニ使用前後竝ニ使用中ニ於テモ屢〻破損、變歪及瑕瑾ノ有無等ヲ檢査鑑定シ、保存ヲ良好ナラシメ以テ常ニ完全ナルモノヲ使用スルヲ要ス

第五十五　工具ハ其ノ用途ニヨリ左ノ如ク分類ス

一　一般工具　仕上火造等一般作業ノ爲用フル工具（本工具ニ就テハ仕上及鍛造須知ヲ參照スベシ）

二　分解結合及修理用工具　兵器ノ分解結合竝ニ修理ノタメ特ニ用フル工具

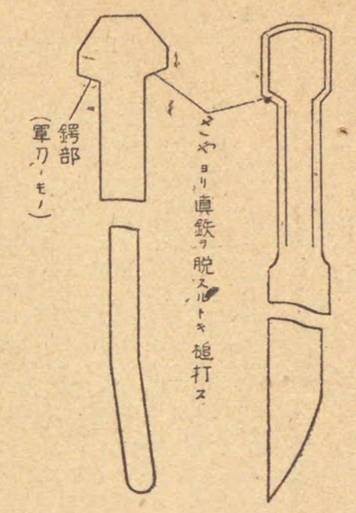
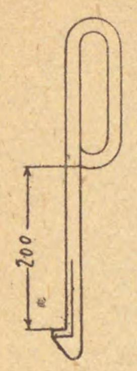
三　檢査用具　諸檢査ノ爲用フル工具

四　保存手入具　兵器ノ保存、手入ノ爲用フル工具

第二章　各兵器所要工具ノ名稱及用法

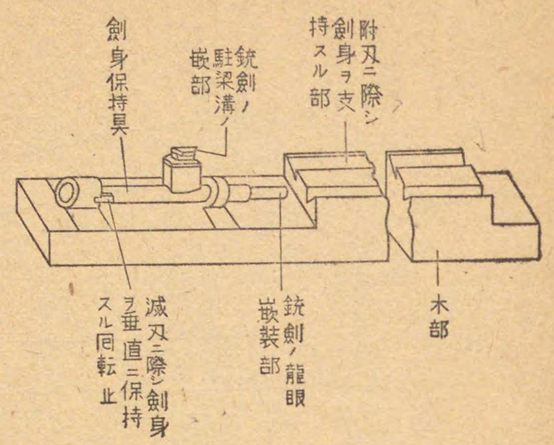
第一節　白兵用工具

第五十六　白兵用工具ノ名稱、形狀、構造、用途及用法左ノ如シ

名稱	形狀及構造	用途及用法	使用上ノ注意
さやと眞金	硬鋼若クハ半硬鋼製ニシテ三十年式銃劍、三十二年軍刀、九五式軍刀、見習士官刀眞鐵等アリ  	用途 軍刀、見習士官刀、銃劍等ノさやノ變形ヲ修正スルニ用フ 用法 眞金ニ薄ク「スピンドル」油ヲ塗リ、さやニ挿入シ、金敷上ニテ才槌ヲ以テさやノ外面ヲ輕打シ變形ヲ修正ス 眞金ヲさやヨリ脫スルニハとじリヲ上方ニシテさやヲ持チ、眞金ノ鍔部ヲ槌打スベシ	變形ノ度甚シク眞鐵ヲ挿入シ難キモノハ修正シツツ眞金ヲ逐次內部ニ挿入スベシ
鯉口拔	軟鋼製桿ナリ  	用途 三十年式銃劍ノ鯉口ヲ修理スルトキ之ヲ抽出スルニ用フ 用法 鉤環小ねじヲ螺脫シタル鯉口拔ノ先端鉤部ヲ鯉口下部ニカケ之ヲ上方ニ引拔ク	

刀劍附刃及滅刃保持具

三十年式銃劍附刃及滅刃保持具

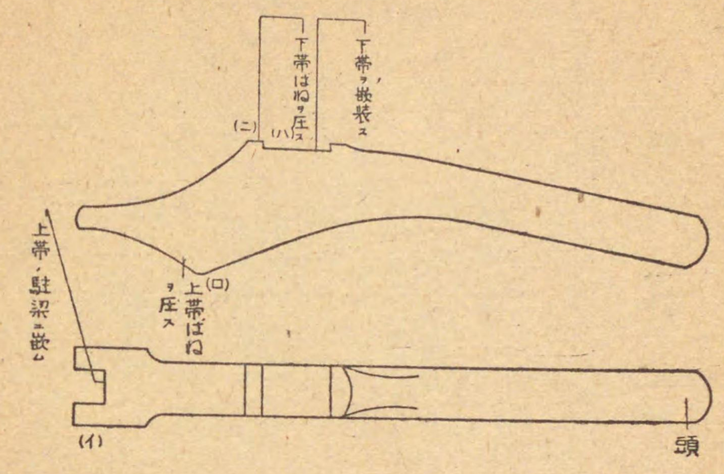


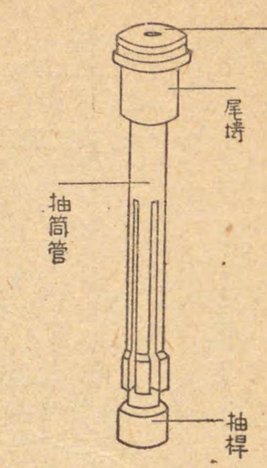
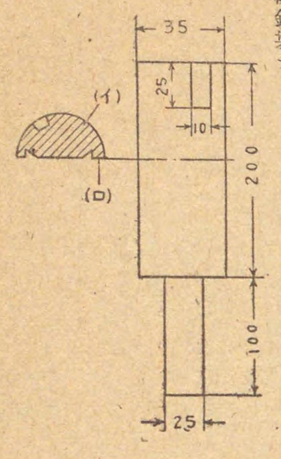
用途
軍刀或ハ銃劍ノ手作業ニヨル附刃及滅刃ノ際刀劍ヲ保持スルニ用フ

用法
一 劍ノ駐梁溝ヲ上圖取附部ニ嵌裝シタル後、左右ニ倒シテ劍身ヲ木部ニ支持シ附刃ヲ行フ
二 滅刃ノトキハ劍身保持具ノ回轉止ヲ相手ノ溝部ニ嵌裝シ劍身ヲ垂直ニ保チテ行フ

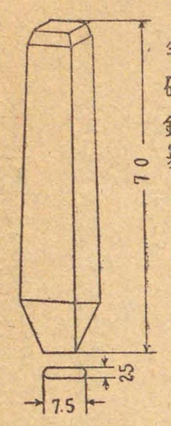
第二節 小銃用工具

第五十七 小銃用工具ノ名稱、形狀、構造、用途及用法左ノ如シ

名稱	小銃分解器
形狀及構造	黃銅製 
用途及用法	用途 三八式歩兵銃、同騎銃、四四式騎銃ノ上帶並ニ三八式歩兵(騎)銃ノ下帶ヲ分解スルニ用フ 用法 一 上帶ノ離脱 (イ) 部ヲ上帶ノ駐梁ニ嵌メ、(ロ)部ヲ上帶ばねニ當テ左手ニ銃ト共ニ分解器ヲ握リテばねヲ壓シツツ才槌ニテ頭部ヲ輕打シテ上帶ヲ離脱スベシ 二 下帶 (ハ) 部ヲ下帶ニ嵌メ(ニ)部ヲ以テ確實ニ下帶ばねヲ壓シツツ才槌ニテ頭部ヲ輕打シテ下帶ヲ離脱スベシ
使用上ノ注意	上帶及下帶ばねヲ確實ニ壓スルヲ要ス

藥莢拔	遊底被直金
 	半硬鋼製ナリ 
用途 藥室內ニ切レテ殘リタル藥莢ヲ拔出ス 用法 圓筒ノ頭部ニ嵌メ正シク抽筒子ニ鈎シタル後遊底ヲ全ク閉鎖シ力ヲ加ヘテ一氣ニ之ヲ開キ藥莢ヲ拔出スベシ但シ遊底ヲ使用シ得ザル場合ハ藥莢尾壔ノ底螺ニさく杖ヲ螺著シ之ヲ尾筒ノ後方ヨリ藥室ニ裝入シさく杖ヲ一氣ニ後退シ藥莢ヲ拔出スベシ	用途 遊底被ノ變形ヲ修正スルニ用フ 用法 遊底被ニ眞金ヲ挿入シ才槌又ハ銅槌ヲ以テ槌打修正ス (イ)部ハ圓弧部ヲ(ロ)部ハ遊底ノ〃ヲ修正ス

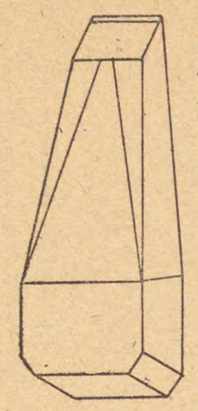
引金打出たがね



用途　引金前後浪形ヲ槌打增肉スルニ用フ

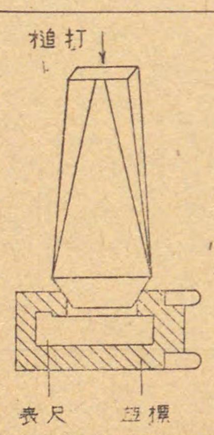
用法　浪形上端ヨリ稍下部ヲ槌打ス

遊標修正具

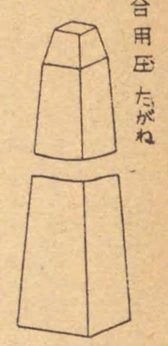


用途　遊標抱合部磨滅シテ遊標動搖スルモノヲ修理スルニ用フ

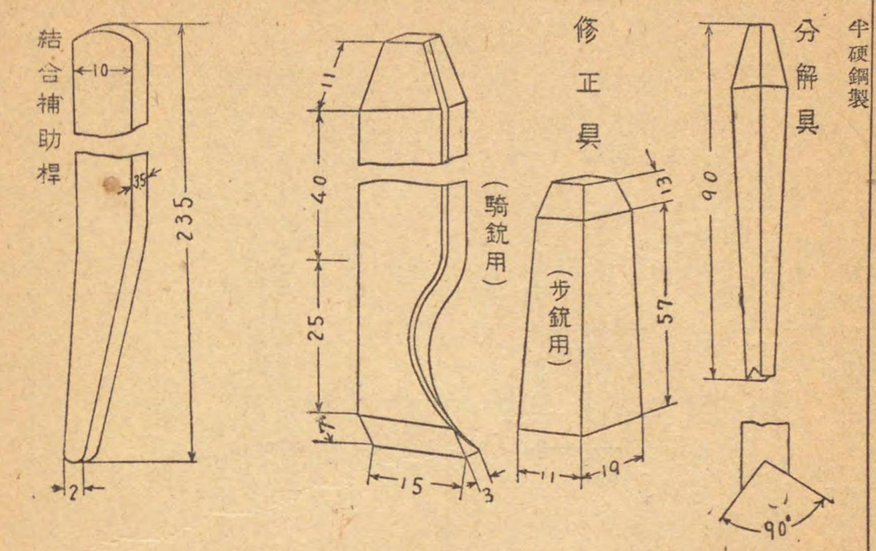
用法　左圖ノ如シ



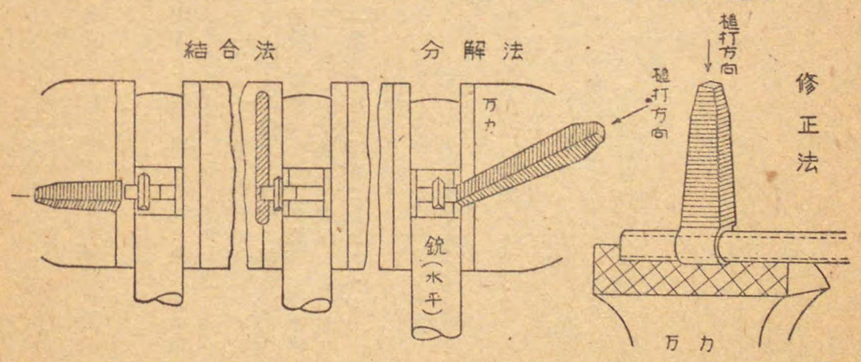
正具



照星分解結合並ニ修



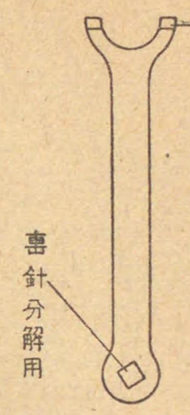
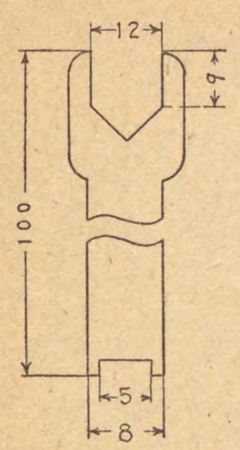
用途　小銃ノ照星ヲ分解又ハ修正スルニ用フ　用法　圖ノ如シ



照星座裏面ヲ支持シツツ角壓ヲアテテ槌打嵌裝ス

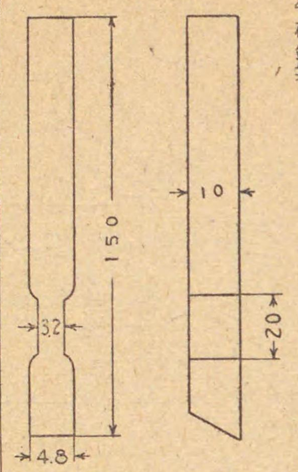
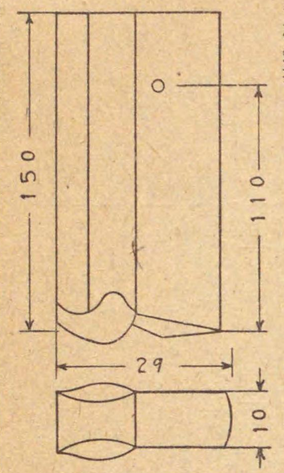
第三節　重擲彈筒用工具

第五十八　重擲彈筒用工具ノ名稱、形狀、構造、用途、用法左ノ如シ

名稱	重擲彈筒分解器	底螺分解器
形狀及構造		半硬鋼製 
用途及用法	用途 重擲彈筒ノ分解ニ用フ	用途 底螺ノ分解結合ニ用フ他端ハ擊莖室蓋螺分解結合ニ用フ
使用上ノ注意		

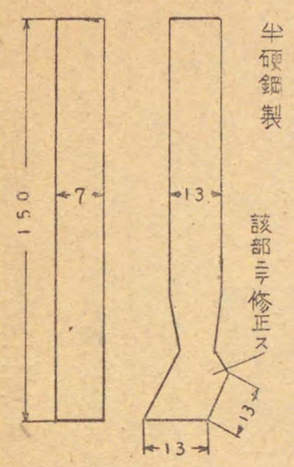
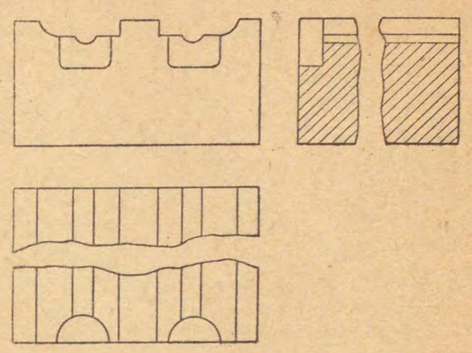
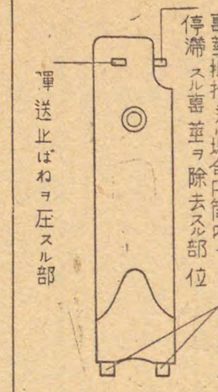
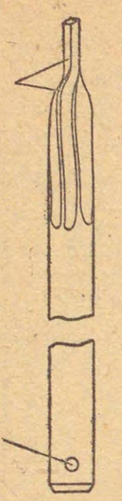
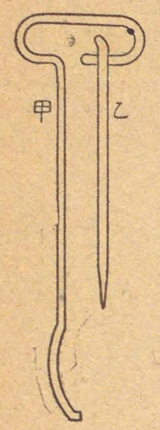
第四節　拳銃用工具

第五十九　拳銃用工具ノ名稱、形狀、構造、用途及用法左ノ如シ

名稱	抽筒子分解器	彈倉眞金臺
形狀及構造	半硬鋼製 	半硬鋼製 
用途及用法	用途 十四年式拳銃抽筒子ヲ離脱スルニ用フ 用法 鉤部ヲ抽筒子ニ懸ケテ抽筒子ヲ押上ゲツヽ之ヲ抽出ス	用途 十四年式拳銃彈倉ノ變形等ヲ槌打修正スルニ用フ
使用上ノ注意	外部ヲ毀損セザル如ク注意スベシ	外部ヲ毀損セザル如ク注意スベシ

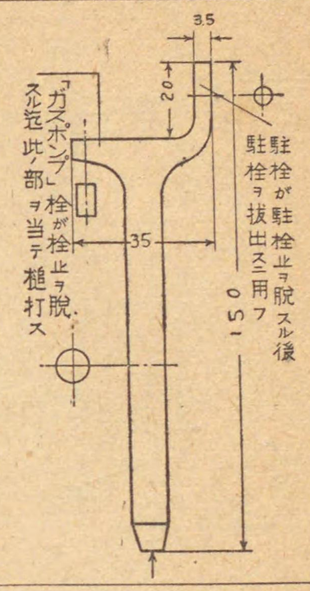
第五節　十一年式輕機關銃用工具

第六十　十一年式輕機關銃用工具ノ名稱、形狀、構造用途及用法左ノ如シ

名稱	形狀及構造	用途及用法	使用上ノ注意
彈倉口部修正器		用途 十四年式拳銃彈倉口部ノ變形ヲ修正スルニ用フ 用法 先端ヲ口部內面ニ入レ適宜銅槌ヲ併用槌打修正シスルモノトス	
彈倉銜止臺		用途 十四年式拳銃彈倉ノ銜止ニ用フ	
規整子回		用途 規整子ノ裝脫及彈送止ノ離脫ニ用フ	
圓筒擊莖室えぐり		用途 圓筒擊莖室ニ反起ヲ生ジタルトキ之ヲ修正スルニ用フ	
打殼拔		用途 甲ハ藥室內ニ殘留セル藥莢ヲ抽出スルニ用ヒ其ノ爪ヲ藥莢左下方起緣ニ鉤スルモノトス 乙ハ送彈故障ノ排除ニ用フ	

工具　各兵器所要工具ノ名稱及用法

「ガスポンプ」栓抜



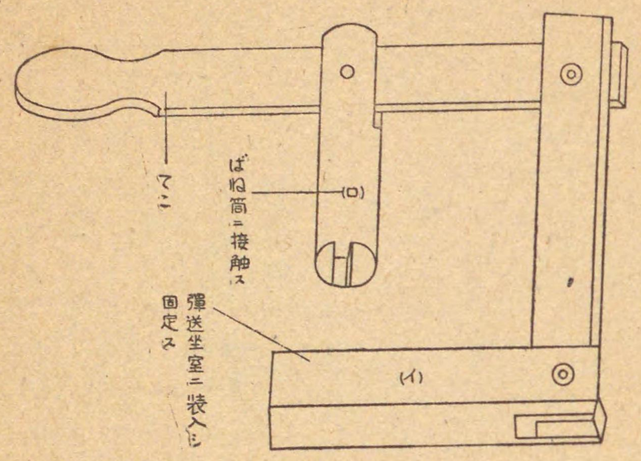
用途
「ガスポンプ」栓ヲ抽出スルニ用フ

門子受分解器

用途
門子受ノ分解ニ用フ

用法
右門子受被上部ノ孔ヨリ挿入シ左門子受ニ當テ槌打シ分解ス

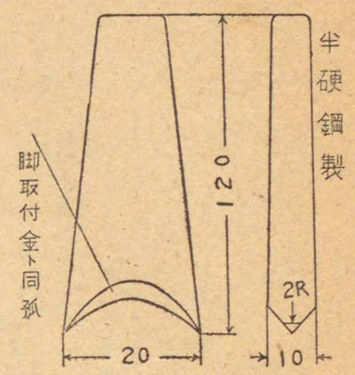
壓桿分解器



用途
壓桿ヲ分解スルニ用フ

用法
先ヅ圖(イ)部ヲ彈送座室ニ入レ(ロ)ヲばね筒ト相對シ接觸セシメツツ左手ニテ壓桿ヲ起シ右手ニテてこヲ操作シツツ靜カニばね筒ヲ離脱セシム

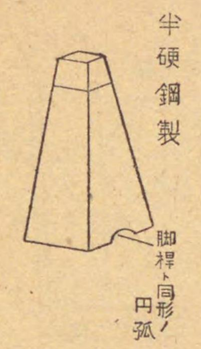
脚取附金用たがね



用途

脚取附金ノ動搖スルモノヲ修理スルニ用フ、尖部ガ圓孤且斜面ヲ呈シアルハ打面ノ保護及かしめヲ良好ナラシムル爲ナリ

脚桿修正器



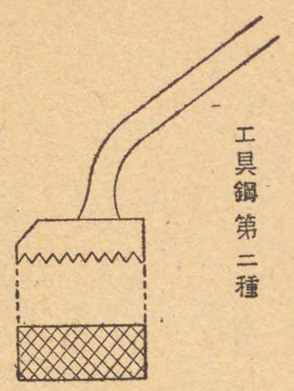
用途

脚ノ屈曲變形ヲ修正スルニ用フ

用法

一般工具講へしニ準ズ

放熱筒「ガスポンプ」室用やすり

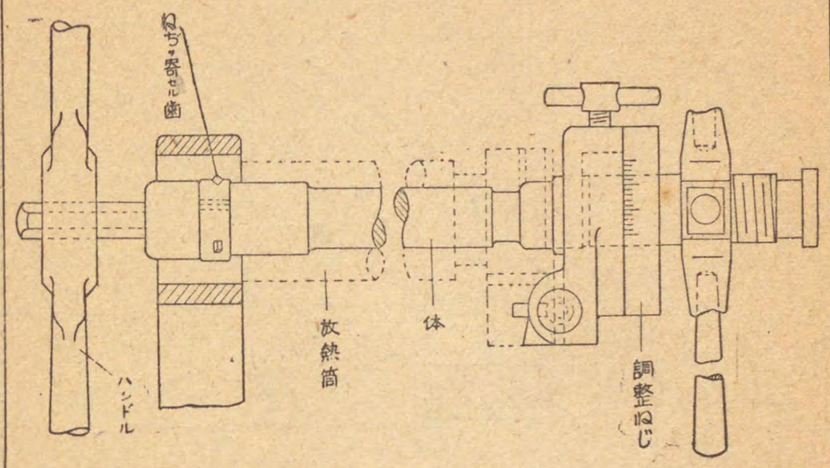


用途

「ガスポンプ」交換修理ニ際シテあり室部ノ摺合セニ用フ

一般工具第三款やすり中ニアル特別やすりニ屬ス

放熱筒ねじ寄セ器

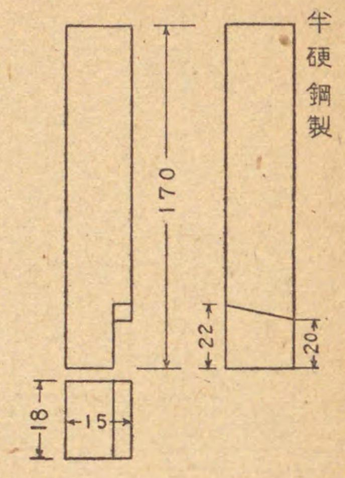


用途　尾筒及放熱筒結合部ねじ磨滅ノ爲、結合部ノ動搖ヲ生ジタルトキニ用フルモノニシテ放熱筒ねじ山ヲ傾ケ以テ結合部ノ動搖ヲ修理スルモノナリ

用法　體ヲ放熱筒ニ挿入シタル後照星坐取附部ヲ確實ニ坐ニ取附ク次デ調整ねじヲ回シテ適當ナル固サトシタル後「ハンドル」ヲ廻シツツねじヲ寄ス

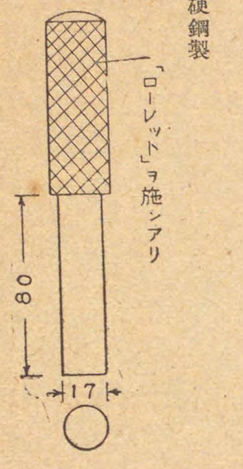
調整ねじヲ固ク螺入スルトキハねじ部ヲ破損スルコトアルヲ以テ數回ニ分チテ徐々ニ行ヒ少シ宛ねじ山ヲ傾クル如ク作業スルコト肝要ナリ

彈送座通路金眞



用途　尾筒ト裝塡架等ヲ結合スルトキ兩者ヲ結合シテ本品ト「メニー」トニヨリ摺合セヲ行フニ用フ

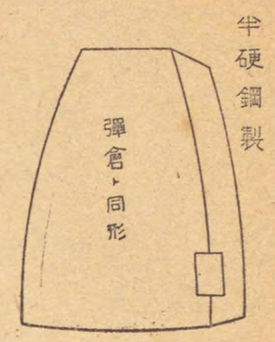
壓桿ばね室眞金



用途　裝塡架壓桿ばね室ノ變形セルヲ修正スルニ用フ

用法　眞金部ヲ室内ニ挿入シツツ銅槌等ヲ以テばね室外周ヲ槌打シテ整形ス

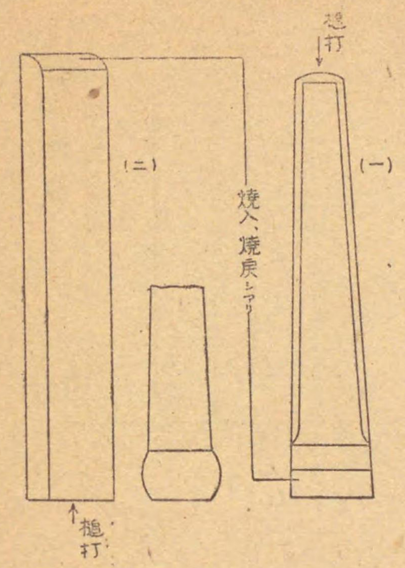
裝塡架彈倉眞金



用途　彈倉ノ變形ヲ修正スルニ用フ

用法　彈倉上部ヨリ挿入シ銅槌等ニテ槌打シテ整形ス

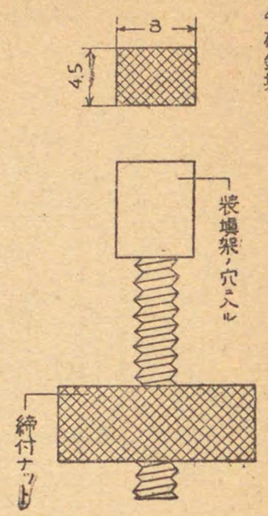
裝塡架增肉用たがね



用途　二種共裝塡架下面ヲ槌打增肉シテ裝塡架動搖ヲ防止スルニ用フ

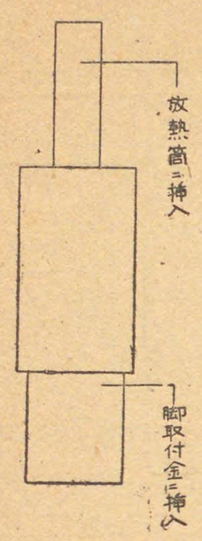
用法　(一)ハ中央ノ溝部ニ使用シ(二)ハ端面ノ增肉用トシテ使用ス

挿彈子受ばね保持器

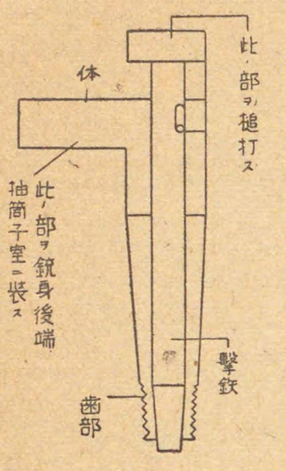


用途　挿彈子受ばねヲ銹止スルトキ之ヲ保持スルニ用フ、銹止ニ方リテハ本器ヲ裝塡架內方ヨリ裝シ「ナット」ヲ外方ヨリ緊メ挿彈子受ばねヲ固定ス

取附金及放熱筒眞金

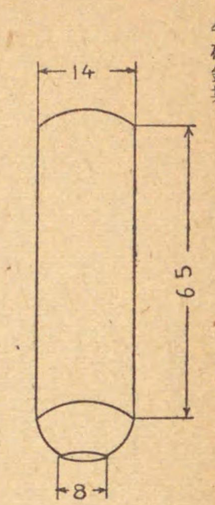
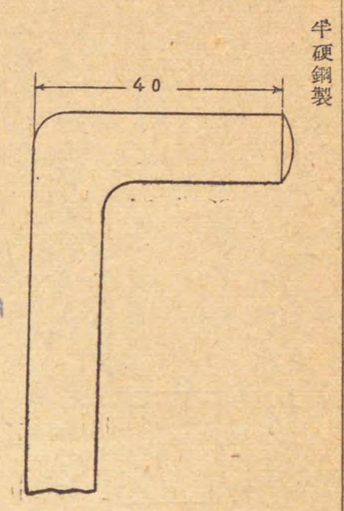
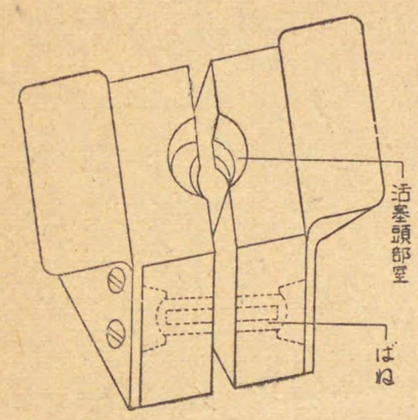


用途　脚取附金ヲ槌打增肉スルトキ及照星座銹止等ニ方リ之ヲ臺トシテ用フ

名稱	形狀及構造	用途及用法	使用上ノ注意
薬莢拔		用途 銃身薬室ニ打殼薬莢ノ横切レシタルモノ殘留セルトキコレヲ抽脱スルニ用フ 用法 銃身ヲ尾筒ヨリ分離シタル後薬莢拔ノ體ヲ緩メ薬室内ニ挿入シ體ノ後面ヲ强ク槌打シ撃鐵前方部ノ齒部ヲシテ殘留薬莢ニ十分吻入セシメタル後撃鐵前面ヲ一氣ニ强ク槌打シ薬莢ヲ共ニ抽脱ス	

第六節　九六式輕機銃用工具

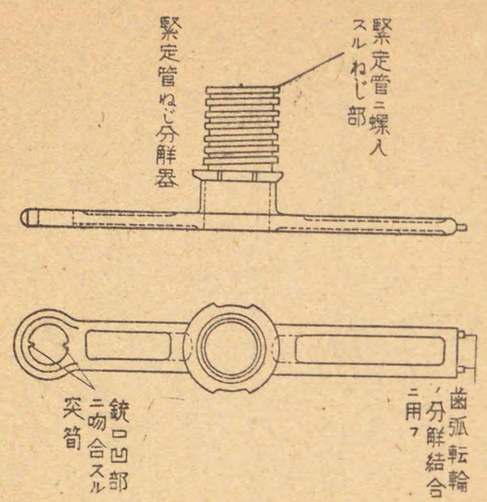
第六十一　九六式輕機關銃用工具ノ名稱、形狀、構造、用途及用法左ノ如シ

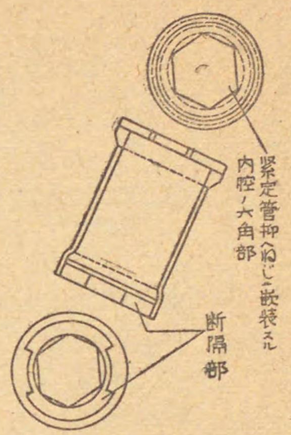
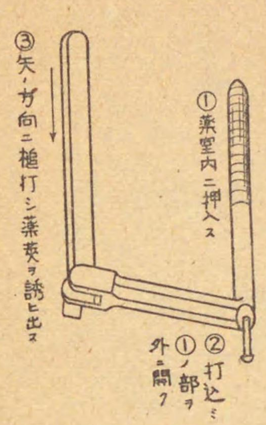
脚頭軸用かしめがね		用途 脚軸端ヲかしむるニ用フ
尾筒下板鋲止用臺		用途 尾筒下板ヲ鋲止スルトキ鋲止臺トシテ用フ 一般ニ鋲止困難ナル箇所ニ鋲止ヲ施ス場合ニハ鋲止臺ノ形狀ヲ工夫シ適宜ノ形狀ノモノヲ使用スベシ
活塞頭分解器		用途 活塞頭ノ交換ノ際活塞頭ヲ離脱スルニ用フ 用法 活塞頭部室ニ活塞頭部ヲ挾裝シ之ヲ萬力等ニテ緊定シ才槌ヲ以テ活塞鼻部附近ヲ輕打シ活塞頭ヲ戻回離脱ス

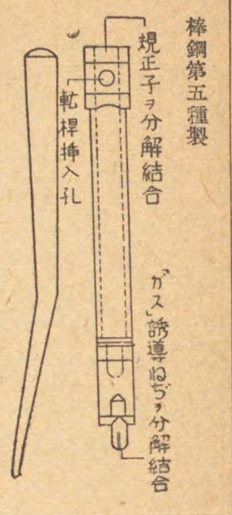
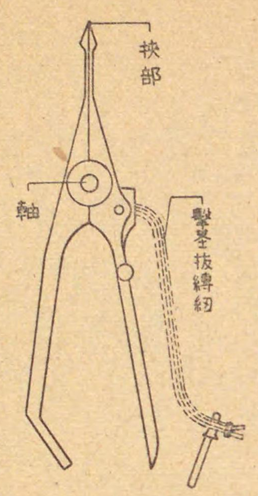
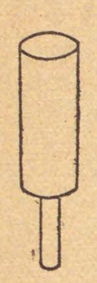
九二式重機關銃用工具ノ名稱、形狀、構造、用途及用法左ノ如シ

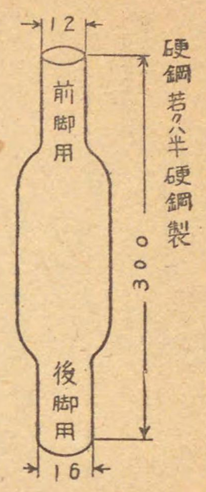
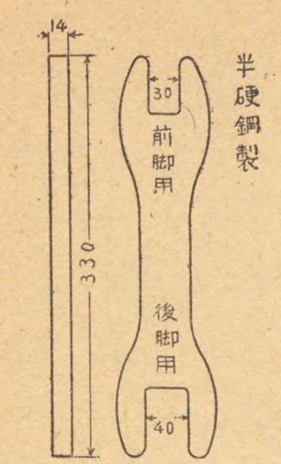
第七師　九二式重機關銃用工具

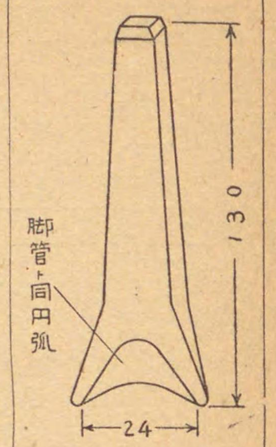
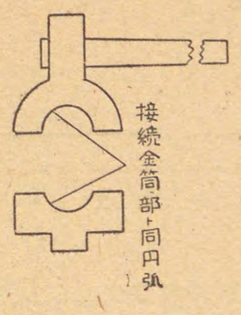
名稱	形狀及構造	用途及用法	使用上ノ注意
打殼拔		用途 爪部ハ藥室内ニ殘留セル藥莢ヲ抽出スルニ用ヒ基部ハ抽筒子及閂子結合子等ノ分解竝ニ規整子回シニ用フ	
藥莢挾		用途 實包或ハ打殼藥莢等、尾筒内室ニ落下シタル際之ヲ摘出スルニ用フ	

名稱	形狀及構造	用途及用法	使用上ノ注意
緊定管分解器		用途及用法 ねじ部ヲ緊定管ノ頭部ニねじ込ミ緊定管ノ緊定ヲ緩解シ把部ヲ以テ緊定管ヲ抽脱ス又把部一端ノ小突筍ヲ有スル圓孔ハ銃口端ノ凹部ト吻合セシメ銃身ヲ戻回シ他端ノ蟹目ハ齒孤轉輪ノ分解結合ニ用フ	

緊定管抑ヘねぢ分解器	薬莢抜
	
用途及用法 一端腔内ニ斷隔部ヲ有スル部ヲ緊定管分解器ノ斷隔部ニ吻合セシメ他端内腔ノ六角形部ヲ緊定管抑へねじ嵌装シ之ヲ分解又ハねじ込ムニ用フ	

規ねじ正子「ガス」及誘導桿轉	萬能鋏	撃茎抜
棒鋼第五種製 	棒鋼第三種製 	棒鋼第五種製 
用途 一端ハ規正子ヲ他端ハ「ガス」誘導ねじヲ分解及結合スルニ用フ 轉桿ハ栓抜ノ用ヲモ兼ヌ	用途 鋏、鎚、ねじ回及薬莢抽出ノ諸用ニ供ス	用途 圓筒撃針孔ニ折損セル撃針殘留セル際之ヲ抽出スルニ用フ

三脚架接續金軸孔眞金	三脚架接續金 同
	
用途 接續金前(後)脚軸孔ノ修正ニ用フ 用法 前(後)脚軸孔ニ挿入シ外部ヨリ槌打シ動搖ヲ加修ス	用途 接續金ト接續金孔ヲ一致セシメルタメ接續金ヲ同スニ用フ 用法 脚ヲ萬力ニ嵌ヘ接續金ノ平面部ニ挿入シ鋲孔ヲ一致セシム

三脚架接續金鉸がたねじ	三脚架接續金用丸へし
	
用途 接續金ト脚管トノ輕微ナル動搖ノ修正ニ用フ 用法 接續金端末ヲかしむ	用途 接續金ト脚管ノ動搖大ナル場合ノ修正用 用法 脚ヨリ接續金ヲ分解シ接續金筒部ヲ壓縮セシム

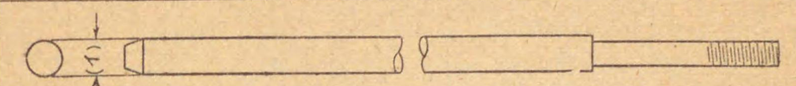
第三章　檢査用具ノ名稱及用法

第一節　共通檢査具

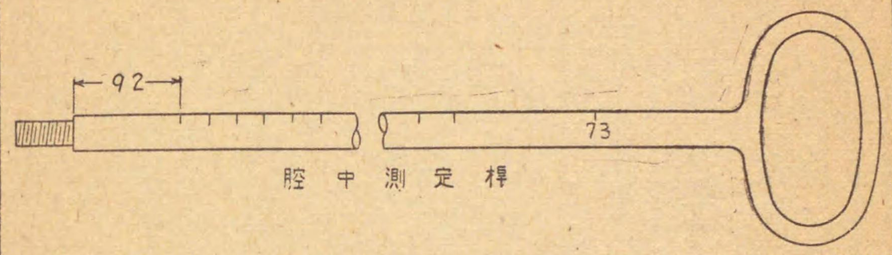
第六十三　共通檢査具ノ名稱、形狀、構造、用途及用法左ノ如シ

名稱	形狀及構造	用途及用法	取扱上ノ注意

腔中模範及腔中測定桿



腔中模範



腔中測定桿

腔中模範外徑(イ)ノ寸法ニヨリ左ノ區分アリ
口徑七・七耗用
七・七三模範
七・七五模範
七・七七模範
七・八〇模範
口徑六・五耗用
六・五三模範
六・五五模範
六・五七模範
六・六〇模範
腔中測定桿ハ鋼製ニシテ七三〇等分ノ目盛ヲ刻ス
目盛ノ單位ハ耗ナリ

用途及用法

腔中、磨滅ノ程度ヲ測定スルニ用フ

腔中測定桿ニ腔中模範ヲ裝著シタル後小銃ニ在リテハ尾筒後端又ハ銃口前端ヨリ機關銃ニ在リテハ前端ヨリ挿入シ其挿入シ得ル寸度ヲ測定シテ腔中磨滅ノ程度ヲ判定ス

全磨小　六・五耗以下ノモノ

全磨中　一
全通シ　六・五七耗模範
全通セザルモノ　六・五五耗模範
全通セザルモノ　六・五三耗模範

全磨大　一
全通シ　六・七〇耗模範
全通セザルモノ　六・六〇耗模範
全通セザルモノ　六・七七耗模範

全磨特　一
全通スルモノ　六・八〇耗模範

偏磨良　一〇進入耗以下ノモノ
偏磨小　六・六〇耗模範ノ一〇進入以上三〇耗以下ノモノ
偏磨中　二
六・七〇耗模範ノ一〇進入以上一〇耗以下ノモノ
偏磨大　二
六・八〇耗模範ノ三〇進入以上三〇耗以下ノモノ

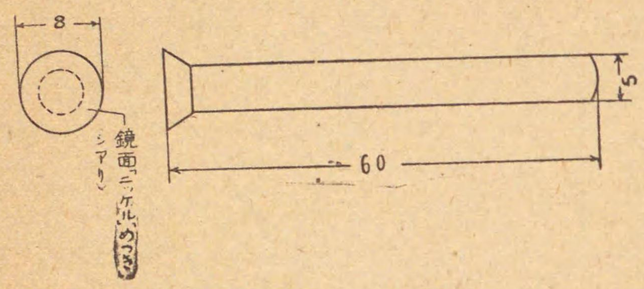
一　使用前ニハ銃ノ腔中及腔中模範ハ清拭シ薄ク「スピンドル」油ヲ塗施スルコト

二　他物ニ擊突セザル樣徐ロニ挿入スルヲ要ス

三　銃口部ヨリ挿入スル場合ニハ特ニ銃口附近ニ擊突セシメル如ク鄭重ニ取扱フヲ要ス

四　測定桿ハ屈曲セルモノヲ其ノ儘使用セズ修正スベシ

藥室檢査鏡



用途

主トシテ小銃藥室ノ程度及疵痕等ヲ檢査スル際藥室內ニ挿入シ光線ヲ反射セシメテ照明シ檢査ヲ容易ナラシムルニ用フ

用法

藥室內ノ油ヲ清拭シタル後銃口ヲ下ニシテ尾筒ノ裝塡口（機關銃銃身ニアリテハ、銃身ヲ分解シタル後藥室後端）ヨリ桿部ヲ下ニシテ徐ロニ挿入シ入射光線ヲ反射セシメ藥室內ヲ照明シテ藥室ノ程度ヲ判定シ又ハ疵痕等ノ發見ヲ容易ナラシム

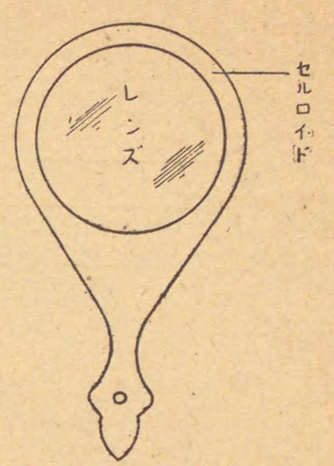
使用後抽出スル際ハ尾筒ノ裝塡ニ掌ヲ當テ銃ヲ仰向ケニシテ徐ロニ銃床ヲ下ゲテ掌上ニ受クルモノトス

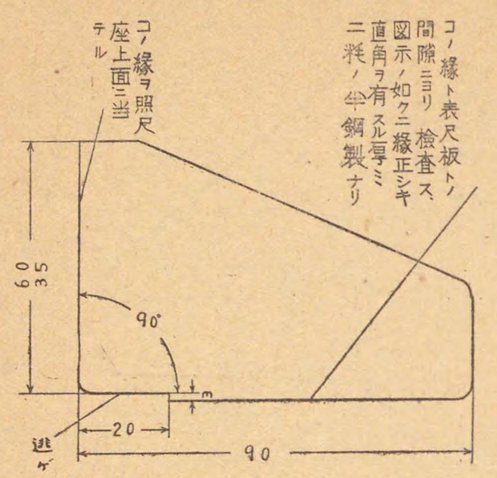
一　鏡面ヲ保護シめつきノ剝脫又ハ疵ヲ生ゼザル樣ニ注意スベシ

二　操作亂暴ナルトキハ往々檢査銃ヲ取落スコトアルヲ以テ徐ロニ行フベシ

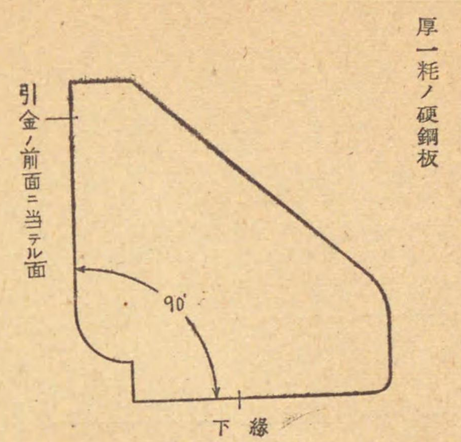
第二節　小銃用検査具

第六十四　小銃用検査具ノ名稱、形狀、構造、用途及用法左ノ如シ

名稱	形狀及構造	用途及用法	使用上ノ注意
擴大鏡		**用途** 主トシテ部品檢査ノ際龜裂等ヲ擴大シテ檢出スルニ用フ **用法** 檢査部品ヲ目ヨリ約二十糎離シテ左手ニ保持シ右手ニ擴大銃ヲ持チテ始ハ部品ノ近クニ置キ次第ニ目ノ近クニ移動シテ像ヲ最モ明瞭ニ見得ル位置ニ止メテ檢査ス （焦點ニ合セテ像ヲ明瞭ニ見ルコト）	一「レンズ」ヲ破損セザルコト 二「レンズ」ニハ油ヲ附着セシメザルコト 三「レンズ」ニ油ヲ附着セシメタルトキハ「テレピン」油ニテ拭淨スベシ

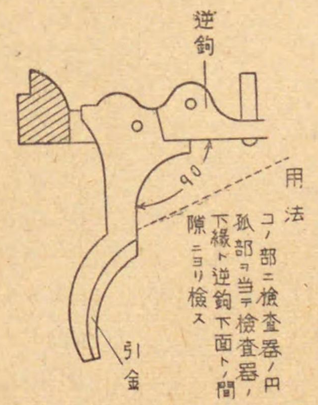
名稱	形狀及構造	用途及用法	使用上ノ注意
小銃表尺板直角檢査器		**用途** 小銃ノ表尺ヲ起立セシムルトキハ照尺座ニ對シ直角ニ正立シ得ルヲ要スルモノナリ本器ハ其ノ檢査具ナリ **用法** 遊標ヲ最下位ニ置キ表尺ヲ起立セシメタル後檢査器ノ下縁ヲ照尺座上ニ當テ後縁ト表尺トノ間隙ノ有無ニ依リ檢ス	檢査ノ基準トナルベキ縁ニ打痕又ハ反起ヲ生ゼシメザルコト

小銃引金逆鉤取附角度檢査器



用途

小銃引金又ハ逆鉤ヲ交換セルトキ兩者ノ取附角度ハ九〇度ナルヲ要スルモ引金ノ下面ハ圓削セラレアルヲ以テ曲定規等ニヨリ檢査シ得ザルヲ以ツテ本檢査器ヲ用フ

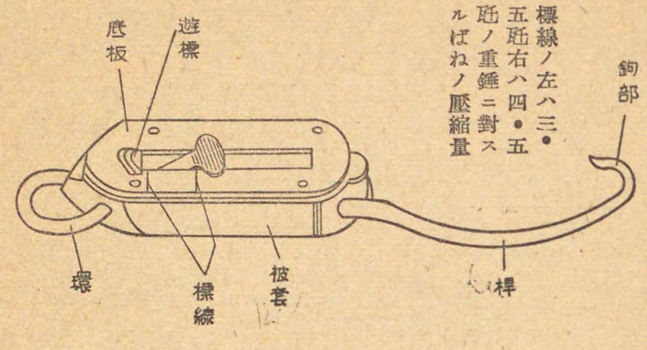


用法

コノ部ニ檢査器ノ凹孤部ヲ当テ檢査器ノ下縁ト逆鉤下面トノ間隙ニヨリ檢ス

引金ニ當テル縁ハ正確ナルヲ要ス

小銃引金强度檢査器



用途

小銃ノ引金ノ强サヲ判定スルニ用フ

用法

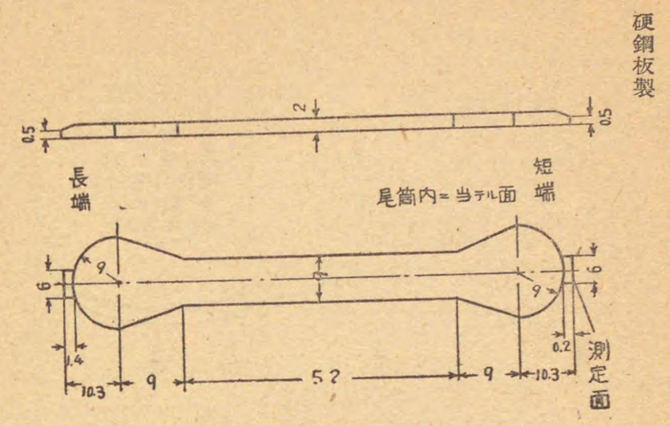
小銃ヲ擊發裝置トナシ桿ノ鉤部ヲ引金ニ鉤シ環ニ中指ヲ入レテ銃把部上縁ニ平行スル方向ニ引張リ擊發セルトキノ遊標ノ位置ニヨリ擊發セシムルニ要スル力ノ强弱ヲ知ル遊標ノ停止位置ガ二標線間ニアルモノハ良好ナリ

一　指ニテ引張ル方向ヲ銃把ノ上縁ニ平行セシメザル時ハ强サヲ正確ニ判定シ得ズ

二　使用前ニハ遊標ハ左端ニ置クコト

三　内部ノばねハ衰損スルヲ以テ時々重錘（三・五瓩ノモノ及四・五瓩ノモノ）ヲ鉤部ニ吊シテ標線ノ位置ヲ點檢又ハ修正スルヲ要ス

小銃逆鉤高度檢査器



用途

修理小銃ニ對シテ引金ヲ引キタルトキト引カザルトキノ逆鉤ノ高サヲ檢査スルニ用フ

用法

引金ヲ引カザルトキハ短端ノ圓孤部ヲ尾筒内面ノ圓削部ニ當テタルトキ短端ノ下緣ガ逆鉤上面ト輕ク接スルヲ可トス次ニ引金一段引キタルトキ長端ヲ同要領ニヨリ當テ逆鉤上面ト輕ク接スレバ可ナリ接セザルモノ(過低及過高)ハ共ニ不可ナリ

引金ヲ引カザルトキ

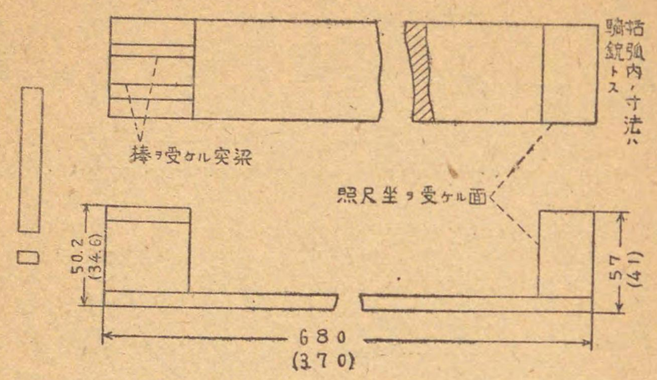
尾筒内面ヨリ〇・二—〇・三糎

一段引キシトキ一・四—一・五糎

逆鉤頭降下スルヲ可トス

測定面及圓孤部ニ痕、反起等ヲ作ラザル樣注意スルヲ要ス

小銃照星座照尺座平行檢査器



用途

小銃ノ照星座又ハ照尺座ノ中何レカヲ交換セル際兩者ノ上面ヲ平行セシムルヲ要スルヲ以テ本器ニヨリ之ヲ檢査ス

用法

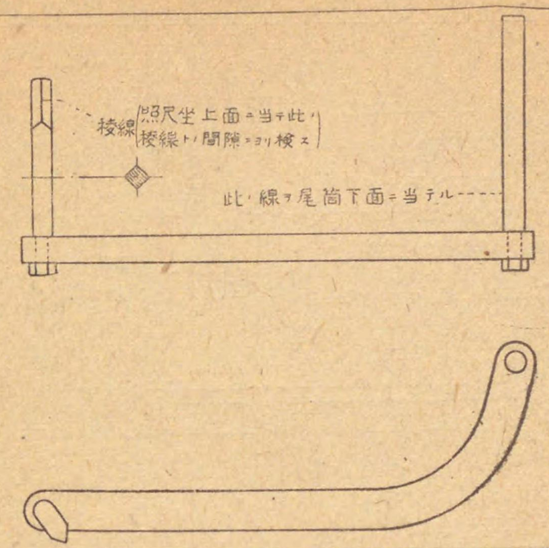
表尺及照尺ばねヲ除キタル照尺座ヲ高キ臺上ニ照星ヲ除キ照星座ノ照星脚室ニ棒ヲ挿入セル照星座ヲ低キ臺上ニ載セ手ニテ輕ク動カシテ動搖ノ有無ニヨリ平行ヲ檢査ス

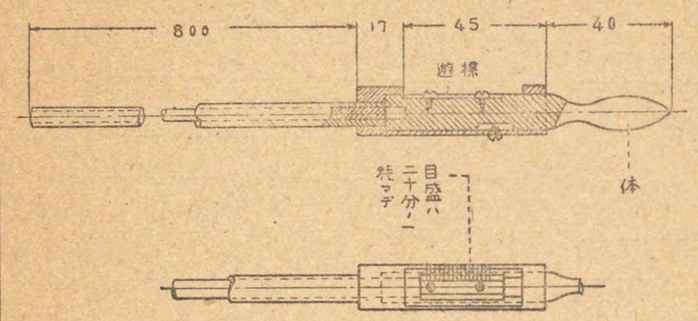
平行ナルモノハ安定ニシテ動搖ス

照星座又ハ照尺座ニ反起ナキヲ確カムルヲ要ス

第三節　機關銃用檢査具

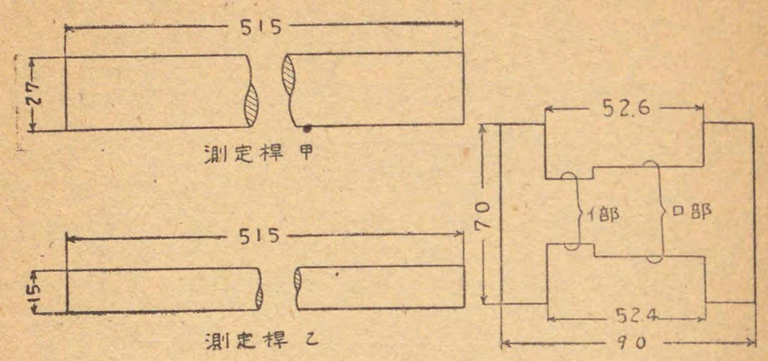
第六十四　機關銃檢査具ノ名稱、形狀、構造、用途及用法左ノ如シ

名稱	小銃尾筒結合檢査器
形狀及構造	
用途及用法	用途 銃身ト尾筒ノ何レカヲ交換セル際尾筒ノ抽筒子室ノ取附角度ヲ決定スルニ用フ 用法 圓桿ヲ尾筒下面ニ密著シテ基準トナシ稜線ト照尺座上面トヲ接シタルトキ間隙ナキハ可ナリ
使用上ノ注意	圓桿ヲ尾筒下面ニ密著セシムル際傾キ易キヲ以テ確實ニ接觸セシムルヲ要ス

名稱	擊莖突出寸法檢査器
形狀及構造	
用途及用法	用途 機關銃ノ擊莖突出量ハ圓筒、門子、活塞及擊莖等ノ相互關係ニヨリテ定マルモノニシテ、遊底ヲ分解セル際ニ於テハ正確ナル測定ヲナシ得ザルモノナルヲ以テ、擊發狀態ニ於テハ本器ニヨリ檢査ス 用法 左手ニテさやヲ支持シ右手ニ體ヲ握リテ銃口ヨリ徐々ニ挿入シ前端ガ圓筒包底面ニ接スレバさやヲ支持セル儘ニテ體ヲ壓シ遊標ノ目盛ヲ讀ム 看讀法ハ遊標尺ニ同ジ
使用上ノ注意	一　操作ハ愼重ニスベシ 二　使用前さやノ外面ハ清拭スルヲ要ス

十一年式輕機關銃放熱筒「ガスポンプ」平行測定器

板定測



用途

放熱筒ト「ガスポンプ」中何レカヲ交換セル時、又ハ「ガス」漏ニ對シ「ガスポンプ」ニ增肉修理ヲ實施セル際ハ放熱筒ト「ガスポンプ」トノ軸心ハ互ニ平行スルヲ要スルモノナルヲ以テ本器ニヨリ檢査ス

用法

測定桿甲ヲ放熱筒ニ測定桿乙ヲ「ガスポンプ」ニ夫々挿入シ桿ノ兩端ヲ前後ニ突出セシム次デ測定板ノイ部ヲ測定桿甲ニロ部ヲ測定桿乙ニ向フ如ク嵌合シ大極又ハ小極ニテ兩端トモ輕ク嵌合シ得ルマデ「ガスポンプ」ノ放熱筒嵌合部ヲ摺合ハス

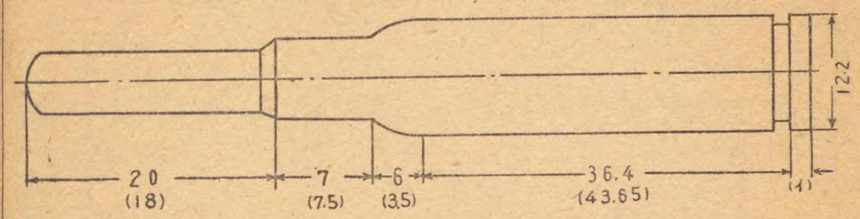
一　測定桿ヲ挿入スル前ニハ放熱筒及「ガスポンプ」ノ内部ヲ清拭スルコト

二　測定桿ハ清拭シタル後使用スルモノトス

範　模　緣　起

範模緣起銃關機輕式年一十

○四、一、範模五三、一範模○三、一リヨニ法寸ノ(イ)部緣起テシニ製鋼硬リア種三ノ範模五四、一



(イ)	1.30
	1.35
	1.40
	1.45

(スト用銃關機重式二九ハ法寸内弧括)

用途

起緣室寸法ヲ檢査スルニ用フ

用法

一　準備

イ　槓桿ばね、抽筒子、抽筒子ばね及擊茎ヲ取除キテ銃尾機關ヲ結合ス

ロ　裝塡架ヲ取除ク

ハ　槓桿ヲ引キ活塞ヲ遊鉤ニ鉤止ス

ニ　模範ヲ蹴出口ヨリ藥室ニ挿入ス

二　引鐵ヲ引キ輕ク擊發ヲ行フ

三　槓桿ヲ手ニテ引キ其ノ抵抗ニヨリ次ノ判斷ヲ下ス

一、三〇粍模範……槓桿十分ナル適度ナル抵抗ヲ感ズルハ可ナリ

一、三五粍模範……槓桿ニ抵抗ヲ感ズルハ可ナリ

一、四〇粍模範……槓桿ニ强ク抵抗ヲ感ズルハ可ナリ(要スレバ槓桿ヲ槌打スル强度)

一、四五粍……槓桿ニ抵抗ナキハ修理ヲ要ス

一　模範ハ藥室ニ挿入スルモノナルヲ以テ特ニ打痕反起等生ゼザル樣注意スベシ

二　使用前清拭スルヲ要ス

三　藥室ニ異物(塵埃ペトロラタム等)アルトキハ檢査不正確ナリ

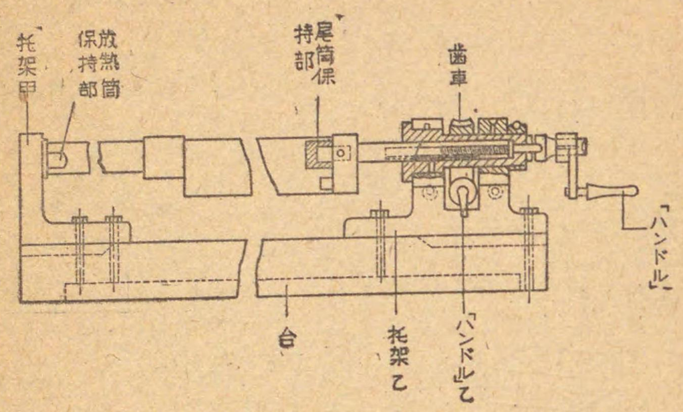
四　門子受、門子、圓筒等ニ反起ナク活塞ハ軋ラザルヲ要ス

五　模範ヲ藥室ニ挿入セル後銃尾ヲ下グルトキハ模範ハ抽出シ來ルコトアルヲ以テ注意ヲ要ス

六　抽出スル際ハ模範底面ノ孔ニ徑約一、五粍ノ軟鋼線等ヲ挿入シテ徐カニ抽出セバ落下セシムルコトナシ

七　抽筒子、抽筒子ばねノ離脫ヲ忘ルル時ハ模範ヲ缺損ス

十一年式輕機關銃尾筒放熱筒心出器



用途

尾筒又ハ放熱筒ノ中何レカ一方ヲ修理交換セル際、兩者ノ中心軸ハ一直線ヲ爲スベキモノナルヲ以テ本器ニヨリ檢ス

用法

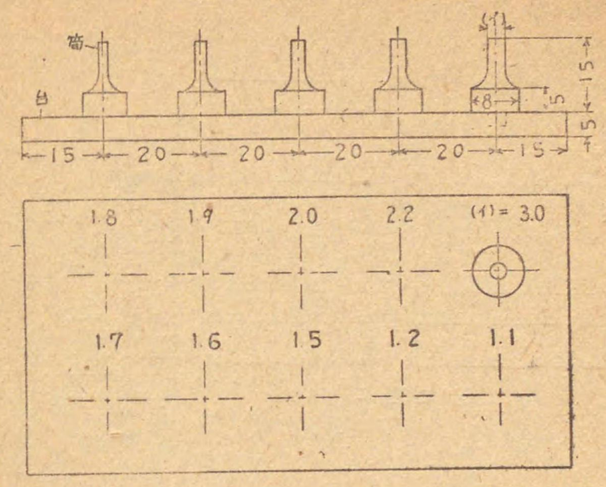
「ガスポンプ」ヲ除キタル放熱筒ト附屬品ヲ除キタル尾筒トヲ結合シタル後、放熱筒保持部ニ裝シタル後「ハンドル」甲ヲ廻シテ尾筒保持部ヲ左行セシメテ尾筒ノ內室ニ嵌合シ尾筒ガ左右ニ動搖セザル程度ニ「ハンドル」甲ヲ廻シタル後「ハンドル」甲ヲ抽脫ス

次デ「インヂケーター」ヲ放熱筒後方圓筒部ノ前方ニ當テ「ハンドル」乙ヲ廻シテ放熱筒ヲ旋回シ「インヂケーター」ノ目盛ヲ讀ミ公差±一〇（±〇一粍ヲ意味ス）ヲ誤差ガ公差以上ヲ示スモノニ對シテハ、十ノ最大部位ヲ計器ノ〇ニ合セ—一〇ニ到ルマデ修理セバ測定容易ナリ

「インヂケーター」用法

臺ニ取付ケ定盤上ヲ摺動セシメ又ハ物體ヲ回轉シテ指針ノ檢査品ヲ檢査器ニ取付ケタル時ハ動搖セザルヲ要ス其ノ爲尾筒內面ニハ上下平等ニ薄キ坐板ヲ使用スルコトアリ

十一年式輕機關銃「ガス」漏孔檢査器



寸法公差±1/100トス

寸法 (イ)= 1.1 1.6 1.9 3.0 1.2 1.7 2.0 1.5 1.8 2.2

用途

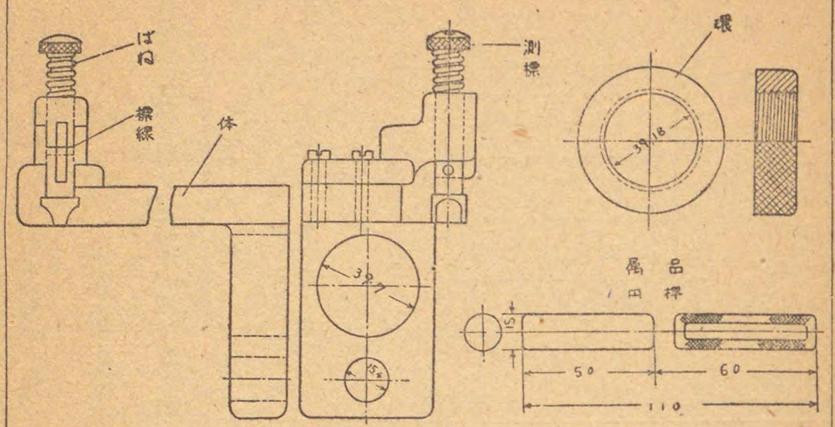
規整子ノ「ガス」漏孔ハ火藥「ガス」ノタメ擴大セラレテ「ガス」壓過大ヲ生ズルニ到ルヲ以テ時々檢査器ヲ用ヒテ漏孔ノ徑ヲ測定シ「ガス」壓過大ヲ防止スルニ供ス

用法

規整子ノ「ガス」漏孔ニ檢査器ノ筒ヲ逐次挿入スルコトニヨリ檢ス

筒ノ上端ニ打痕反起等ヲ作ラザル樣注意スベシ

十一年式輕機關銃照尺座取付檢査器



用途

照尺座交換作業ノ際座ノ上面ト尾筒上面トハ平行ナルヲ要スルヲ以テ本器ニヨリ檢ス

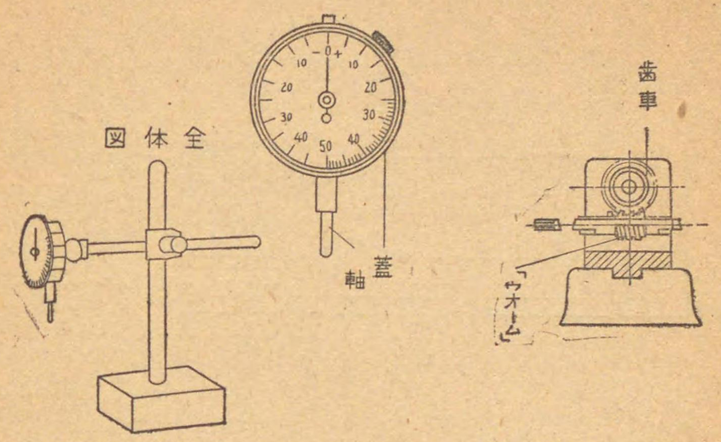
用法

放熱筒ヲ分解セル尾筒ノねじ部ニ環ヲ嵌裝シタル後、檢査器ノ大孔ヲ環ニ嵌合ス

次ニ小孔ヨリ尾筒ノ活塞通路ヘ圓桿ヲ挿込ミ檢査器ヲ尾筒ニ裝著ス次デ測桿ヲ上方ヨリ靜カニ壓下シテ測桿ノ下緣ト照尺座トノ間隙ニヨリ座ノ傾キヲ點檢ス

測桿ヲ壓下スルニハ徐ロニ操作スベシ

十一年式輕機關銃尾筒放熱筒心出器

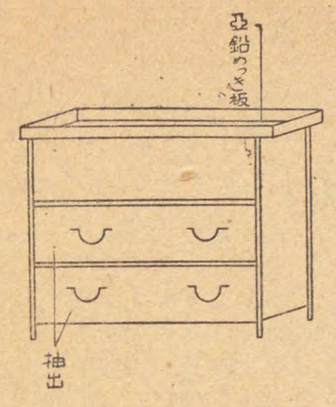


「フレ」ニヨリ面ノ平滑度ヲ測定ス軸ヲ物體ニ接セシメタル時ハ蓋ヲ回轉シテ蓋ノ〇ト指針トヲ圖ノ如ク正對セシム

第四章　保存手入用具ノ名稱及用法

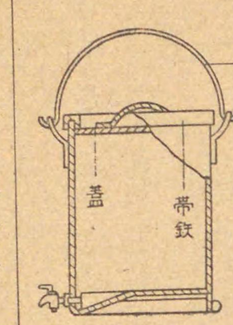
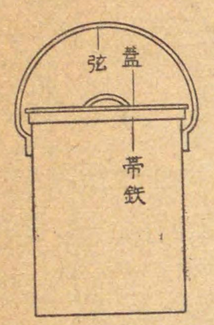
第一節　兵器手入臺

第六十五　兵器手入臺ノ形狀、構造、用途及用法左ノ如シ

形狀及構造	木製ノ平板又ハ机ニシテ必要ニ應ジ上面ヲ亞鉛めつき鐵板張リト爲シ通常周圍ニ緣ヲ附ス 
用途及用法	兵器ノ分解結合及保存手入ヲ爲スニ用ヒ抽出ヲ附シアルモノハ分解セル部品ヲ收納スルモノトス
使用上ノ注意	兵器ノ轉落損傷等ヲ防グヲ要ス

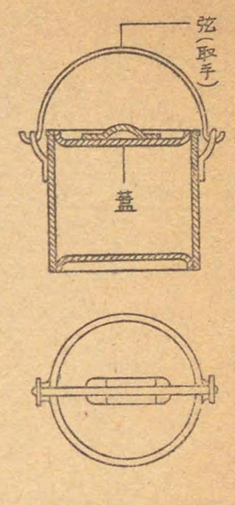
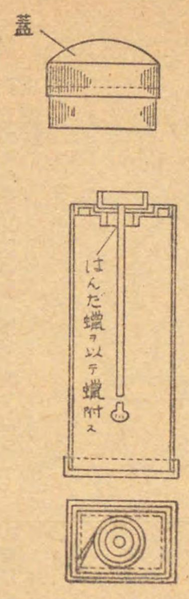
第二節　油罐

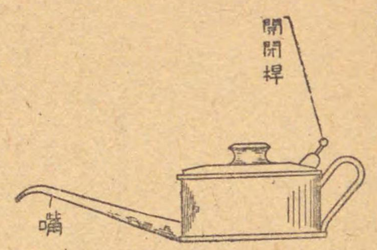
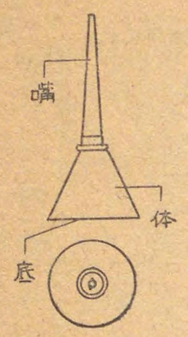
第六十六　各種油罐ノ名稱、形狀、構造、用途及用法左ノ如シ

名稱	形狀及構造	用途及用法	使用上ノ注意
油小出罐(甲)	徑約四〇糎高サ四二糎ノぶりき製圓罐ニシテ「コツク」ヲ附ス  	液狀油(「スピンドル」、種油等)ヲ入レ之ガ小出ニ用フ	「コツク」及「コツク」取附部完全ナルヲ要ス
油小出罐(乙)	(甲)ト略同樣ナルモ「コツク」ヲ附セズ  	固體及半固體油(ペトロラタムワセリン)等ヲ入レ之ガ小出ニ用フ	

第三節　油差

第六十七　各種油差ノ名稱及構造、用途及用法左ノ如シ

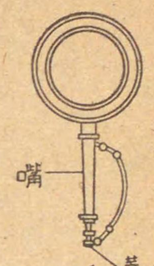
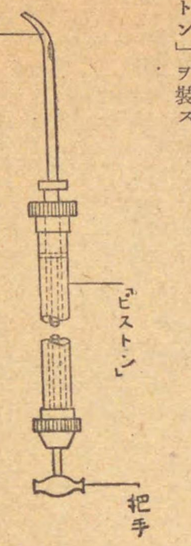
名稱	形狀及構造	用途及用法	使用上ノ注意
「ペイント」容器	徑高サ共ニ約一五糎ニシテ「ぶりき」製圓罐ナリ  	「ペイント」ヲ入レ之ガ小出ニ用フ	
油入	ぶりき罐ニシテ徑六〇糎高サ二五糎ナリ  	手入用油ヲ入レ携行スルニ用フ	

名稱	形狀及構造	用途及用法	使用上ノ注意
鶴頸形油差	通常亞鉛めつき軟鋼製又ハ黃銅製ナリ、市井販賣品ニシテ大小種々アリ  	嘴ノ先端ヲ注油部ニ當テ開閉桿ヲ壓下シツツ注油ス	
漏斗形油差	通常錫めつき極軟鋼製又ハ黃銅製ニシテ體ト嘴トハ黃銅ノねじヲ以テ裝脫シ得、市井販賣品ニシテ大小種々アリ  	嘴ヲ螺脫シテ油ヲ收容ス、使用ノ際ハ體ノ兩側ヲ食指ト中指トノ間ニ挾ミ拇指ニテ底ヲ壓シツツ注油ス	ねじ部ニ破損ヲ生ゼズ且變形セシメザルコトニ注意スベシ

工具　保存手入用具ノ名稱及用法

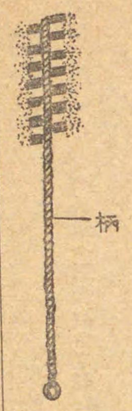
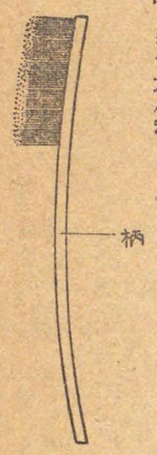
第四節　注脂器

第六十八　油脂器ノ形狀、構造、用途及用法左ノ如シ

圖形油差	形狀及構造	用途及用法	使用上ノ注意
 通常黃銅製ニシテ體ト嘴トねじヲ以テ裝脱シ得接續部ニハ革環ヲ附シ又先端ハ蓋螺ヲ以テ油ノ漏洩ヲ防グ、市井販賣品ニシテ大小種々アリ	 注脂器ハ一般ニ黃銅又ハ青銅製ニシテ體ノ內部ニ「ピストン」ヲ裝ス	用途 通常給脂困難ナル箇所又ハ回轉速度大ナル箇所ニ注脂スルニ用フ 用法 注脂器ヲ用フルニハ蓋ニ防擦脂ヲ塡充シテ之ヲ體ニ螺著シ壓入ス	嘴ヲ螺脱シテ油ヲ收容ス、使用ノ際ハ體ノ兩側ヲ指頭ヲ以テ壓迫シツツ注油ス

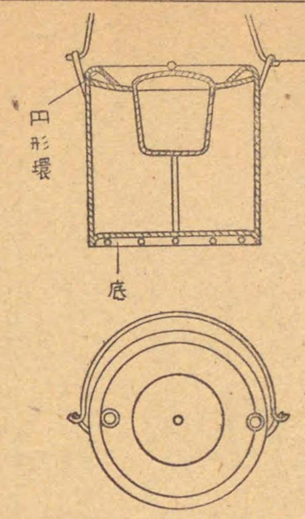
第五節　刷毛

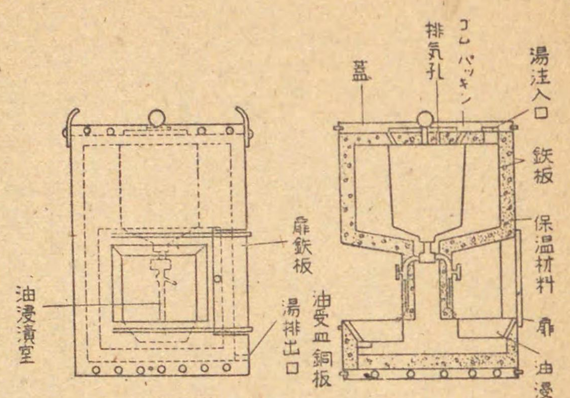
第六十九　各種刷毛ノ名稱、形狀及構造、用途、用法左ノ如シ

名稱	形狀及構造	用途及用法	使用上ノ注意
藥室塗油刷毛	 黃銅線ニ馬毛ヲ挾ミテ捻合セタルモノニシテ柄部ハ必要ニ應ジ屈曲セシム	小銃、機關銃等ノ藥室尾筒ノ塗油等ニ用フ	刷毛ノ損耗シタルモノヲ用フル時ハ兵器ヲ毀損セシムルヲ以テ注意ヲ要ス
掃除刷毛	 黃銅線ニ馬毛ヲ挾ミ捻合セルモノニシテ大サニ依リ種々ナリ	車輪ノ「ボス」筒其ノ他空洞部ノ手入等ニ用フ	
竹刷毛	 竹製ノ柄ニ獸毛ヲ植立シタルモノニシテ市井販賣品トシテ大小種々アリ	兵器ノ塗油及塵埃等ヲ除去スルニ用フ	

第六節　油煎器

第七十　各種油煎器ノ名稱、形狀、構造、用途、用法左ノ如シ

名稱	形狀及構造	用途及用法	使用上ノ注意
油煎器甲	二重鍋ノ複温式ニシテ外鍋ハ亞鉛めつき鋼板トシ油鍋ト蓋ハ銅製トス  	用途 密蠟「ペトロタラム」「ワセリン」等ノ固體及半固體ノ油脂ノ熔融保温等ニ用フ 用法 油槽ニ油ヲ容レ湯注入口ヨリ熱湯ヲ注入スルトキハ油ハ漸次熔解スルヲ以テ使用ニ應ズル量ヲ「コツク」ヨリ油受皿ニ流出シテ使用スルモノトス	一　油ハ終日交換スルヲ要セズ 二　直接炭火等ニテ加熱スルハ止ムヲ得ザルトキノ外避クベシ

油煎器乙			
	 	一　圓筒罐ノ内部ニ湯槽及油槽ヲ兩外側下部ハ兩側ニ相對向セル油浸漬室ヲ成形シ油受皿ヲ入ル上方ニハ湯ノ注入及排出口ヲ具ヘ又油槽蓋ニ排氣孔ヲ開鑿ス 二　器ノ外壁ハ厚ミ約一粍ノ鐵板トシ湯槽トノ間ニ保温材料ヲ充塡シ鋲止トス 三　油槽ハ厚ミ〇、八粍ノ銅板製トシ銅管ヲ通ジテ油受皿ニ脂油ヲ流出セシメ銅管中央ノ「コツク」ニ依リテ其ノ量ヲ加減ス	油煎器甲ニ同ジ

工具　保存手入用具ノ名稱及用法

四　湯槽ハ厚ミ約一粍ノ鐵板製トシ上部及下部ハ鋲止其ノ他ハ「ガス」熔接トス

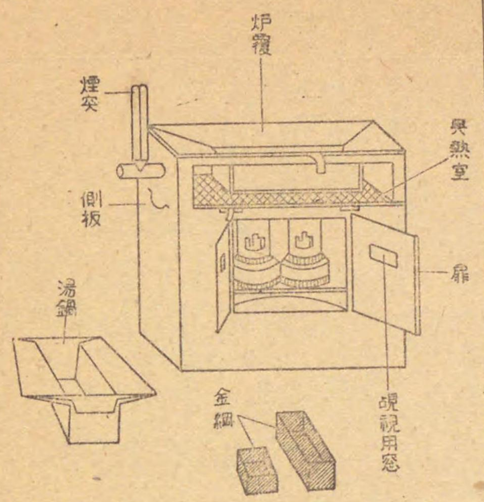
五　保温材料ハ「アスベスト」「ボイラーフェルト」「フェルト」「コルク」等トス

六　油浸漬室ニハ鐵板製扉ヲ附ス

第七節　脂油與熱器

第七十一　脂油與熱器ノ形狀及構造用途及用法左ノ如シ

形狀及構造



用途及用法

用途

塗油スベキ兵器ヲ與熱シ又ハ油ヲ熔融スルニ用フ

一　塗油スベキ兵器ヲ與熱スルニハ兵器ヲ金網ニ入レ與熱室ニテ熱ス

二　油ヲ熔融スルニハ之ヲ湯鍋ニ入レ與熱室ニテ熱ス

三　「ペトロラタム」ヲ塗施スルニハ兵器ヲ熔解セル「ペトロラタム」ニ浸漬シ又之ヲ刺眈スルニハ兵器ヲ加熱セル「スピンドル」油中ニ浸漬シテ溶解除去ス

使用上ノ注意

一　「ペトロラタム」ハ直火ヲ以テ過度ニ加熱スルトキハ油質ヲ損スル虞レアルヲ以テ「スピンドル」油ヲ容レタル油鍋中ニ「ペトロラタム」ヲ容レタル油鍋ヲ容レ「スピンドル」油ノ傳熱ヲ利用シテ加熱スルヲ可トス

直火式ニシテ爐、爐覆、湯鍋、與熱裝置石油焜爐金網等ヨリ成ル

一　爐ハ厚ミ約三粍ノ鐵板製ニシテ前面ニ扉ヲ附シ內部ニハ焜爐臺トシテ鐵板製棚ヲ設ク又外側板上部ニ煙突ヲ下部ニ吸氣孔ヲ設ク

二　爐覆ハ厚ミ一、五粍ノ漏斗型銅板製トス

三　油鍋ニ大、中、小ノ三種ヲ設ク

四　與熱裝置、爐內ニ鋼網ヲ敷キ扇ヲ具フ

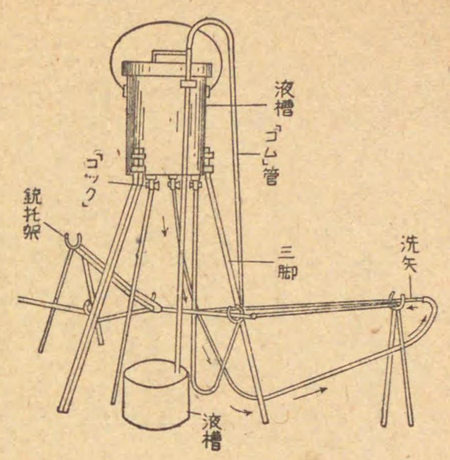
五　石油焜爐ハ市井販賣ノモノヲ使用ス

六　金網湯鍋ニ入ルルニ適スル如ク大、中、小ニ區分ス

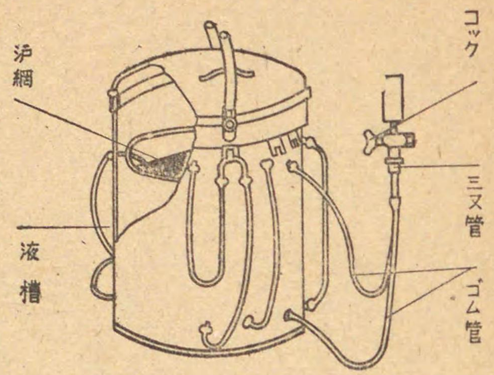
第八節　銃腔洗滌臺及銃托架

第七十二　銃腔洗滌及銃托架ノ形狀、構造、用途及用法左ノ如シ

銃腔洗滌臺　甲

名稱	形狀及構造	用途及用法	使用上ノ注意
銃腔洗滌臺 甲	要部ハ鐵製ニシテ液槽、三脚、「ゴム」管、洗矢、液溜及托架等ヨリ成ル  	用途 屯營ニ於テ射擊後ニ於ケル銃ノ手入ニ用フ 用法 一　下面ノ「コック」ヲ開ケバ液ハ「ゴム」管及洗矢ノ内部ヲ通リ絶エズ洗矢ノ端末ヨリ流出スルヲ以テ洗矢ニ洗頭ヲ裝シ腔中ヲ進退シ洗滌ヲ行フ 二　三脚ハ折疊ミ洗矢ハ架ニ懸クルモノトス	「コック」ヲ開キタルママ置カザルコト及「ゴム」管ノ保存ニ特ニ注意スベシ

銃腔洗滌臺　乙

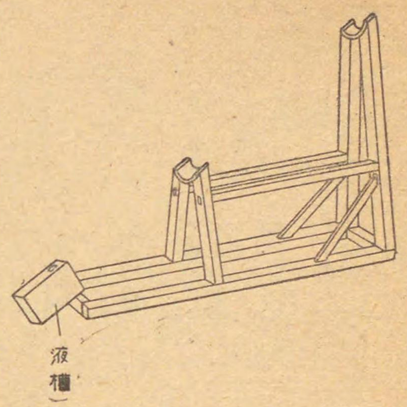


一　液槽三叉管及連接「ゴム」管ヨリ成ル
二　液槽ハ薄鐵板ノ罐ニシテ周圍數箇所ニ上下相應ズル二箇ノ小管アリ、下方ノモノハ洗滌液ヲ液槽ヨリ銃口部ニ送リ上方ノモノハ汚液ヲ槽内ニ還送スルノ用ニ供ス、槽内上方小管ノ稍下方ニ金屬製濾網ヲ裝ス
三　三叉管ハ幹部ニ「コック」ヲ備ヘ下方兩端末ニハ方向相反スル鋼球辨ヲ取附液ノ流レヲ規正ス
四　リ、大管ハ三叉管ノ幹部ト銃口ヲ連結シ小管ハ三叉管兩端末ト液槽ノ上下相應ズル二管トヲ連結ス

用途
屯營ニ於テ手入臺(イ)ト併用シ腔中ノ洗滌汚液ノ濾過ヲ循環的ニ行ハシムルニ用フ

用法
銃ヲ手入臺ニ托シ連結「ゴム」管ヲ以テ液槽ト銃口トヲ連結シ洗滌液ガ藥室ニ達スル如ク液槽ノ高サヲ調節シ洗頭ヲ裝シタル洗矢ヲ腔中ニ挿入シ之ヲ進退シテ洗滌ヲ行フ

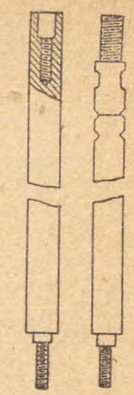
爐網「ゴム」管及「コック」ノ機能ニ注意シ常ニ完全ナラシムベシ

銃腔洗滌臺丙	銃托架
 鐵板製ニシテ洗滌臺及液槽ヨリ成ル洗滌臺ハ支板ニヨリ屈折シ折疊ムコトヲ得	木製ニシテ銃ヲ托スベキ弧形部ヲ附シ且銃ノ安定ヲ保チ擦傷ヲ防グ爲弧形部ニ絨布又ハ革ヲ貼付ス
用途 屯營ニ於テ銃腔ノ洗滌ニ用フ 用法 液槽ニ洗滌液ヲ容レ銃口ヲ液ニ浸漬シ銃ヲ手入臺ニ托シ洗頭ヲ裝シタル洗矢ヲ腔中ニ挿入シ之ヲ進退シテ洗滌ヲ行フ	小銃ノ分解結合、手入等ニ際シ銃ヲ依托スルニ使用ス

第九節　銃腔洗矢

第七十三　各種銃腔洗矢ノ名稱、形狀、構造、用途及用法左ノ如シ

名稱	頭部旋回式洗矢	握部旋回式洗矢
形狀及構造	一　桿ハ徑六粍ノ黃銅線又ハ銅或ハ「セルロイド」被覆鋼線製ニシテ長サ約一米ナリ 二　握部ハ環狀ヲ爲シ先端ニハ鋼製ノをねじヲ附シ回轉ス 	一　桿ハ徑六粍ノ黃銅線又ハ銅或ハ「セルロイド」被覆鋼線ニシテ長サ約一米ナリ 二　握部ニ於テ回轉シ且通常携行ニ便ナル如ク數箇ニ分解シ接續部ニハ鋼製ノ植込式ねじヲ附ス
用途及用法	頭部ニ洗管若クハ洗頭ヲ裝著シ保心筒ト併用シテ銃腔ノ手入ニ使用ス	
使用上ノ注意	屈曲、變歪シ易ヲ以テ注意シテ用ヒ若シ變形シタル時ハ速ニ修正スベシ	

名稱	さく杖
形狀及構造	機關銃類ノ屬品トシテ收入セラルルモノナリ 
用途及用法	夫〻各兵器ノ銃腔又ハ「ガスポンプ」內ノ洗滌手入ニ用フ
使用上ノ注意	

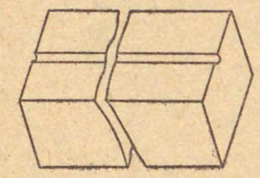
第十節　補足さく杖

第七十四　補足さく杖ノ形狀、構造、用途及用法左ノ如シ

形狀及構造	半硬鋼製ノ直桿ニシテ先端ニハをねじヲ後端ニハめねじヲ刻ス
用途及用法	さく杖ハ兵器屬品洗矢ニ裝シテ銃腔ノ手入ニ用フ
使用上ノ注意	

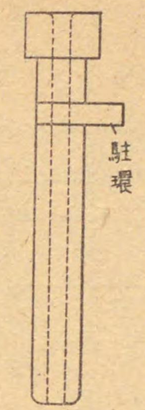
第十一節　洗矢修正臺

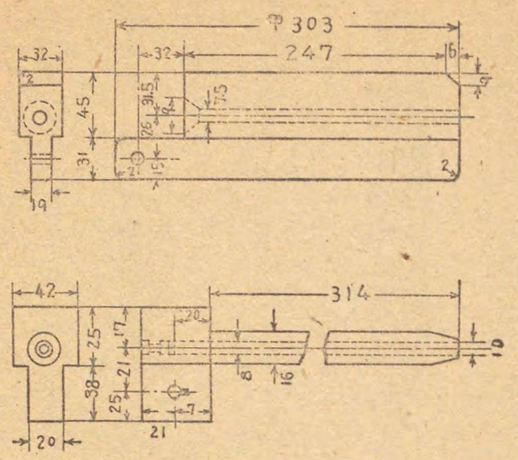
第七十五　洗矢修正臺ノ形狀、構造及用途、用法左ノ如シ

名稱	洗矢修正臺
形狀及構造	堅木ノ方柱體ニシテ上面ニ洗矢ヲ載スベキ半圓ノ溝ヲ有ス 
用途及用法	才槌ト併用シ洗矢ノ屈曲等ヲ修正スルニ用フ
使用上ノ注意	

第十二節　保心筒

第七十六　各種保心筒ノ名稱、形狀、構造、用途及用法左ノ如シ

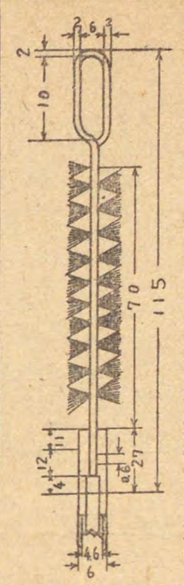
名稱	形狀及構造	用途及用法	使用上ノ注意
小銃用保心筒	堅木又ハ「フアイバー」製ニシテ後端ニ環ヲ附シ其ノ前方ニ突筍ヲ有ス 突筍ハ槓桿室ニ鈎シ環ト相俟テ保心筒ノ中心軸ヲ銃腔軸心ト一致セシメ且洗矢ノ運動ニ伴フ移動ヲ防止ス  	洗矢ヲ以テスル銃腔手入ニ際シ腔中ノ磨滅及偏磨ヲ豫防スルニ用フ	

名稱	形狀及構造	用途及用法	使用上ノ注意
機關銃用保心筒	一 堅木製ニシテ尾筒室内ニ挾裝シ得ル如ク成形シ頭部ハ送彈機室ニ嵌合シ尾筒駐栓孔ニ一致スル孔ヲ有シ使用ニ際シ「ピン」又ハ尾筒底栓ヲ裝シ以テ洗矢ノ運動ニ伴フ動搖ヲ防止ス 二 甲、乙二種アリテ甲ハ九二式重機關銃用乙ハ十一年式輕機關銃用トス  		

第十三節　銃用洗頭及洗管

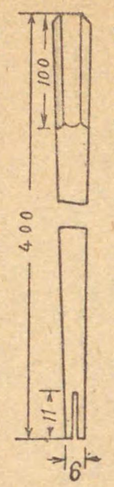
第七十七　銃用洗頭及洗管ノ形狀、構造、用途及用法左ノ如シ

工具　保存手入用具ノ名稱及用法

名稱	形狀及構造	用途及用法	使用上ノ注意
洗滌用洗頭	一 徑二粍ノ黃銅線ニ豚毛又ハ植物纖維ヲ挾ミテ捻合セ螺旋狀ニ植毛シタルモノニシテ頭部ハ楕圓孔ヲ形成シ必要ニ際シ布片ヲ附スルニ用フ 二 植毛部ノ徑ハ植毛密度ノ關係ニヨリ一定セザルモ八一一一粍ヲ適當トス 三 基部ニハめねじヲ有スル徑六粍ノ黃銅線ヲねじ著ス 	銃腔ノ洗滌ニ用フ	植毛ノ毀損セルモノヲ使用スルトキハ銃腔ニ擦痕等ヲ生ズルヲ以テ常ニ完全ナルモノヲ用フル如ク注意スベシ
塗油用洗頭	一 洗滌用洗頭ノ豚毛ニ代フルニ馬尾毛ヲ植毛シタルノミニテ他ハ全ク之ト同一ナリ 二 馬尾毛ハ豚毛ヨリ柔軟ナルヲ以テ塗油用ニ適ス 	銃腔ニ「ペトロラタム」又ハ「ワセリン」等ヲ塗施スルニ用フ	
洗管	一 徑六粍ノ黃銅線ヲねじ狀ニ削リタルモノニシテ基部ハ鋼桿ニ連リ接續部ニ於テ回轉ヲ自在ナラシム 二 基部ニハめねじヲ有シ洗矢頭部ニねじ著シ得 	銃腔ノ拭淨手入ニ布片ヲ卷キ付ケテ用フ	

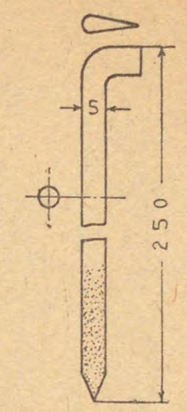
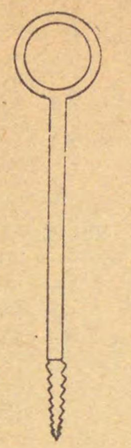
第十四節　小銃藥室掃除棒

第七十八　小銃用藥室掃除棒ノ形狀、構造、用途及用法左ノ如シ

形狀及構造	用途及用法	使用上ノ注意
堅木製ノ棒ニシテ頭部ハ小銃藥室ニ適合スル如ク圓臺形ト爲シ又洗端ハ布片ヲ挾持シ得ル如ク割目ヲ附ス乙ハ後端ニ「ハンドル」ヲ附シ旋回ニ便ニス 	小銃藥室ノ拭淨手入ニ用フ	

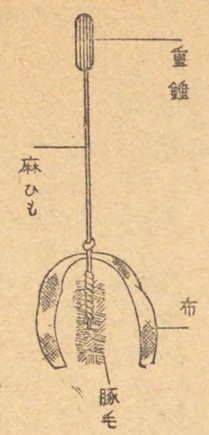
第十五節　圓筒手入棒

第七十九　圓筒手入棒ノ形狀、構造、用途及用法左ノ如シ

形狀及構造	用途及用法	使用上ノ注意
一　小銃用……(イ)徑五粍ノ黃銅線ニシテ一端ヲ屈曲平偏ナラシメ圓筒內部及溝部ノ手入ニ便ナラシム (ロ)他ノ一端ハ圓桿ニシテ尖端ヲ圓錐形トナシ卷附ケタル布片ノ脫落セザル如ク刻目ヲ附ス  	圓筒ノ內外部、隅角部又ハ溝部、擊莖ばね室等ノ拭淨及塗油等ニ用フ	
二　機關銃……徑約三粍ノ軟鋼製ニシテ頭部ノ斷面ハ圖ノ如ク布片ノ卷キツケヲ確實ナラシメ後部ハ圓桿ナリ 	圓筒內ノ拭淨特ニ擊莖頭室ノ手入ニ用フ	

第十六節　塗油ひも

第八十　重錘式塗油ひもノ形狀、構造、用途及用法左ノ如シ

形狀及構造	用途及用法	使用上ノ注意
黃銅又ハ鉛製ノ徑約五粍ノ圓壔形ニシテ一端ニ長サ約一米ノ麻ひもヲ縛著シひもノ端末ニ毛洗頭又ハ布片ヲ附ス  	射擊後速カニ銃腔洗滌等ノ手入ヲ行フ餘裕ナキ場合或ハ野外ニ於テ簡易ニ腔中ニ塗油スル際ニ用フ	

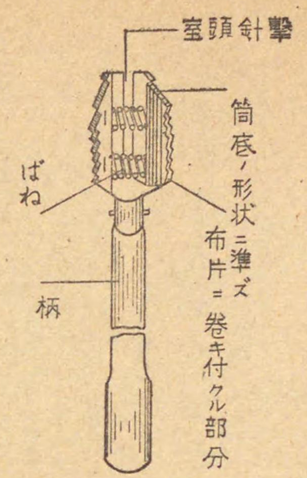
第十七節　擲彈筒手入具

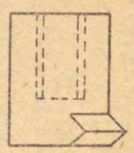
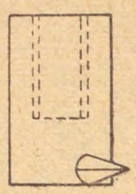
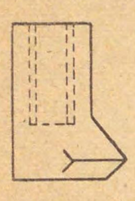
第八十一　擲彈筒用手入具ノ形狀、構造、用途及用法左ノ如シ

工具　保存手入用具ノ名稱及用法

第十八節　「ガス」掻

第八十二　「ガス」掻ノ形狀、構造、用途、用法左ノ如シ

形狀及構造	用途及用法	使用上ノ注意
黃銅製頭部ト柄ヨリ成ル頭部ハ二ツニ別レ內部ニ二箇ノばねヲ收容ス圖ノ右頭部片ハばね軸上ヲ若干移動シ得  	擲彈筒腔中ノ手入ニ用フ	布片ヲ確實ニ頭部ニ卷付ケ齒部ヲ以テ筒內ヲ損傷セシメザルコトニ注意スベシ

形狀及構造	用途及用法	使用上ノ注意
十一年式輕機關銃用  九六式輕機關銃用  九二式重機關銃用 	用途 機關銃射擊後「ガスポンプ」內ニ膠著セル爐滓ヲ掻キ落スニ用フ 用法 めねじ部ヲ「ガスポンプ」洗桿ニ裝シソノ爪部ヲ以テ掻キ落ス	爐滓ノ除去ニ方リ過度ニ力ヲ加フル時ハ內面ヲ傷ツクルヲ以テ注意スベシ

第五章　檢　査

第一節　一般工具

（仕上及鍛造須知參照）

第二節　分解結合及修理工具

（仕上及鍛造須知參照）

第三節　檢査用具

第八十三　檢査用具ハ特ニ精度ヲ要スルヲ以テ使用前後ニ於ケル檢査ノ外少ナクモ年二回ハ精密ナル檢査ヲ實施シ、以テ精度ノ保全ニ努ムベシ、之檢査用具ナル爲ニ過信シテ却テ惡結果ヲ生ズルコトアルヲ以テナリ

第八十四　其ノ一般檢査要領左ノ如シ

著眼點	故障ノ原因	摘要
精密部ノ寸法、精度	一　衰損磨滅 二　使用法不良	「マイクロメーター」等ヲ用ヒテ精密ニ測定シ誤差アルモノハ記錄シ置キ使用ノ際加減スルヲ要ス
測定ノ基準トナルベキ部位ノ打痕、反起、屈曲其ノ他ノ部位ノ打痕、反起、屈曲、變形		打痕、反起、變形等アルトキハ不正確ナル結果ヲ生ジ易キヲ以テ特ニ綿密ニ檢査ヲスルヲ要ス
標線ノ不明瞭、不正確	一　衰損、磨滅 二　使用法不良 三　手入不良	特ニ明瞭ナラシメ誤差ヲ生ジタルモノハ速カニ修正シ置クコト肝要ナリ
其ノ他		保存要領第一篇各材料ノ檢査法ニ準ズ

第四節　保存手入用具

第八十五　保存手入用具ハ兵器ノ性能ヲ維持シ且其ノ機能ヲ最高度ニ發揚スル爲極メテ緊要ナルヲ以テ其ノ檢査モ亦十分ニ爲スヲ要ス

之ガ檢査法ハ一般工具及檢査用具ノ檢査要領ニ準ズルノ外、保存要領第一篇ニ示ス各材料ノ檢査法ニ依リ兵器保存上遺憾ナキヲ期スベシ

第六章　保　存

第一節　手　入

第一款　一般工具

（仕上及鍛造須知參照）

第二款　分解結合及修理工具

第八十六 分解結合及修理工具ノ手入要領左ノ如シ

區分	手入要領		
	常用品ノ手入	格納品ノ手入	摘要
一般分解結合用具	一 使用後鐵部ニハ油布片ヲ以テ拭淨スベシ	一 鐵素地部ニハ「ペトロラタム」ヲ塗布スベシ 但ねじ回ニハ「ワニス」ヲ塗布スルコトヲ得 二 塗料塗施部ハ補修塗ヲ行ヒ置クベシ	燒入不十分ノ爲磨損スルモノハ燒入、燒戻ヲ行フベシ
白兵用工具	一 使用後十分拭淨シ「スピンドル」油ヲ塗布スベシ 二 彈鎭子板尖部磨滅シタルモノハ修正スベシ	鐵部ニハ「ペトロラタム」ヲ塗布スベシ	
小銃、機關銃其他用具	一般工具ニ準ジ鐵部ニハ「スピンドル」油ヲ黃銅及木部ハ拭淨シ回轉部ニハ給油スベシ	一般工具ニ準ジ鐵部ニハ「ペトロラタム」ヲ其ノ他ハ十分拭淨スベシ	

第三款 檢査用具

第八十七 檢査用具ハ特ニ正確ナルモノヲ使用スルコト緊要ナルヲ以テ之ガ保存ニ關シ留意スルヲ要ス、故ニ使用前後及格納中ニ於テモ一般諸工具ニ比シ一層綿密ナル拭淨、塗油、給油等ヲ勵行シ之ガ愛護ニ努メ以テ發銹、變質等ナキヲ要ス

第八十八 拭淨手入ニ關シテノ著意概ネ左ノ如シ

一 使用前必ズ清潔ナル布片ヲ以テ拭淨シ、他物ニ挿入又ハ嵌合スルモノハ接觸面ニ薄ク塗油スベシ

二 使用後 1 日常使用スルモノニ在リテハ清拭ノ上薄ク「スピンドル」油ヲ塗油スベシ

2 暫ク使用セザルモノニ在リテハ薄ク「ワセリン」又ハ「ペトロラタム」ヲ塗布シ發銹ヲ豫防スベシ、

尙鐵板、木部等ノ上ニ置クコトナク亞鉛板又ハ亞鉛めつき鋼板等ニ安置スベシ

第四款 保存手入用具

第八十九 保存手入用具ノ手入要領左ノ如シ

區分	手入要領		
	常用品ノ手入	格納品ノ手入	摘要
兵器手入臺	使用後外部ノ塵埃ヲ除去シ表面ヲ拭淨シ亞鉛めつき鋼板ヲ張レルモノハ薄ク「スピンドル」油ヲ塗布スベシ		
油罐、油差及注脂器	一 使用後外部ヲ十分ニ清拭スベシ 二 「コック」取附部ねじ等毀損セルモノハ速カニ交換スベシ	一 外部ヲ十分清拭シ內部ヲ「スピンドル」油ニテ洗滌スベシ 二 塗料塗施部ニハ要スレバ補修塗ヲ行フベシ	

刷毛及重錘式塗油ひも	一 刷毛ニ附著セル塵埃 二 油垢等ヲ除去スベシ ひもノ殘油ヲ十分除去スベシ				
油煎器	一 使用後外部ヲ拭淨スベシ 二 油煎器乙ノ保溫材剝脫セバ速ニ補修スベシ 三 「コツク」等ノ取附部ヲ緊定シ置クベシ				
脂油與熱器	使用後ハ鍋及石油裝置等直接火焔ニ當ル部分ヲ十分拭淨スベシ				
銃洗滌臺	鐵製ノモノニアリテハ使用後液容器及「ゴム」管等清水ニテ洗滌シ乾燥スベシ 木製ノモノハ外部ヲ清拭スベシ	要スレバ補修塗ヲ實施スベシ			
洗矢補足さく杖	變歪セルモノハ修正シ外部ヲ清拭シ鐵製ノモノハ「スピンドル」油ヲ塗布スベシ	鐵製ノモノハ「ペトロラタム」ヲ塗布スベシ			
保心筒、藥室、圓筒手入棒	外部ヲ拭淨シ鐵部ニハ「スピンドル」油ヲ塗布スベシ	十分清拭シタル後鐵部ニハ「ペトロラタム」ヲ塗布スベシ			

第三編　銃器ノ構造、機能、取扱

第一章　刀劍

第一節　三十二年式軍刀甲(乙)

第一款　構造

第九十一　三十二年式軍刀甲(乙)ハ刀ト屬品トヨリ成ル

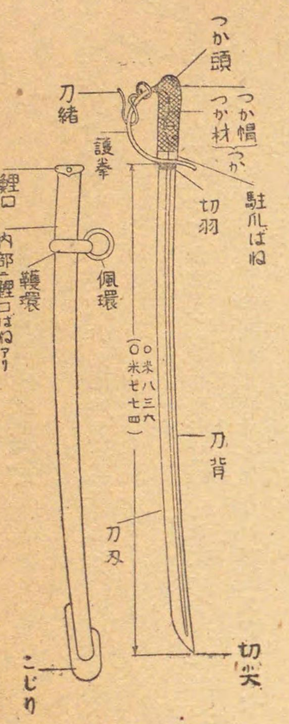
一　刀ハ刀身トさやトヨリ成ル

二　屬品ハ刀帶、刀緒及附革ヨリ成ル

(附革ハ甲ノミノ屬品ナリ)

三　刀ノ全長一〇〇二粍ナルヲ甲、九三〇粍ナルヲ乙トス

三十二年式軍刀



銃器ノ構造機能取扱　刀劍

第二款　分解及結合

第九十二　軍刀刀身ノ特別分解及結合ノ順序方法左ノ如シ

一　分解

1　蟹目ねじ回ヲ以テつか頭「ナット」ヲ戻回離脱シ次テつか木止「ナット」ヲ戻回シテ同止ねじヲ抽脱ス

2　刀身ヲつかヨリ抽出ス若シ抽出困難ナルトキハ才槌ヲ使用スベシ

3　護拳ヲ離脱スルニハ其ノ大端ヲ少シク外方ニ開キつか環ヲ駐筍ヨリ脱シ次デ他端ヲつか頭ヨリ脱ス

二　結合

1　駐爪ばねヲ装シタルつか木ヲつかニ装著シ次デつか環ヲつかニ装ス

2　駐爪ばねヲ護拳ニ挿入シ護拳ノ小端ヲ少シクつか頭ニ入レつか環ノ兩駐筍ニ結合シタル後更ニ同小端ヲつか頭ニ挿入ス

3　切羽ヲ装セル刀身ヲつかニ装シつか材止ねじヲ駐爪ばねノ反對側ヨリ挿入シ同止「ナット」ヲ螺著シつか頭「ナット」ヲ螺著ス切羽ヲ刀尖方面ヨリ結合スルハ誤レル方法ナリトス

第九十三　刀さやノ結合ニ於テハさや板ヲさや内ニ挿入シ其ノ端ヲ鯉口ヨリ少シク出シ置キ鯉口ばねヲ兩さや板間ニ挿入シ次ニさや、さや板及鯉口ばねノ小ねじ孔ヲ一致セシメタル上鯉口小ねじヲ螺著スベシ

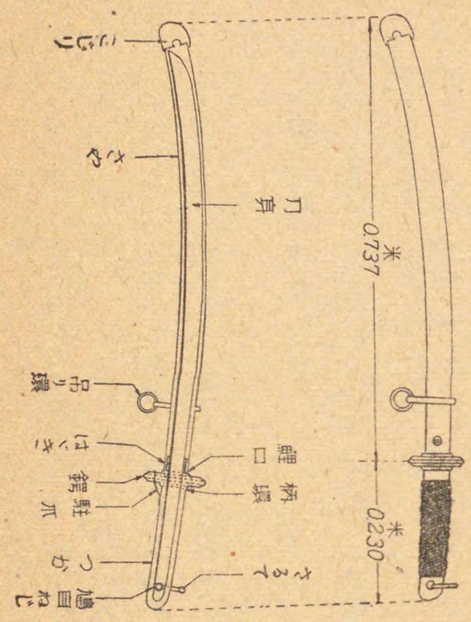
第一款　構造

第九十四　九五式軍刀ハ刀ト屬品トヨリ成リ三十二年式軍刀ヲ改メシモノアリ

一　刀ハ刀身トさやヨリ成ル

二　屬品ハ刀帶、刀緒及附革ヨリ成ル（附革ハ騎兵ノミノ屬品ナリ）

九五式軍刀



第二款　分解及結合

第九十五　刀緒ノ裝著　刀緒ノ體ノ長短ヲ揃ヘ且びじよう外側ニナル如ク柄頭側ヨリさるてニ通シ體長ヲ鍔ノ相當孔ニ通シタル後體短ノびじようト結合シタルノチ遊び革ヲ鍔方向ニ緊締ス而シテ佩刀ノ際ハふさヲ縫著セル一端ハ鍔元ニ近ク柄ヲ一回纏卷シタルノチふさヲ柄ノ外側(佩刀シタルトキ)ニ出サシム

第九十六　特別分解及結合ハ修理其ノ他必要ニ應ジ實施スルモノニシテ素リニ分解スベカラズ

其ノ順序方法ハ左ノ如シ

一　先ヅさるてノ根元ヲ左右ニ壓開シテ之ヲ離脱ス

二　ねじ回ヲ以テ鳩目ねじノ止ねじヲ戻回離脱シタル後鳩目ねじヲ抽脱ス

次ニ目釘ノ「ナツト」ヲ戻回離脱シタル後目釘ヲ抽脱ス

三　刀身ヲ柄ヨリ抽出スルニハ刀身ヲ上ニシテ柄ヲ握リ其ノ握リタル手元ヲ他手ヲ以テ上部ヨリ叩キ抽出ノ初動ヲ與ヘタル後之ヲ抽出スベシ

若シ抽出困難ナルトキハ才槌ヲ使用スベシ此ノ際駐爪ノ鉤部カ大切羽及鍔ノ相當孔ニ鉤セザル如ク注意スルヲ要ス、次ニ小切羽、鍔、大切羽及はばきヲなかごヨリ離脱ス

四　柄ヨリ柄環ヲ離脱シタルノチ柄木ヲ抽脱ス

五　柄環ヨリ駐爪ヲ離脱スルニハ軸ヲ抽脱シタル後脱スベシ次ニ駐爪ばねヲ離脱ス

六　鞘ノ鯉口ハ小ねじヲ螺脱後之ヲ抽脱ス

但シさやノ分解ハ此ノ順序ニ依ラザルコトヲ得ベシ

第九十七　結合ハ分解ト反對ノ順序方法ニヨル但シ左ノ件ニ注意スベシ

一　なかごニはばき、大切羽、鍔及小切羽ヲ裝スルモノナルヲ以テ其ノ裝入順序ヲ誤ラザルコトトス

二　目釘及鳩目ねじハつかノ右側(刀ヲ構ヘタルトキ)ヨリ裝入シ左側ニ於テ「ナツト」及止ねじヲ夫〻螺著スルモノトス

三　鳩目ねじ中空部ニ壓開セルさるてノ端末ヲ挿入シタル後才槌ヲ以テ輕打シツツ舊位ニ復サシムルモノトス

第三節　三十年式銃劍

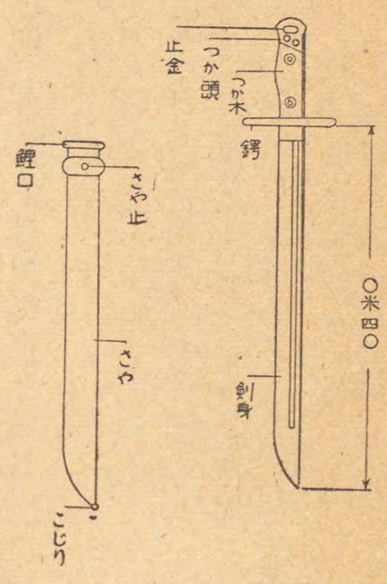
第一款　構造

第九十八　三十年式銃劍ハ劍ト屬品トヨリ成ル

劍ハ劍身トさやヨリ成ル

屬品ハ革帶ト劍差ヨリ成ル

第二款　分解及結合



第九十九　銃劍劍身ノ特別分解及結合ノ順序方法左ノ如シ

一　分解

1　つか小ねじヲ戻回シつか木ヲ離脱シ小ねじ「ナット」及小ねじヲ脱ス

2　万力（口銅ヲ裝ス）ニ止金頭ヲ咬ヘシメ劍身ヲ旋回シテ止金頭ヲ脱シ止金及ばねヲ離脱ス

二　結合

1　止金ヲつか頭ニ裝入シばねヲ裝シタル後止金頭ヲ螺著シ止金ト同頭トノ接際部（止金ニ約三分同頭ニ約七分）ニ目打ヲ刻ス

2　つか木ヲ結合スルニハ小ねじ「ナット」ヲ止金頭側ノつか木ニ裝シ小ねじ坐ヲ他ノつか木ニ裝著シタル後つか木ヲつかニ裝著シつか小ねじヲ螺著ス

第百　さやノ分解ノ順序方法左ノ如シ

一　さや止小ねじヲ螺脱シタル後さや止ヲこじりノ方側ニ抽出ス若シ抽出困難ナルトキハ才槌ヲ以テ全周ヲ輕打シツツ抽出スベシ結合ニ際シテハさや止ノ挿入方向ヲ誤ラザル如ク注意スルヲ要ス

二　鯉口ヲ上方ニ抽出ス若シ抽出困難ナルトキハ鯉口拔ヲ以テさやノ劍身背部ノ方側ニ於テ鯉口ニ鉤セシメ抽出スベシ

第二章　小銃

第一節　三八式歩兵銃

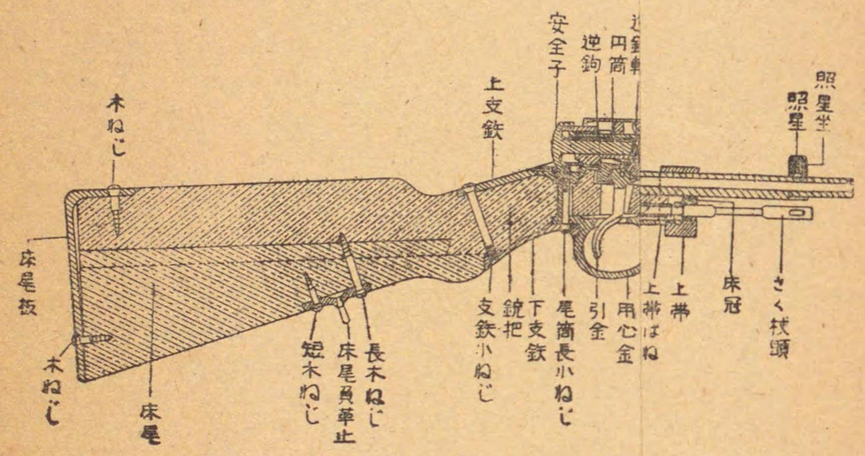
第一款　構造

第百一　三八式歩兵銃ハ銃ト屬品トヨリ成ル

一　銃ハ銃身、銃尾機關、彈倉、銃床、脚ヨリ成ル

1　銃身ハ體、表尺坐、小ねじ、表尺、表尺軸、表尺小ねじ、遊標、遊標止、遊標止軸、遊標止ばね、照尺ばね、照星、照星坐、照星坐栓ヨリ成ル

2　銃尾機關ハ尾筒、遊底止、遊底止ばね、遊底止小ねじ、蹴子、小ねじ、蹴子止、逆鉤、逆鉤ばね、避害子、



逆鉤軸、引金、軸、圓筒、抽筒子止、擊莖、擊莖ばね、安全子、抽筒子、遊底被、遊底止ヨリ成ル

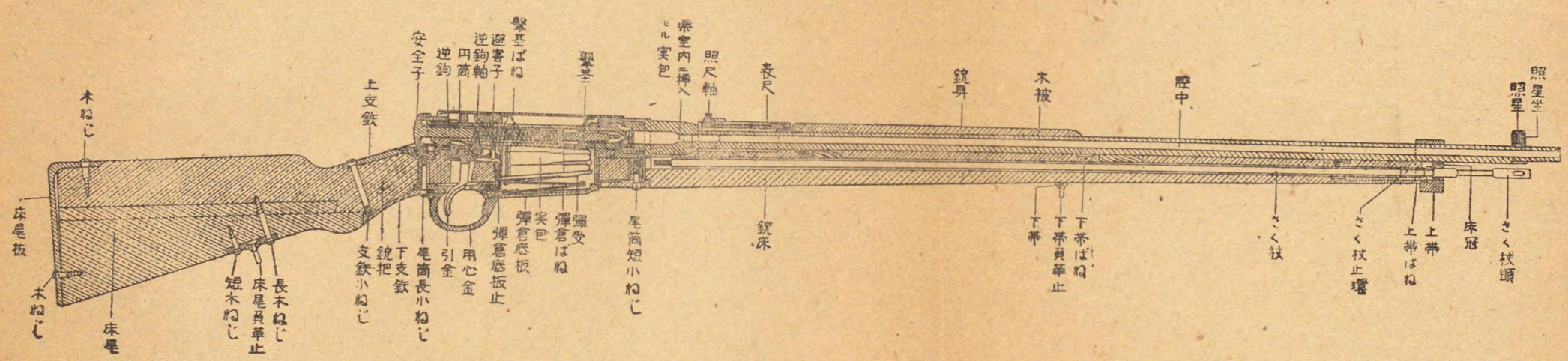
3 彈倉ハ體、前附板、後附板、ばね、底板、彈受ヨリ成ル

4 銃床ハ本體(體、受金、管)床冠、床冠栓、上帯ばね、上帯ばね坐、上帯ばね小ねじ、木被止、床尾負革止、(坐、負革止、鋲、長木ねじ、短木ねじ)、床尾板(體、木ねじ)、上帯、下帯(體、負革止坐甲、同乙、同丙、負革止)、下帯小ねじ、用心金、尾筒長小ねじ、尾筒短小ねじ、彈倉底板止、彈倉底板止ばね、押金、押金軸、上支鐵、支鐵小ねじ、下支鐵、木被、緣金、鋲、さく杖(體、頭、止環、鋲)ヨリ成ル

5 脚ハ體、脚頭、脚頭軸、脚頭ばね、脚頭ばね軸、同「ナット」ヨリ成ル

二 屬品ハ銃口蓋、屬品袋、洗管、洗頭入、洗頭、補足さく杖、保心筒、手入棒、負革、彈入甲(前彈入、後彈入)油入ヨリ成ル

三八式歩兵銃


木ねじ
床尾板
木ねじ
床尾
短木ねじ
床尾負革止
長木ねじ
上支鉄
支鉄小ねじ
安全子
逆鉤
逆鉤軸
円筒
遊害子
撃茎ばね
撃茎
銃把
下支鉄
尾筒長小ねじ
尾筒
弾倉底板止
弾倉底板
実包
弾倉ばね
弾受
引金
用心金
尾筒短小ねじ
ビル実包
薬室内ニ挿入
照尺軸
表尺
銃床
銃身
木被
下帯
下帯負革止
下帯ばね
腔中
さく杖
さく杖止環
上帯ばね
上帯
床冠
さく杖頭
照星
照星坐

第二款　銃尾機關ノ作用

第百二　送彈作用

一　遊底ヲ開キ挿彈子ニ裝セル五箇ノ實包ヲ彈倉內ニ壓入スレバ實包ハ彈受上ニ重ナリ尾筒長方窓ノ下緣ニテ支ヘラル

二　圓筒ヲ前進スレバ圓筒ハ挿彈子ノ下端ヲ壓シテ之ヲ離脫セシメ次ニ最上部ノ實包ヲ彈倉ヨリ藥室ニ壓入ス此ノ際實包ノ起緣部ハ抽筒子ノ爪ニ鉤ス

三　遊底ノ前進ニ伴ヒ擊莖ノ擊發段部ハ逆鉤頭ニ鉤ス、タメニ擊莖ハ其ノ前進ヲ阻止セラレ圓筒ノミ前進ス、此ノ際圓筒後端ノ鍔ハ安全子ノ階段部ニ鉤シ兩者一體トナリテ擊莖ばねヲ壓縮ス

四　槓桿ヲ倒セバ安全子ノ凸筍ハ尾筒ノ準溝ニ入リアル故、安全子ト之ニ結合セル擊莖ハ圓筒ノ回轉ニ伴ハズ擊發ノ準備ナル

第百三　擊發作用

遊底ヲ全ク閉デ引金ヲ後方ニ引ケバ逆鉤頭ハ低下シ擊莖ハ擊莖ばね力ニテ前進シ雷管ヲ衝擊ス

第百四　抽筒作用

一　槓桿ヲ起セバ擊莖ノ擊發段ハ尾筒ノ準溝內ニ在リテ圓筒ト共ニ回轉セズ故ニ擊發段ハ圓筒ノ蝸狀底ヨリ後退シ半圓部ニ移ル

二　槓桿ヲ後退スレバ圓筒、安全子、擊莖ハ一體トナリテ擊發段ノ後方斜面ハ逆鉤頭ヲ壓下シテ後退ス

三　此ノ際抽筒子ハ圓筒包底面ト其ノ周圍ノ突起ト共ニ藥莢起緣部ヲ保持シテ後退ス

第百五　蹴筒作用

蹴子ハ抽筒子ノ抽出セシ藥莢ヲ右側方ニ蹴出ス

第百六　安全作用

一　遊底ノ閉鎖不十分ナルトキハ避害子ノ頭部、圓筒ノ避害子溝ト一致セザル故引金ヲ引クコト能ハズ

二　引金ヲ引キアルトキハ避害子頭ハ突内シテ圓筒ノ避害子溝ニ入リアル故槓桿ヲ起スコト能ハズ

三　遊底閉鎖後安全子ヲ前方ニ壓シ四十五度右ニ旋回シ其ノ壓迫ヲ緩ムレバ安全裝置トナル

安全裝置ニテハ安全子ハ擊發位置ヨリ前進シ、其ノ内筒前端ニテ圓筒槓桿脚ノ後方小凸筍ニ接シタメニ槓桿ヲ起スコト能ハズ

安全子止ノ筍ハ擊莖ノ準溝内ニ在ル故安全子ノ旋回ハ擊莖ヲ旋回シ、擊發段ヲ尾筒左側階段部ニ移シ逆鉤トノ連繫ヲ斷ツ

第三款　分解及結合

第百七　普通分解及結合

普通分解ニ於テ分解シ得ル部品左ノ如シ

圓筒、擊莖、擊莖ばね、安全子、抽筒子、遊底被、彈倉底板、彈倉ばね、彈倉彈受、さく杖、負革

第百八　特別分解及結合

一　特別分解ハ精密手入、修理、若クハ特ニ必要アル場合ニ於テ行フモノニシテ將校監督ノ下ニ之ヲ行フモノトス

分解シ得ル部品及其ノ順序左ノ如シ

上帶、下帶(脚共)木被、用心金、下支鐵、彈倉、銃身、上支鐵、銃身細部部品、銃尾機關部細部部品、銃床細部部品

二　上帶ヲ離脱スルニハ銃ヲ立テ左手ニテ上帶ノ下際部ヲ握リ指ヲ以テ上帶ばねノ上部ヲ強ク壓迫シ右手ニテ照星ニ觸接セザル如ク注意シテ上帶ヲ上方ニ抽脱スベシ若シ抽脱困難ナルトキハ小銃分解器ヲ使用スルモノトス

三　下帶ヲ離脱スルニハ銃ヲ立テ銃身ヲ左方ニシテ左手ニテ下帶ばねヲ壓シ右手ニテ照星ニ觸接セザル如ク注意シテ下帶ヲ上方ニ脱スベシ

四　脚ヲ下帶ヨリ離脱スルニハ「ナツト」ヲ螺脱シタル後ばね軸ヲ抽脱シばねヲ離シタル後脚頭軸ヲ抽出シ脚ヲ離脱ス

五　木皮ヲ難脱スルニハ銃身ヲ上ニシ銃ヲ托架上ニ置キ木被ノ前端ヲ摘ミ少シク扛起シテ徐ロニ前方ニ脱スベシ

六　用心金、下支鐵及彈倉ノ離脱方法　銃身ヲ下ニシテ銃ヲ托架上ニ置キ尾筒長小ぢじ、短小ねじヲ戻回シ銃身ヲ上ニシ支鐵小ねじヲ戻回シ再ビ鐵身ヲ下方ニシ用心金ヲ徐ロニ動カシツツ前後ヲ平等ニ下支鐵ヲ墜落セシメザル様注意シテ離脱シ彈倉ヲ徐ロニ用心金ヨリ脱ス

七　銃身ヲ離脱スルニハ銃身ヲ下ニシテ銃ヲ托架上ニ置キ左手ニテ照尺部ヲ支ヘ右手ニテ彈倉ノ前ヲ輕打シ銃身ノ前後ハ成ルベク同時ニ銃床ヨリ離ルル如ク銃身ヲ銃床ヨリ離脱スベシ但托架ヲ使用セザルトキハ銃身ヲ下ニシテ銃把ヲ左腋下ニ挾ミ之ヲ行フベシ

銃身ヲ脱シタル銃床ハ屈撓シ易ク其ノ僅少ナル變歪モ銃ノ命中精度ヲ害スルヲ以テ成ルベク速カニ銃身ト結合スルヲ要ス又離脱シタル銃床ハ日光ノ直射又ハ火氣ヲ被ラシムベカラズ

次ニ上支鐵ヲ脱ス

八　銃身ト銃床ヲ結合スルニハ銃床ヲ托架上ニ置キ右手ノ食指ヲ尾筒ノ後部圓筒室ニ挿入シ左手ニテ銃口部附近ヲ握リ銃身ヲ水平ニ支持シ徐ロニ銃床ニ裝シ全體ニ亙リ其ノ結合ヲ檢スベシ

銃身及尾筒ノ銃床及木被ト觸接スル部分ハ「ペトロラタム」ヲ剝脱スル虞アルヲ以テ手ヲ觸ルベカラズ

九　木被ヲ結合スルニハ銃ヲ托架上ニ置キ木被ノ前端ヲ少シク扛起シ其ノ後端ノ緣金ヲ前方ヨリ照尺坐ノ同室ニ挿入シ木被ヲ銃床面ニ接著セシムベシ

十　下帶ヲ結合スルニハ左手ニテ木被ノ上部ヨリ銃ヲ握リテ銃ヲ立テ銃身ヲ左方ニシ右手ニテ下帶ヲ照星ニ接觸セザル如ク注意シテ徐ロニ銃床ニ裝入シ其ノ定位置ニ裝置スベシ但歩兵銃ハ下帶負革止ヲ銃身ト反對側ニ騎銃ハ床尾負革止同側ニ在ル如ク裝著スルモノトス又下帶端面ヲ常ニ銃身軸ニ直角ニ支持シ左右ニ偏避セシメザル樣注意スベシ

十一　用心金、下支鐵及彈倉ヲ結合スルニハ銃身ヲ下ニシテ銃ヲ托架上ヘ置キ用心金ニ彈倉ト下支鐵ヲ裝シタル後兩手ニテ支持シ其ノ前後ヲ平等ナル如ク注意シテ銃床ニ裝著シ尾筒短小ねじヲ用心金ノ前部ニ尾筒長小ねじヲ用心金ノ後部ニ指頭ニテ螺入シねじ回ヲ以テ交互ニ旋回シテ十分緊定シタル後銃身ヲ上方トシテ支鐵小ねじヲ螺著スベシ

十二　上帶ヲ結合スルニハ銃ヲ立テ銃身ヲ前方ニシテ左手ニテ銃床ノ上部ヲ握リ其ノ指ニテ上帶ばねヲ壓シ右手ニテ上帶ヲ照星ニ觸接セザル如ク注意シ徐ロニ銃床ニ裝置スベシ

十三　床冠、上帶ばね、下帶ばね、床尾負革止、床尾板、表尺板、照尺ばね、遊標止、遊底止ばね、蹴子、逆鉤、引金、彈倉底板止、彈倉押金、木被止、銃床本體受金、同管ノ離脱及裝著ハ主トシテ修理ノ際之ヲ行フモノニシテ特ニ左ノ各號ニ注意スベシ

1　床冠ヲ銃床ニ裝著スルニハ床冠及銃床ノ床冠栓孔ヲ一致セシメタル後床冠栓ヲ挿入スベシ若シ床冠栓孔ノ一致不十分ナルトキハ銃床ヲ缺損スルモノトス

2　下帶ばねヲ離脱スルニハ「ピン」ヲ用ヒ右側ばねノ脚部ヲ其ノ室ヨリ離脱シ左側ばねノ脚部ヲ銃床ヨリ離脱スベシ

3　歩兵銃ノ床尾負革止ヲ銃床ニ裝著スルニハ長木ねじヲ尾筒ノ方側ニ短木ねじヲ床尾板ノ方側ニ螺著スベシ

4　遊標止ヲ結合シタルトキハ小ねじノ先端ト遊標トノ接際部ニ目打ニテ小痕ヲ刻シ小ねじノ戻回ヲ防止スベシ

第二節　九七式狙撃銃

第一款　構造

第百九　九七式狙撃銃ハ命中精度ヲ良好ニスルタメ三八式歩兵銃ニ九七式狙撃眼鏡ヲ裝著シタルモノニシテ九七式狙撃眼鏡裝著ノ爲三八式歩兵銃ト其ノ構造僅カ異ルモ其ノ機能ハ概ネ同一ナリ

第二款　分解及結合

第百十 普通分解及結合

一 普通分解ニ於テ分解シ得ベキ部品左ノ如シ

1 眼鏡

2 遊底

3 彈倉底板、同ばね及彈受

4 さく杖

二 銃ト眼鏡トノ裝著離脱ハ左ノ方法ニ依ル

1 眼鏡ヲ銃ニ裝スルニハ眼鏡緊定把ヲ「脱」ニ位置セシメ右手ヲ以テ眼鏡ヲ握リ銃ノ眼鏡止ばねニ裝著部ノ鉤スル迄徐々ニ裝入シ緊定把ヲ「裝」ニ位置セシム

2 眼鏡ヲ銃ヨリ離脱スルニハ前項ト反對ノ順序方法ニヨル

第百十一 特別分解及結合

一 特別分解ハ精密手入修理若クハ特ニ必要アル場合ニ行フモノニシテ分解シ得ル部品左ノ如シ

1 上帶

2 下帶(脚共)

3 木被

4 用心金、下支鐵及彈倉

5 銃身(尾筒共)及上支鐵

6 銃身、尾筒附隨品

7 銃床附隨品

二 特別分解ハ將校監督ノ下ニアラザレバ之ヲ實施スルコトヲ得ズ但6及7ハ此ノ順序ニヨラザルコトヲ得

第百十二 眼鏡取扱上ノ注意

本眼鏡取扱上ノ注意ハ兵器保存要領第一篇及第九篇ニヨルノ外左ノ如シ

一 銃ノ眼鏡ハ絶對ニ彼此交換シ得ベカラザルモノナルニ依リ裝著ニ當リ混淆セザル如ク注意ヲ要ス

二 運搬其ノ他取扱中各部ニ激突ヲ與フベカラズ

眼鏡ヲ銃ニ裝シタル儘移動スル場合ニハ特ニ注意ヲ要ス

三 銃ノ眼鏡托架坐及眼鏡裝著部ノ裝著面ハ磨損スベカラズ

四 本眼鏡ハ直接照準固定式ナルタメ射距離及方向ヲ附與スルニハ鏡内分畫目盛ニ依ルモノトス

第三節 四四式騎銃

第一款 構造

第百十三 四四式騎銃ハ其ノ構造三八式歩兵銃ニ等シクシテ唯上帶ニ劍ヲツケ床尾ニさく杖室ヲ設ケタルヲ主ナル差異トス

第二款 分解及結合

第百十四　四四式騎銃ノ分解及結合左ノ如シ

但本款ニ記載セザル事項ハ三八式歩兵銃ノ分解及結合ヲ準用スベシ

上帶及劍ノ分解

1　上帶及劍ヲ離脱スルニハ劍ヲ起シ銃ヲ立テ銃身ヲ左ニシねじ回ニテ二箇ノ小ねじヲ戻回シ之ヲ抽脱左手ヲ以テ銃床上部ヲ握リ右手ヲ以テ上帶ノ照星坐ノ上方ヲ握リ之ヲ上方ニ抽脱スベシ

2　駐鉤及止金ヲ分解スルニハ止金ヲ戻回シばねヲ止金ヨリ離脱シ駐鉤ヲ劍ヨリ脱スベシ

二　上帶及劍ノ結合

1　駐鉤及止金ヲ結合スルニハ駐鉤ヲ銃身ノ右側ヨリ劍ノ駐鉤室ニ裝著シ他側ヨリばねヲ裝シタル後止金ヲ螺著ス

駐鉤端面ト止金外面ト略〻同高トナル迄緊定シタル後二箇ノ目打止ヲ施スベシ

2　上帶及劍ヲ裝著スルニハ銃ヲ立テ銃身ヲ左ニシ左手ニテ銃床ノ上部ヲ握リ右手ニテ上帶（劍ハ起シ置クヲ要ス）ヲ銃ニ裝入シ二箇ノ上帶小ねじヲ螺著スベシ

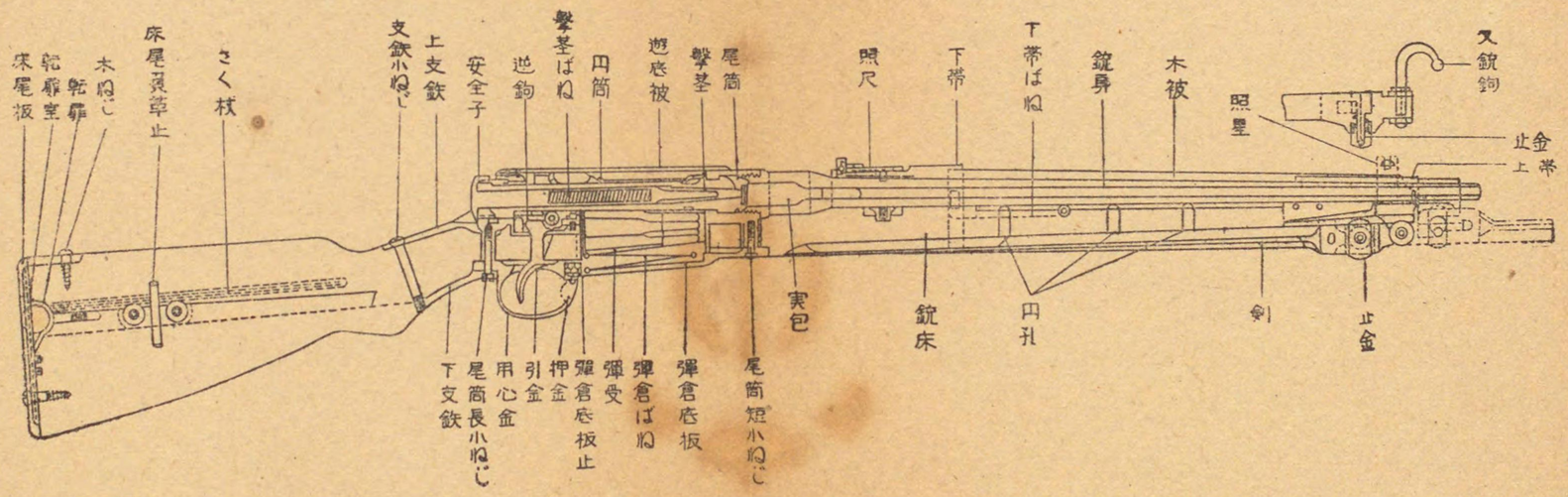
三　轉扉ヲ分解スルニハ床尾ヨリ脱シ轉扉小ねじヲ戻回シテ轉子ヲ離脱シ二箇ノ轉扉室小ねじヲ戻回シ轉扉室及轉子室ヲ床尾板ヨリ離脱シ轉扉ヲ轉扉室ヨリ離脱スベシ

又さく杖壓板ヲ分解スルニハ銛ヲやすりがけシタル後脱ス

四　轉扉ヲ結合スルニハ轉扉室ノ筍ト轉扉ノ筍溝ヲ同側ニ位置スル如ク轉扉ヲ轉扉室ニ裝著シ轉子室、轉扉室及床尾板ノ小ねじ孔ヲ一致セシメ二箇ノ小ねぢヲ螺著セシメタル後轉扉ヲ閉鎖ノ位置トナシタルトキ轉子ハ床嘴ノ方側ニ位置スル如ク轉扉ノ同軸ニ裝入シ小ねじヲ螺著スベシ又さく杖壓板ヲ結合スル際ニハ銛ヲ交換スベシ

五　さく杖室ヲ分解スルニハ銃床ヨリさく杖室ヲ脱シタル後ばね止ヲ抽出シさく杖室ばね及ばね坐ヲ離脱スベシ

四四式騎銃


木ねじ
転輪
転輪室
床尾板
床尾頭草止
さく杖
支鉄小ねじ
上支鉄
安全子
逆鉤
撃茎ばね
円筒
遊底被
撃茎
尾筒
照尺
下帯
下帯ばね
鏡鼻
木被
照星
又鉤鉤
止金
上帯
実包
銃床
円孔
剣
止金
下支鉄
尾筒長小ねじ
用心金
引金
押金
弾倉底板止
弾受
弾倉ばね
弾倉底板
尾筒短小ねじ

第三章　拳銃

第一節　十四年式拳銃

第一款　構造

第百十五　十四年式拳銃ハ銃ト屬品トヨリ成ル

一　銃ハ銃身、銃床、遊底、彈倉ヨリ成ル

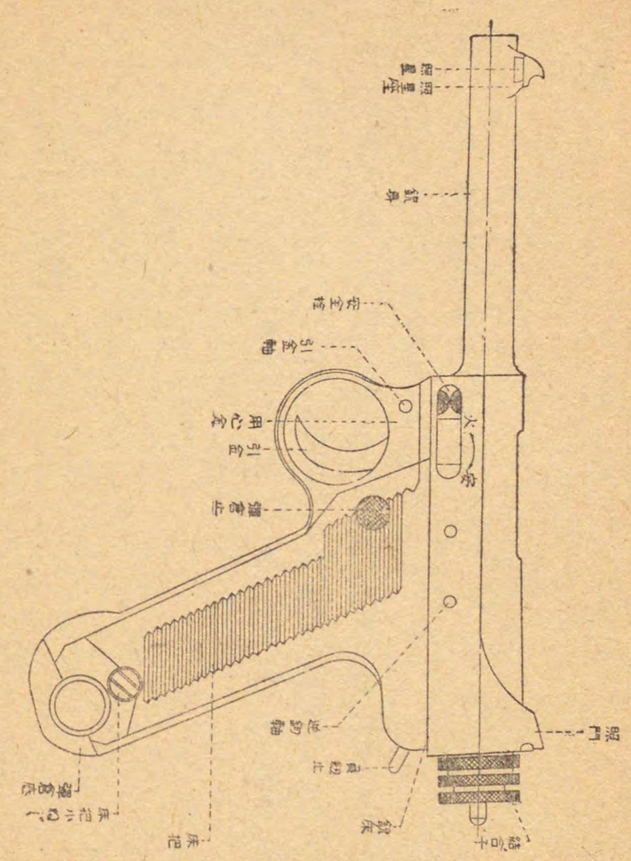
1　銃身ハ體、照星、蹴子、閂子、閂子ばねヨリ成ル

2　銃床ハ體（體坐金共）、負紐止、彈倉止板ばね、用心金、引金（體、軸、鉤板、鉤板軸、鉤板ばね）、彈倉止（體、ばね）、逆鉤（體、軸ばね）、安全栓、床把（體、小ねじ）及安全子（體、軸、ばね、ばね軸）ヨリ成ル

3　遊底ハ圓筒、抽筒子、結合子、擊莖、擊莖ばね、擊莖ばね止及復坐ばねヨリ成ル

4　彈倉ハ體、彈受體、指掛）、彈倉底及ばねヨリ成ル

二　屬品ハ負紐、さく杖、豫備擊莖及拳銃入ヨリ成ル



第二款　銃尾機關ノ機能

第百十六　銃尾機關ノ機能左ノ如シ

一　彈藥ノ裝塡

1　左手ニテ彈倉ヲ臺上ニ立テさく杖ヲ彈受ニサシ左拇指ニテ之ヲ壓下シツツ右手ニテ實包ヲ一發宛彈受上ニ容レ八發ヲ充塡ス

2　右手ニテ銃床ヲ握リ左手ニテ彈倉ヲ銃床內ニ下方ヨリ十分壓上ス

3　彈倉ノ切缺部ハ彈倉止ニ鉤ス

4　彈倉內ノ最上ノ實包ハ圓筒ノ下面ニ依リ壓セラレ彈倉ばねヲ壓ス

二　第一發裝塡

1　右手ニテ銃床ノ床把部ヲ握リ左手ニテ結合子ヲ摘ミ十分後方ニ引ケバ銃身ハ後坐シ遊底ハ開キ復坐ばねハ銃床後端ヲ支點トシテ壓縮セラル

2　擊莖ハ下方突起ノ後面ニテ逆鉤ヲ壓下シテ後退ス

3　最上層實包ハ圓筒後退スルヤ彈倉ばねノ力ニヨリ彈倉口マデ上昇ス

4　活潑ニ結合子ヲ放テバ圓筒ハ復坐ばねノ伸張ニヨリ前進シ其ノ前端下部ニテ最上層實包ヲ推シ藥室ニ裝塡ス抽筒子ハ藥莢ニ鉤ス

5　擊莖ハ前進中逆鉤ニ鉤シ擊莖ばねハ壓縮セラレ擊發ノ準備ヲナス

6　第二位ノ實包ハ圓筒下面ニ接スルマデ上昇ス

7　圓筒ノ前進ト閂子ばねノ力トニヨリ、銃身ハ復坐シ閂子上方突起ハ圓筒ニ鉤シ遊底ヲ閉鎖ス

三　發射

1　引金ヲ引ケバ引金鉤板ハ逆鉤ノ前端ヲ上昇シ、後端ヲ下降セシメ撃莖ノ鉤止ヲ解ク
2　撃莖ハ前進シテ雷管ヲ衝撃ス

四　復歸作用

1　銃身發射ノ反動ニヨリ後坐ヲ始ム
2　後坐ノ初期ニハ閂子ハ遊底ヲ閉鎖シアルモ、末期ニハ閂子旋回シテ圓筒ノ鉤止ヲ解ク
3　圓筒ハ慣性ニヨリ尚復坐ばねヲ壓縮シテ後退ス
4　藥莢ハ抽筒子ニヨリ抽出セラレ其ノ底面ヲ蹴子ニ突カレテ上方ニ蹴出セラル
5　銃身後坐シ其ノ左側切缺部ガ引金鉤板ノ頭部ヲ後方ニ壓セバ引金鉤板ハ後方ニ旋回シ逆鉤トノ接觸ヲトク故ニ逆鉤ハ其ノばねノタメ後端上昇シテ撃莖ヲ鉤止ス
6　遊底後退ヲ終リ前進スレバ、圓筒ハ彈倉ノ實包ヲ裝塡シ撃莖ハ逆鉤ニ鉤シ遊底ノ閉鎖ヲ完了ス
7　引金ノ引カレアル間ハ引金鉤板ハ後方ニ旋回シアルモ、引金ヲ緩ムレバ其ノ頭部ハ前下方ニ降下シ其ノ肩部ハ再ビ逆鉤前端ノ突起部ニ鉤シ第二發射ノ準備ヲナス

五　空彈倉ノ離脱

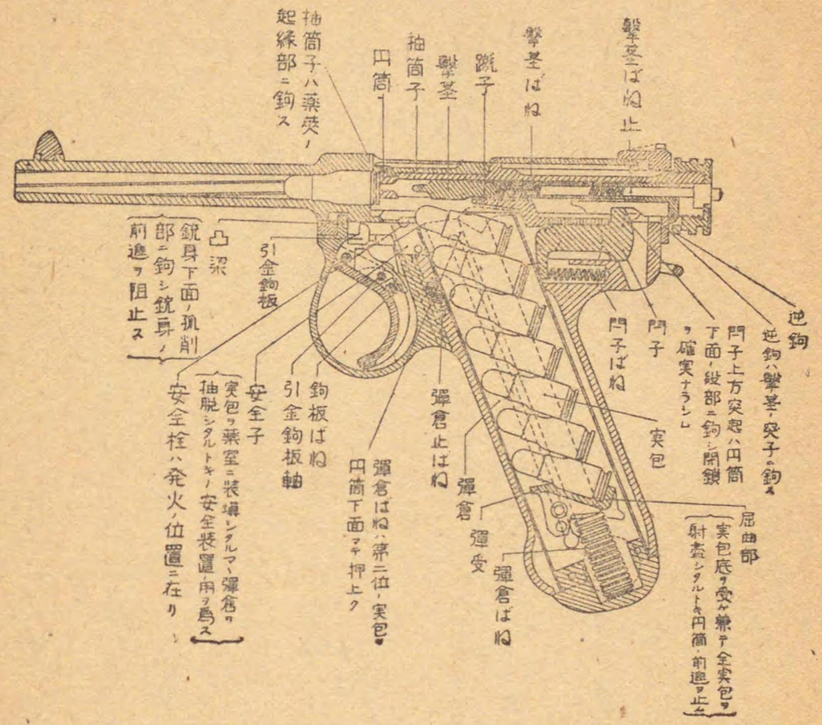
1　最後ノ實包ヲ發射シ圓筒後退スレバ彈受ハ上昇シ其ノ後端ヲ以テ圓筒ノ前進ヲ止メ彈倉ノ空ヲ知ラス
2　左手ニテ彈倉底ノ兩側ヲ撮ミ右手ニテ充分彈倉止ヲ壓シツツ強ク彈倉底ヲ引キ離脱ス

六　安全裝置

1　安全栓ヲ安全ノ裝置ニスレバ安全栓ノ軸ハ逆鉤前端ノ上面ニ接シ其ノ上昇ヲ妨ゲ引金ヲ引クコト能ハズ

2　安全栓ノ軸ハ同時ニ銃身ト下面ノ裝塡孔前端トモ接シ銃身ノ後退ヲ鉤止ス
3　彈倉ヲ離脱セバ安全子ノ體ハばね力ニ依リ後方ニ施回シ其ノ鉤部ヲ以テ引金ノ鉤部ニ鉤シ引金ノ施回ヲ不能ナラシム

十四式拳銃斷面



第三款　分解及結合

第百十七　普通分解及結合

一　普通分解ニ於テ分解シ得ル部品及其ノ順序左ノ如シ

弾倉、用心金、銃身、圓筒、結合子、撃茎、撃茎ばね、撃茎ばね止、復座ばね

二　用心金、遊底及銃身ヲ分解スルニハ安全栓ヲ發火位置トシ引金ヲ撃發ノ位置トナシタル後左ノ順序方法ニ依ル

1　左手ニ握リ部ヲ握リ右手ノ拇指ヲ以テ撃茎ばね止ヲ壓シツツ結合子ヲ離脱シ次ニ撃茎ばね止ト共ニ撃茎ばねヲ抽出ス

2　銃口部ヲ臺上ニ托シ右手ニテ握リ部ヲ壓下シ銃身ニ後座ノ位置ヲ取ラシメ拇指ヲ以テ強ク弾倉止ヲ壓シツツ在手ヲ以テ用心金ヲ握リ部ニ沿フテ抽脱シ次ニ左手ヲ以テ銃身ヲ握リ右手ヲ緩メ握リ部ヲ上方ニシテ銃身ヲ概ネ水平ナラシメ銃床ヲ後上方ニ抽脱シ次ニ閂子ヲ離脱ス

3　復座ばねヲ抽脱シ次ニ圓筒及撃茎ヲ抽脱ス

三　銃身及遊底ヲ結合スルニハ銃身ノ下方ヲ上ニシテ左手ヲ以テ之ヲ水平ニ保持シ圓筒復座ばね撃茎及閂子ヲ裝シ次ニ右手ヲ以テ握リ部ヲ上ニシテ銃床ヲ握リ銃身ニ嵌裝シタル後銃口部ヲ臺上ニ托シ前項ト反對ノ順序方法ニ依リ用心金ヲ結合シ次ニ撃茎ばねヲばね止ト共ニ圓筒ニ挿入シ其ノ頭部ト結合子トヲ正シク一致セシメ停止スルマデ結合子ヲ徐〻ニ圓筒ニ螺入シ以テばね止頭部ノ角形ガ概ネ左手四五度ニナルマデ戻回シ左手ノ拇指ヲ以テ充分ニばね止ヲ壓下シ結合子ヲ螺入ス此ノ際結合子ハ圓筒後端ニ接著シばね止ハ結合子ニ正シク吻合シアルヲ要ス

結合後引金ヲ引キ置クヲ要ス

第百十八 特別分解及結合

一 特別分解ハ精密手入、修理、若クハ特ニ必要アル場合ニ行フモノニシテ將校監督ノ下ニ之ヲ行フモノトス

二 分解シ得ル部品及其ノ順序左ノ如シ

抽筒子、引金、床把、彈倉止、逆鉤、安全栓、彈倉、安全子、彈倉止板ばね

三 抽筒子ヲ離脱スルニハねじ回等ヲ爪部ニ鉤シ之ヲ扛起シテ抽筒子ノ突筍ヲ圓筒ヨリ脱シタル後前方ニ抽出ス

四 用心金ヨリ引金ヲ脱スルニハ其ノ軸ヲ抽脱スベシ

結合ニ際シテハ引金軸ハ鋲著シ要スレバ之ヲ交換スベシ

五 左床把ヲ離脱スルニハ小ねじヲ螺脱シタル後彈倉止ヲ壓シツツ指ヲ銃床ノ彈倉室ヨリ挿入シ下部床把ヲ僅カニ外方ニ開キ次テ下方ニ抽脱ス

彈倉止ヲ離脱ス

右床把ヲ左床把ト同要領ニテ離脱ス

六 逆鉤ヲ離脱スルニハ左床把ヲ離脱シ逆鉤軸ヲ右方ニ抽脱シタル後下方ニ抽出ス

七 安全栓ヲ離脱スルニハ用心金左床把及逆鉤ヲ離脱シタル後把ノ突起部ヲ九〇度下方ニ施回シテ軸ノ小突梁ヲ軸孔下端ノ凹孔ニ對セシメ左方ニ抽脱ス

八 彈倉ヲ分解スルニハ彈倉底ノ鋲ヲ抽脱シタル後彈倉底及彈倉ばねヲ離脱シ彈受ヲ下ゲ指掛ヲ圓孔部ニ位置セシメ之ヲ外方ニ抽出シ彈受ヲ下方ヨリ離脱ス

結合ニ際シテハ鋲ヲ鋲著シ要スレバ之ヲ交換スベシ

九 安全子ヲ離脱スルニハ軸ヲ抽脱シタル後上方ニ抽脱ス

十 彈倉止板ばねヲ離脱スルニハたがねヲ以テ鋲頭ヲ切リばねヲ外方ニ抽脱ス

結合ニ際シテハ鋲ヲ交換スベシ

第四章 機關銃

第一節 十一年式輕機關銃

第一款 構造

第百十九 十一年式輕機關銃ハ銃ト屬品トヨリ成ル

一 銃ハ銃身、放熱筒、尾筒、銃尾機關、裝彈機關、銃床及脚ヨリ成ル

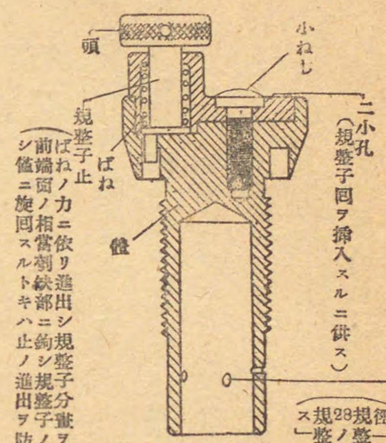
1 放熱筒ハ體、負革止、脚取付金、脚止栓、脚止栓ばね、照星座、照星、止ねじ、照星座小ねじ、「ガスポンプ」(體、頭、「パツキン」(「ガスポンプ」栓、「ガスポンプ」栓止、「ガスポンプ」栓止ばね、「ガスポンプ」栓止蓋、脚止、(體甲乙)脚止小ねじ、規鑿子、(體、座、小ねじ、止頭ばね、鋲)ヨリ成ル

2 尾筒ハ體、上板、下板、圓筒通路附板、門子受左右、門子受被、照尺座、蹴子軸座、油入止、尾筒底、復座ばね軸、尾筒底栓、活筍、活筍ばね、活筍頭、門子緩衝器(體、ばね、軸ばね、「ナツト」)表尺板、遊標、遊標止、同蓋、遊標ばね、照尺ばね、油入(體、注油口、蓋、板底、遊び環、鎖止、辨押、辨ばね、辨ばね受、油

導子、辨受、止ねじ、軸）蹴子及蹴子軸ヨリ成ル

規整子

「ガスポンプ」ノ頭部ニ螺著シ各種「ガス」漏孔ノ測合ニ依リ活塞ニ及ス「ガス」壓ヲ增減スルノ用ヲナス



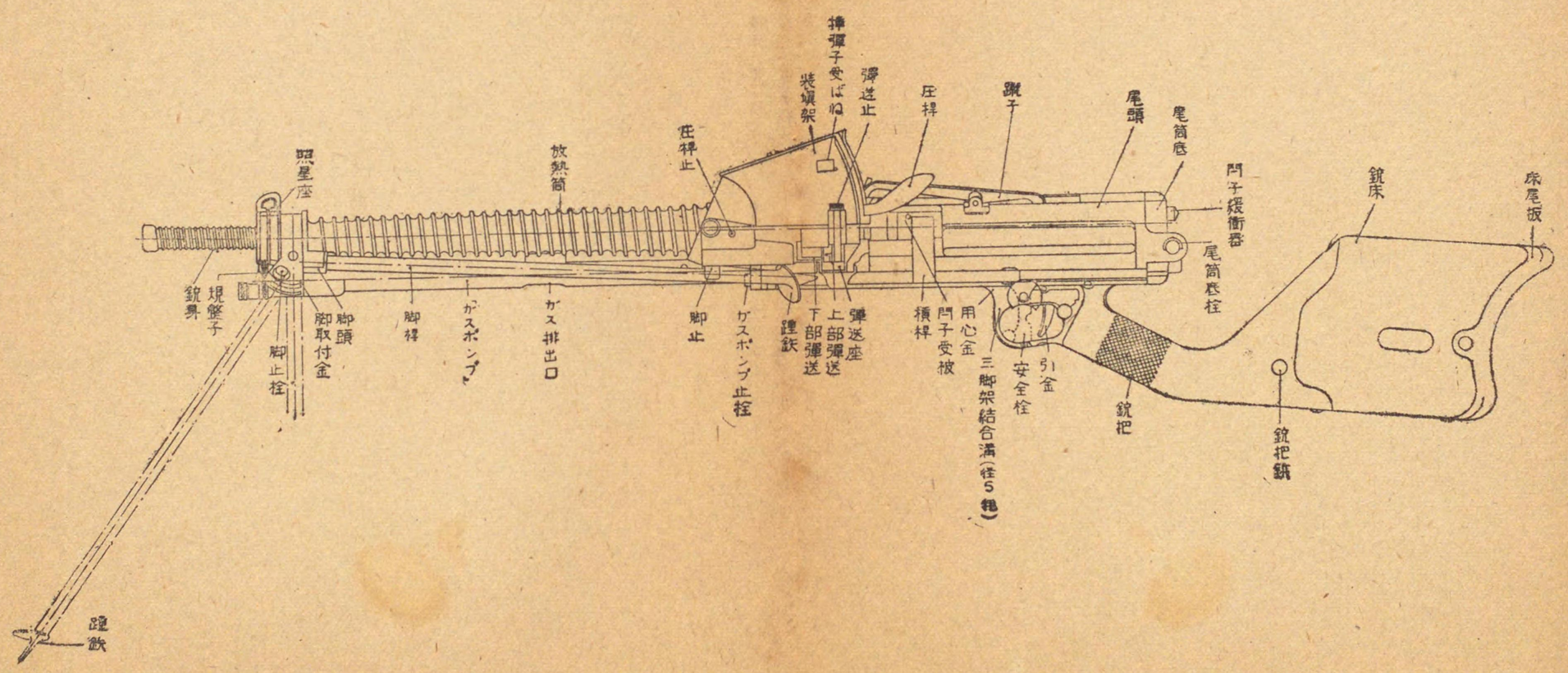
3 銃尾機關ハ活塞、復座ばね、槓桿ばね、圓筒、閂子、擊茎、抽筒子及抽筒子ばねヨリ成ル

4 裝彈機開ハ裝塡架、裝塡架止、裝塡架止ばね、裝塡架止小ねじ、支彈ばね、裝塡架附板、挿彈倉子受左右、壓桿止、彈送止、彈送止ばね、彈送、彈送底、壓桿、壓桿ばね、壓桿ばね筒附板、挿彈子受ばね、彈送座、下部彈送、誘導子、誘導子ばね及上部彈送ヨリ成ル

5 銃床ハ體、負革止、負革止座、小ねじ、座板、銃把銓、銃把銓管、用心金、用心金止栓、引金、引金軸、安全栓、逆鉤、逆鉤ばね、床尾板、床尾板木ねじ、銃把、銃把連管、銃把隔板及銃把木ねじヨリ成ル

6 脚ハ脚頭、脚頭軸、脚桿、踵鐵左右及銓ヨリ成ル

十一年式輕機關銃



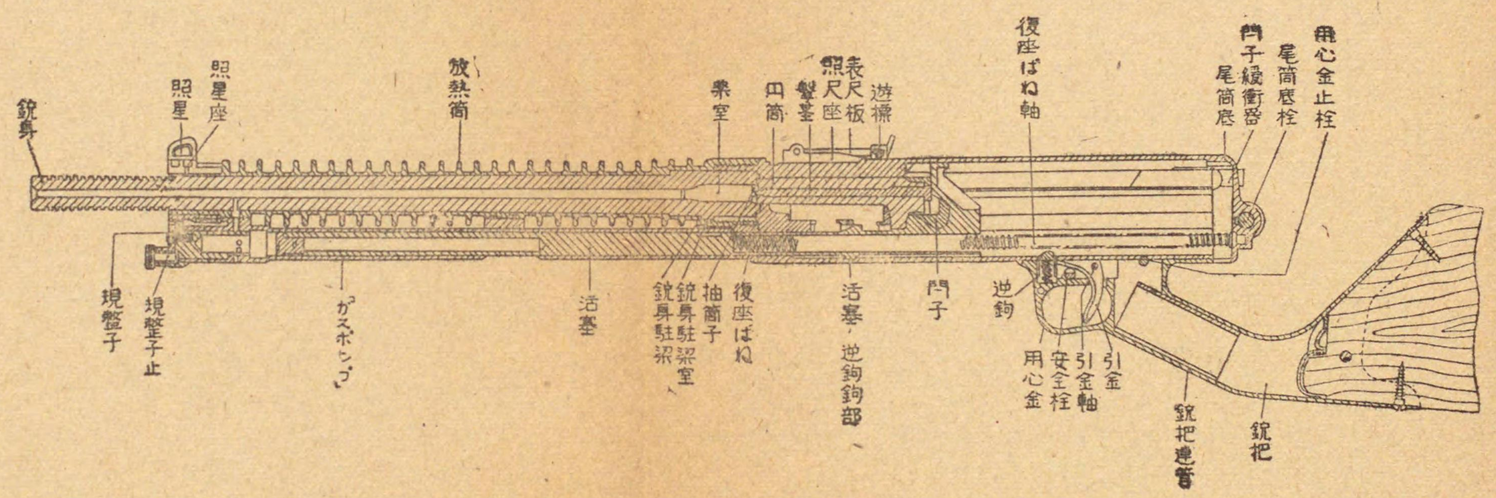
3 銃尾機關ハ活塞、後座ばね、積桿ばね、圓筒子及挿筒子ばねヨリ成ル

4 裝彈機開ハ裝塡架、裝塡架止、裝塡架止ばね、裝塡架止小ねじ、支彈ばね、裝塡架附板、挿彈倉子受左右、壓桿止、彈送止、彈送止ばね、彈送、彈送底、壓桿、壓桿ばね、壓桿ばね筒附板、挿彈子受ばね、彈送座、下部彈送、誘導子、誘導子ばね及上部彈送ヨリ成ル

5 銃床ハ體、負革止、負革止座、小ねじ、座板、銃把鋲、銃把鋲管、用心金、用心金止栓、引金、引金軸、安全栓、逆鉤、逆鉤ばね、床尾板、床尾板木ねじ、銃把、銃把連管、銃把隔板及銃把木ねじヨリ成ル

6 脚ハ脚頭、脚頭軸、脚桿、踵鐵左右及鋲ヨリ成ル

十一年式輕機關銃斷面圖

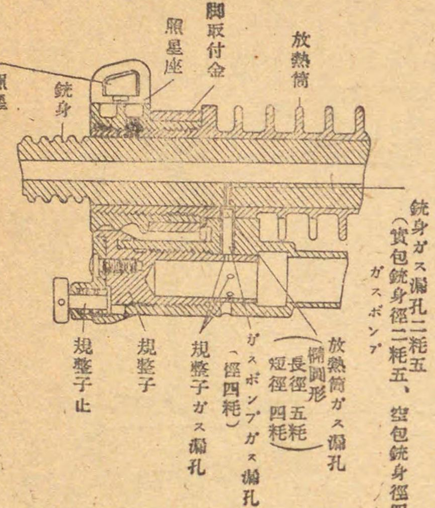


二　屬品ハ負革、銃口蓋、銃被、握革、裝塡架袋、手入具袋、手入具箱、油入、閂子、「ガスポンプ」洗頭、洗頭、圓筒洗管、手入棒、洗管、清焔器）屬品袋、（屬品差、さく杖、規整子回、打殼拔、槌、「ピン」拔、「ガス」掻、復座ばね、ねじ回、藥莢拔、豫備品入）銃身袋及銃身口蓋ヨリ成ル

三　規整子ノ構造

（附圖第　頁參照）

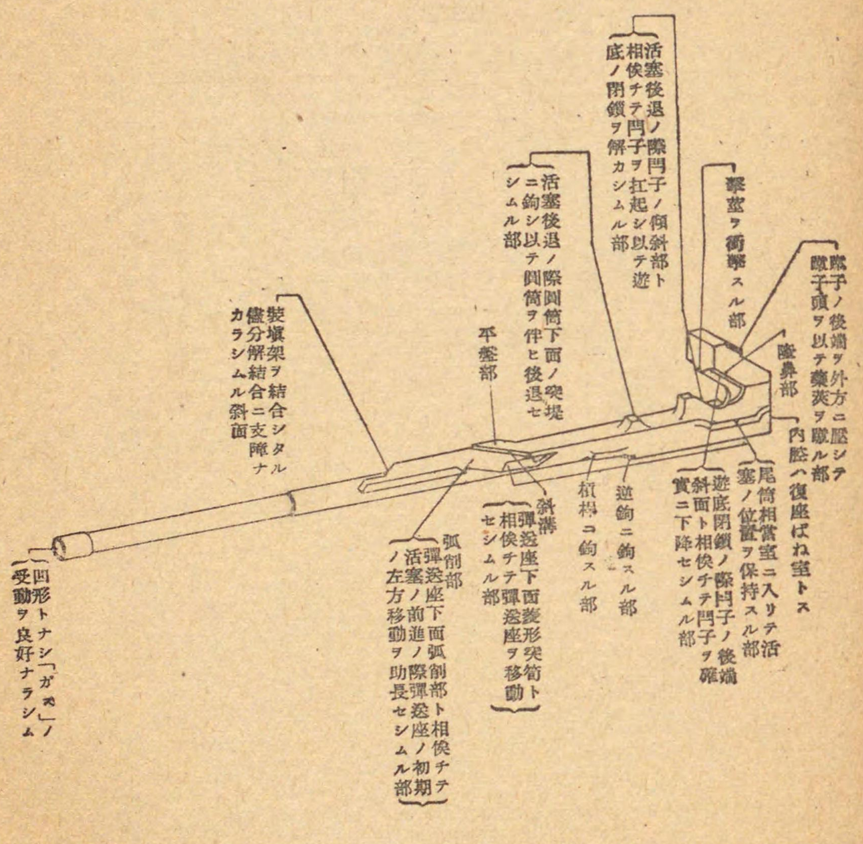
四　銃身放熱筒、「ガスポンプ」規整子ノ「ガス」漏孔部ノ結合狀態



六　活塞ノ構造

活　塞

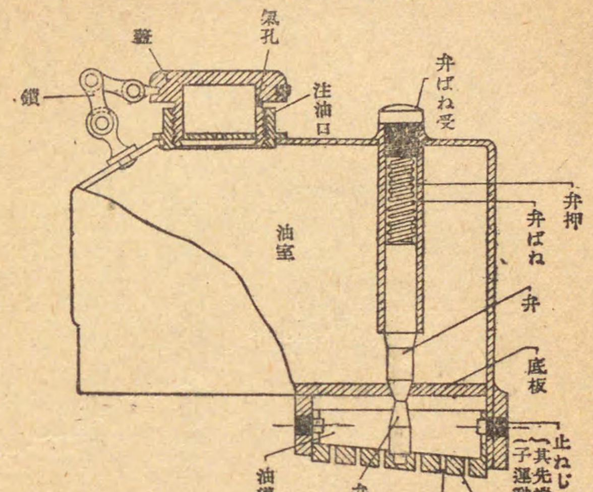
火藥ガスノ壓力ヲ受ケテ後退シ復座ばねノ彈發力ヲ受ケテ前進シ底遊ノ開閉及裝塡作用ヲ掌ル主體ナリ



五　油入ノ構造

油　入

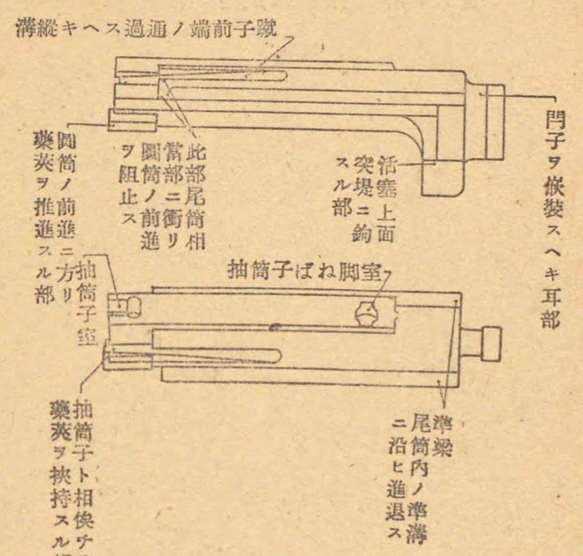
尾筒上面前方ニ裝シ油約五十瓦ヲ收容シ實包ニ塗油スル作用ヲ爲ス



七　圓筒ノ構造

圓　筒

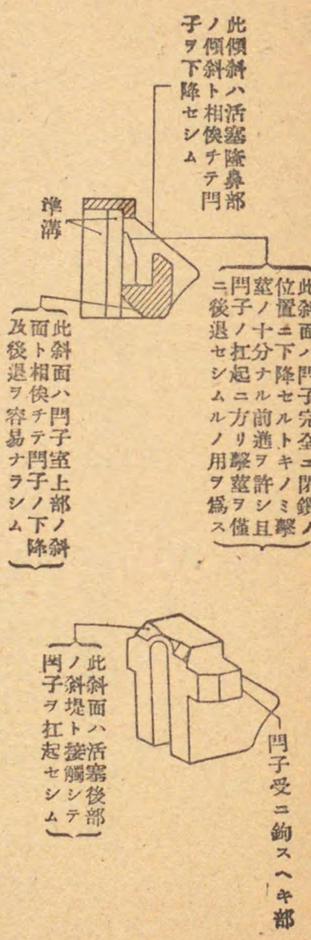
銃身後端ヲ閉塞スル部品ニシテ内室ニ撃茎ヲ收容ス



八　門子ノ構造

門　子

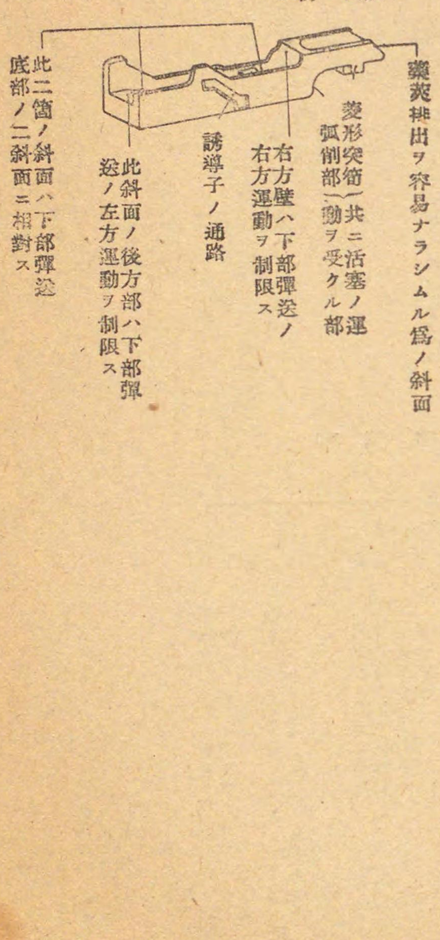
内部ノ準溝ニ依リ圓筒ニ嵌装シ閉鎖ノ位置ニ保確ニ受ケ後尾端ヲ撃茎ヲ有スル室ヲ内ヘ方ニ



九　彈送座ノ構造

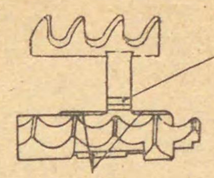
彈　送　座

上部彈送及下部彈送ヲ重ネ結合シ裝塡架彈送室内ニ於テ左右ニ運動シ彈送止ニ依リ脫出ヲ防止セラル

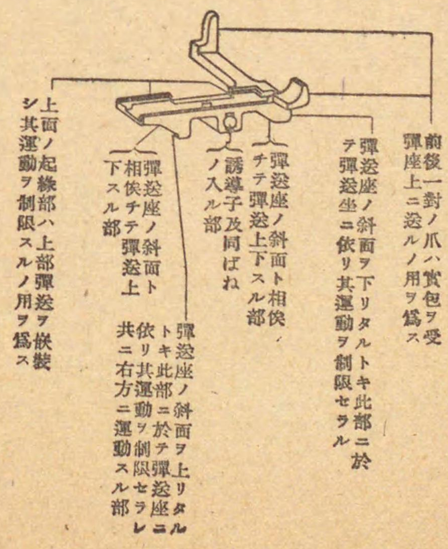


十　上部、下部彈送ノ構造

上部彈送



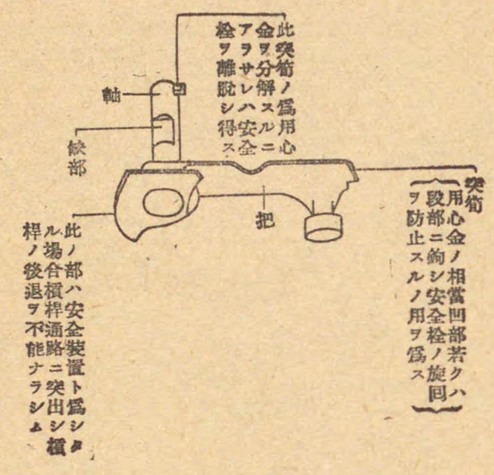
下部彈送



十一　安全栓ノ構造

安全栓

軸ヲ以テ用心金ニ結合セラレ軸ニ設ケ裝發擊發裝置ト為シタルトキハ平水ニセハ安全裝置ナリ垂直ニセハ安全裝置ナルナリ

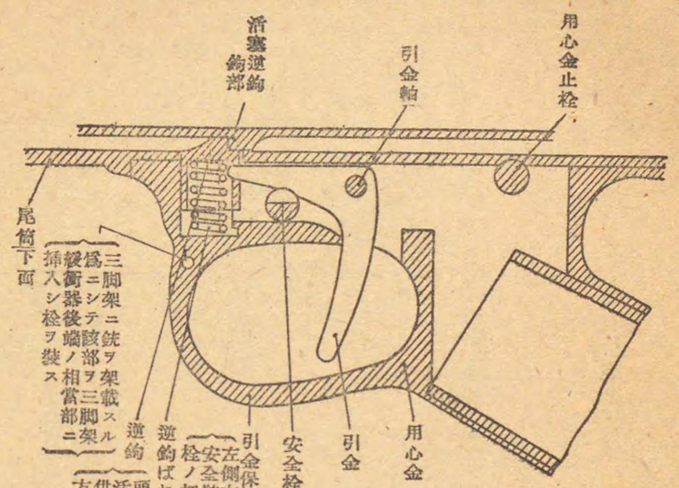


十二　用心金、引金、逆鉤、安全栓及活塞ノ關係

第百二十 銃尾機關ノ機能左ノ如シ

第二款 銃尾機關ノ機能

用心金引金逆鉤安全栓及活塞ノ關係



一 射擊前ニ於ケル閉鎖位置

1 槓桿ハ前方ニ位置ス

2 活塞ハ前方ニアリテ遊底ヲ閉鎖ノ位置ニ保持ス

3 彈送座ノ菱形突筍ハ活塞平盤ノ左後方ニアリ彈送座ハ裝塡架彈送室ノ左端ニ位置ス

4 上下彈送座内ニ低下シ其ノ爪ハ彈送底ニ沈下ス

5 下部彈送ノ誘導子頭ハ彈送座斜孔ノ右下部ニアリテ彈送室ノ鉤形窓下部ニ突出ス

二 彈藥ノ裝塡

1 壓桿ヲ起シ挿彈子ニ裝セル實包ヲ彈倉ニ入レ壓桿ヲ倒ス

2 挿彈子受ばねハ挿彈子ノ左方内側ニ接シ挿彈子ヲ支持ス

三 遊底ノ開退

1 槓桿ヲ十分後方ニ引キ活塞ヲ後退セシム

2 活塞後退スルヤ閂子ハ扛上セラレ閉閂ヲ解キ擊莖ヲ後退セシム

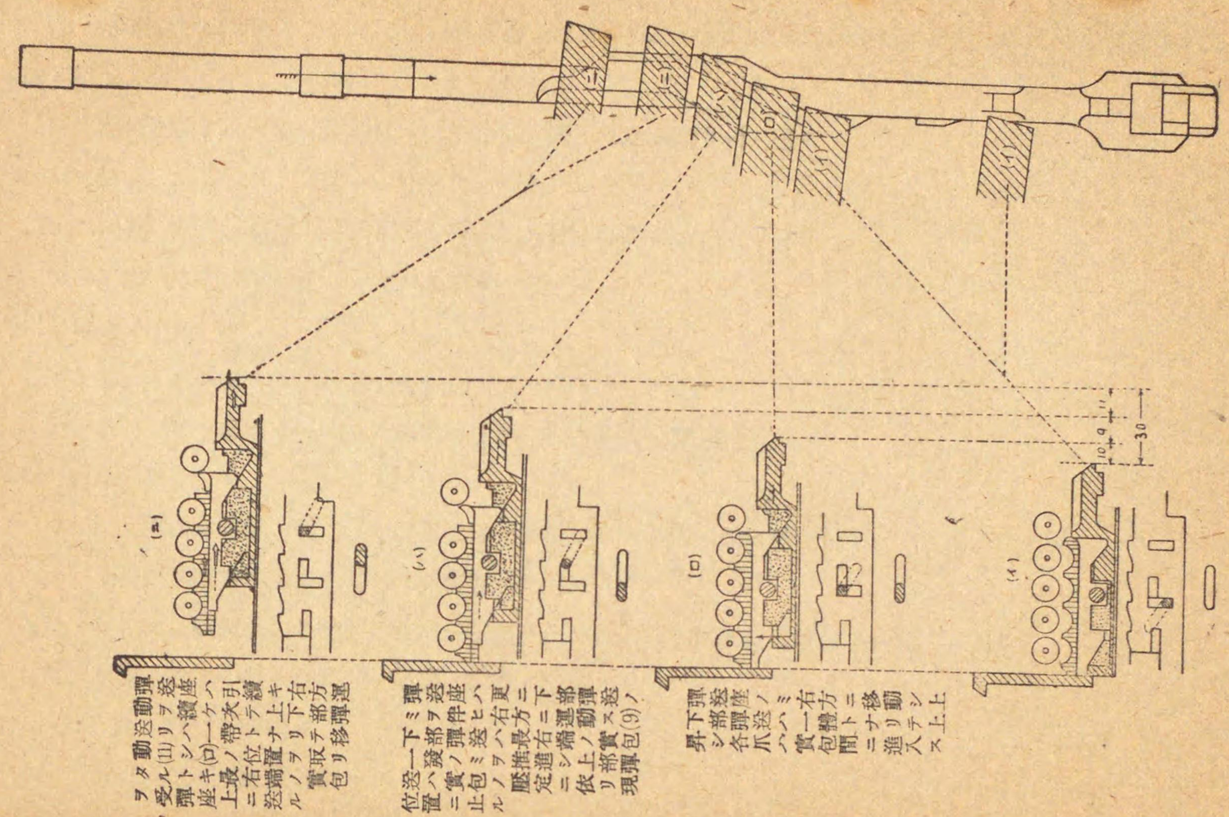
3 圓筒ハ活塞ノ突堤ニ鉋セラレテ共ニ後退ス

4 活塞尚後退スルヤ其ノ逆鉤々部ハ逆鉤ヲ壓下シテ通過シ之ヲ鉤ス

四 送彈作用

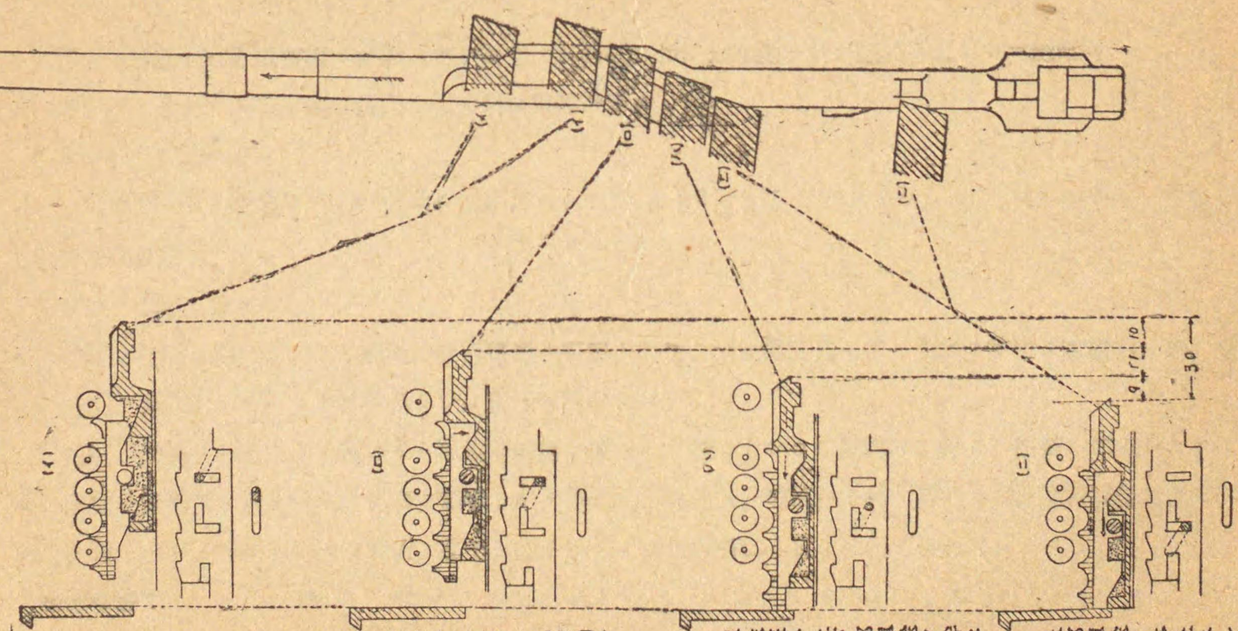
1 活塞ノ後退ニ伴ヒ彈送座ハ活塞平盤部ノ斜溝ニ作用シ彈送座下面弧削部ガ活塞平盤部前方左側弧削部ニ支ヘラレルマデ右方ニ運動ス

活塞ノ後退ニ伴フ彈送座及彈送ノ關係



一三〇

活塞ノ前進ニ伴フ彈送座及彈送ノ關係



銃器ノ構造機能取扱　機關銃

一三一

2 彈送座ノ運動ニ伴ヒ上、下部彈送ハ最右端ノ實包ヲ受彈座上ニ其ノ他ノ實包ヲ一實包分宛右方ニ移動ス

3 受彈座上ニ送ラレシ實包ハ支彈ばねヲ壓下シ油導子ヲ扛上シテ塗油セラレ、支彈ばねト尾筒ノ圓筒通路附板ニ依リ受彈座上ニ安置セラル

五 擊發作用

1 引金ヲ引ケバ逆鉤ハ 下シ活塞ノ鉤止ヲ解キ活塞ハ復座ばね力ニ依リ前方ニ進出ス

2 圓筒ハ頭部ニテ受彈座上ノ實包ヲ推進シ之ヲ藥室内ニ裝塡ス、抽筒子ハ其ノ爪部ニテ藥莢起緣部ニ鉤ス

3 閂子ハ前進シテ閂子室ニ達スルヤ活塞隆鼻部ノ斜面ニテ壓下セラレテ閉閂シ、同時ニ擊莖ヲ自由ナラシム

4 活塞ハ尙前進シ擊莖ヲ衝擊前進セシメ擊發作用ヲナス

5 活塞ノ前進ニ伴ヒ彈送座ハ活塞平盤部斜溝ニ作用セラレ、上下部彈送ト共ニ左方ニ移動シ射擊前ニ於ケル閉鎖位置ノ姿勢ニ復ス

六 發射後ノ機能

1 彈丸銃腔内ヨリ前進シ「ガス」漏孔ヲ通過スルヤ火藥「ガス」ノ一部ハ「ガスポンプ」内ニ入リ活塞頭ニ作用シ活塞ハ圓筒ヲ後退セシム

2 抽筒子ハ藥莢ヲ抽出シ圓筒頭部ト共ニ之ヲ保持後退ス

3 蹴子ハ後端ヲ活塞隆鼻部ニテ壓出サレ前端ニテ藥莢ヲ右下方ニ壓シ之ヲ藥莢排出口ヨリ壓出ス

第三款 分解及結合

第百二十一 普通分解及結合

一 本分解ヲ行フニハ遊底ヲ閉鎖シ置クヲ要ス

二 普通分解ニ於テハ分解スベキ部品及其ノ分解ノ順序左ノ如シ

1 裝塡架
2 油入
3 尾筒底及復座ばね
4 活塞及遊底
5 槓桿
6 規整子

但6ハ此ノ順序ニヨラザルコトヲ得

三 裝塡架ヲ分解スルニハ左ノ順序方法ニ依ル

1 裝塡架ヲ尾筒ヨリ脫スルニハ先ヅ左手ニテ裝塡架ヲ右方ニ壓シ右手ヲ以テ裝塡架止ヲ後方ニ壓シツツ裝塡架ヲ左方ニ離脫ス

2 彈送座ヲ裝塡架ノ彈送室ヨリ脫スルニハ彈送止ヲ扛上シ(要スレバ槌打扛上ス)彈送座ノ右方ヨリ壓シ左方ニ抽出ス

3 上部彈送ヲ下部彈送ヨリ脫スルニハ下部彈送ヲ扛上シタル後上部ノ楕圓突筍ヲ下部彈送ノ前堤截缺部ノ中央ニ位置セシメ上部彈送ノ前方爪部ヲ下ゲ兩者ノ吻合ヲ解キ上方ニ脫ス

4 下部彈送ヲ彈送座ヨリ脱スルニハ誘導子ヲ充分ニ壓入シ下部彈送ヲ彈送座ヨリ離脱ス此ノ際誘導子ヲ飛逸セシメザル如ク注意スベシ

三 裝塡架ニ結合スルニハ分解ト反對ノ順序方法ニ依ル但左ノ件ニ注意スベシ

1 下部彈送ヲ彈送座ニ裝スルニハ誘導子ばねト共ニ下部彈送ニ裝シ其ノ頭部ヲ彈送座ノ後壁ニ當テ壓シツツ上方ヨリ下方ニ嵌裝ス

2 彈送座ヲ裝塡架ニ裝スルニハ彈送ヲ右方ニ位置セシメ誘導子ヲ指頭ヽテ壓シ挿入スベシ

3 裝塡架ノ裝入部ヲ尾筒ノ室ニ對向セシメ徐〻ニ右方ニ壓入シ裝塡架止ヲ確實ニ尾筒ニ鉤セシムベシ

四 油入ヲ離脱スルニハ油入止ヲ壓下シ之ヲ左方ニ水平ニ抽脱ス油入ヲ結合スルニハ油入底面ノ燕尾形脚ヲ尾筒ノ相當溝ニ吻合セシメ確實ニ油入止ニ鉤ス

五 尾筒及復座ばねヲ分解スルニハ左ノ順序方法ニ依ル

1 尾筒底ヲ左手ニテ握リ(爲シ得レバ尾筒底支耳ヲモ同時ニ握リアルヲ可トス)之ヲ十分前方ニ壓シ右手ヲ以テ尾筒底栓ヲ摘ミ右方ニ引キツツ下方ニ次ニ後方ニ引キ右手ヲ復座ばねニ添ヘ共ニ後方ニ抽出ス

2 復座ばねヲばね軸ヨリ脱ス

3 尾筒底及復座ばねヲ結合スルニハ分解ト反對ノ順序方法ニ依ル此ノ際活塞ヲ十分前方ニ進メ復座ばねヲ屈曲セザルコト及尾筒底ヲ十分ニ前方ニ壓著シ尾筒底栓ヲ裝入スルコトニ注意スベシ

六 活塞及遊底ヲ分解スルニハ左ノ順序方法ニ依ル

1 尾筒後端ニ右手ヲ當テ槓桿ヲ十分後方ニ引キ次ニ左手ヲ以テ遊底ヲ閉鎖ノトキト同樣ノ關係ニシ遊底及活塞隆鼻部ヲ共ニ握リ以テ活塞ヲ後方ニ引キ右手ヲ添ヘテ遊底活塞ヲ抽脱ス

2 擊莖ヲ圓筒内ヨリ抽出シ閂子ヲ離脱ス

3 抽筒子ばねノ頭部ヲ手入桿ヲ以テ扛起シ直角ニ旋回シテ之ヲ離脱シ抽筒子ヲ其ノ室ヨリ抽脱ス

4 活塞及遊底ヲ結合スルニハ分解ト反對ノ順序方法ニ依ル但閂子ハ扛上ノ位置ニ於テ尾筒ノ準溝ニ裝入シ引金ヲ引キ活塞ヲ前進セシムベシ

七 槓桿ヲ分解スルニハ左ノ順序方法ニ依ル

1 槓桿ヲ十分後方ニ引キ左方ニ脱ス

2 槓桿ばねヲ槓桿ヨリ離脱スルニハ其ノ爪部ヲ外方ニ壓シツツ直角ニ旋回シテ外方ニ脱ス

3 結合ハ分解ト反對ノ順序方法ニ依ル

八 規整子ヲ離脱スルニハ止ヲ抽キ少シク旋回シテ抽出ノ位置ニアラシメ規整子ヲ戻回離脱ス要スレバ規整子回ヲ使用スベシ

結合ハ分解ト反對ノ順序方法ニ依ル但シ規整子頭ノ後緣ヲシテ「ガスポンプ」ノ二平行線間ニ在ラシメ其ノ所要分畫ヲ「ガスポンプ」ノ縱線ニ一致セシム

第百二十二 特別分解及結合

一 特別分解ニ於テ分解シ得ル部品左ノ如シ

1 放熱筒及銃身

2 銃床

3　安全栓、引金、逆鉤
4　蹴　子
5　装塡架
6　油　入
7　規整子
8　閂子受被及閂子受
9　表尺板照尺ねじ
10　閂子緩衝器

1乃至4ハ射撃若クハ手入ノ際特ニ必要アルトキ幹部監督ノ下ニ之ヲ實施シ5乃至10ハ修理ノ際將校監督ノ下ニ之ヲ實施スルコトヲ得

二　放熱筒及銃身ヲ分解スルニハ左ノ順序方法ニ依ル但豫メ装塡架、遊底及活塞ヲ離脱シ置クベシ

1　負革ヲ離脱ス
2　栓抜ニテ「ガスポンプ」栓ヲ抽脱シタル後尾筒ヲ戻回シテ銃身ト共ニ放熱筒ヲ離脱ス、此ノ際規整子ヲ離脱セル場合ニ在リテハ脚取附金ノ内側ヲ以テ「ガスポンプ」ノ尖端ヲ損傷セザルコトニ注意ヲ要ス
3　銃身ヲ前方ヨリ壓シテ後方ニ抽出シ放熱筒ヨリ離脱ス
放熱筒及銃身ノ結合ハ左ノ順序方法ニ依ル
1　銃身ヲ放熱筒ニ装スルニハ銃身上面ノ縦線ト放熱筒上面縦線ト一致セシメ徐ゝニ装入シテ銃身後端面ト放熱

筒後端面トヲ一致セシム
2　放熱筒ニ尾筒ヲ装シ次デ尾筒ヲ旋回シ「ガスポンプ」後端左側ノ鍔部ガ尾筒ニ鉤スルマデ螺入シ尾筒及「ガスポンプ」栓ヲ挿入ス

三　銃床ヲ分解スルニハ豫メ装塡架、遊底及活塞ヲ離脱シタル後栓抜ニテ用心金止栓ヲ左方ニ抽脱セシメタル後引金ヲ十分ニ引キツツ後方ニ銃床ヲ抽脱ス
結合ハ分解ト反對ノ順序方法ニ依ル但用心金止栓ヲ装スルニ方リテハ左方ヨリシ用心金止栓頭部ニ在ル刳缺部ヲ上方ニ向ハシムルコトニ注意スベシ

四　安全栓、引金及逆鉤ヲ分解スルニハ左ノ順序方法ニ依ル
1　安全栓ヲ下方ニ次ニ前方ニ駐止スルマデ旋回シ之ヲ左方ニ抽脱ス
2　「ピン」抜ニテ引金軸ヲ抽脱シ指頭ヲ以テ逆鉤頭部ヲ壓シ逆鉤ヲ飛逸セシメザル如ク注意シツツ引金ヲ離脱シ逆鉤及ばねヲ離脱ス安全栓、引金、逆鉤ノ結合ハ分解ト反對ノ順序方法ニ依ル
蹴子ヲ分解スルニハ「ピン」抜ニテ蹴子軸ヲ抽脱シタル後蹴子ヲ離脱ス結合ハ反對ノ順序方法ニ依ル

五　装塡架ヲ分解スルニハ左ノ順序方法ニ依ル
1　壓桿ハ壓桿止ヲ抽脱セル後壓桿ヲ扛起シ槌ノ柄(壓桿分解器)ヲ以テ壓桿ばね筒ヲ壓縮シ壓桿ヲ更ニ扛起シテ壓桿頭部ト筒トノ接觸ヲ絶チ徐ロニ力ヲ緩メばね筒ト共ニばねヲ抽出ス此ノ際ばね筒及ばねヲ飛逸セシメザルコト及危害豫防ニ就キ十分注意スベシ次デ耳部ノ吻鉤ヲ解キ壓桿ヲ離脱ス
2　彈送止ハ之ヲ上方位置ニシテ規整子同ノ突筍ヲ以テ彈倉内ヨリ彈送止ばねヲ壓縮シ彈送止ヲ上方ニ抽脱ス

結合ハ分解ト反對ノ順序方法ニ依ル

六　油入ヲ分解スルニハ辨ばね蓋ヲ螺脱シ辨及同ばねヲ上方ニ抽脱ス次ニ油導子小ねじヲ螺脱シ油導子ヲ下方ニ抽脱ス

結合ハ分解ト反對ノ順序方法ニ依ル

七　規整子ヲ分解スルニハ規整鋲頭ヲやすりがけシ鋲ヲ抽脱シ頭ヲ螺脱ス次ニ小ねじヲ離脱シ座ヲ脱シ次デ止及同ばねヲ離脱ス

結合ハ分解ト反對ノ順序方法ニ依ル但シ抽脱セル小ねじ及鋲ハ之ヲ交換シ座ニ挿入後端ヲ鋲著スベシ

八　閂子受被及閂子受ノ分解ハ左ノ順序方法ニ依ル

1　閂子受小ねじヲ螺脱ス

2　銅桿ヲ閂子受被下面ニ當テ之ヲ輕打シツツ上方ニ離脱ス

3　右方閂子受上方ノ孔ヨリ閂子受分解器ヲ左方閂子受ニ當テ槌打シ之ヲ外方ニ離脱ス

4　右方閂子受ハ左方閂子室ヨリ銅桿ヲ挿入シ之ヲ槌打シ離脱ス

5　閂子受及閂子受被ノ結合ハ分解ト反對ノ順序方法ニ依ル

九　表尺板及照尺ばねノ分解ハ左ノ順序方法ニ依ル

1　表尺板ヲ最低ノ位置ニ置キ其ノ前端ヲ槌ノ柄ヲ以テ壓下シ耳部ノ吻鉤ヲ解キツツ後方ニ抽出ス

2　表尺板ヨリ遊標ヲ抽脱シ止「ピン」トばねト共ニ離脱ス

3　照尺ばねハ後部上面ノ凹部ニ「ピン」拔ヲ當テ之ヲ輕打シツツ前方ニ離脱ス

4　表尺板及照尺ばねノ結合ハ分解ト反對ノ順序方法ニ依ル

十　閂子緩衝器ヲ分解スルニハ「ナット」ノ鋲頭ノ一方ヲやすりがけシ鋲抽脱シ「ナット」ヲ螺脱ス次ニばね軸ヲ尾筒底ヨリ離脱シタル後ばね及ばね軸ヲ體ヨリ脱ス

結合ハ分解ト反對ノ順序方法ニ依ル但抽脱セル鋲ハ之ヲ交換シ端末ヲ鋲著スベシ

第二節　九六式輕機關銃

第一款　構造

第百二十三　九六式輕機開銃ハ銃ト屬品トヨリ成ル

一　銃ハ銃身、「ガスポンプ」、尾筒、銃尾機關、尾筒底、槓桿、銃床、脚、彈倉及眼鏡ヨリ成ル

1　銃身ハ支箍、照星、規整子及提把ノ附隨品ヲ有ス

2　尾筒ハ銃身止、彈倉止、彈倉室蓋、蹴出口蓋、蓋軸、蹴子、蹴子被、尾筒底駐栓、閂子室蓋及照尺ノ附隨品ヲ有ス

3　銃尾機關ハ活塞、圓筒、活塞止、抽筒子、擊莖及閂子ヨリ成ル

4　尾筒底ハ復座ばね、ばね軸、緩衝器及ばね室ノ附隨品ヲ有ス

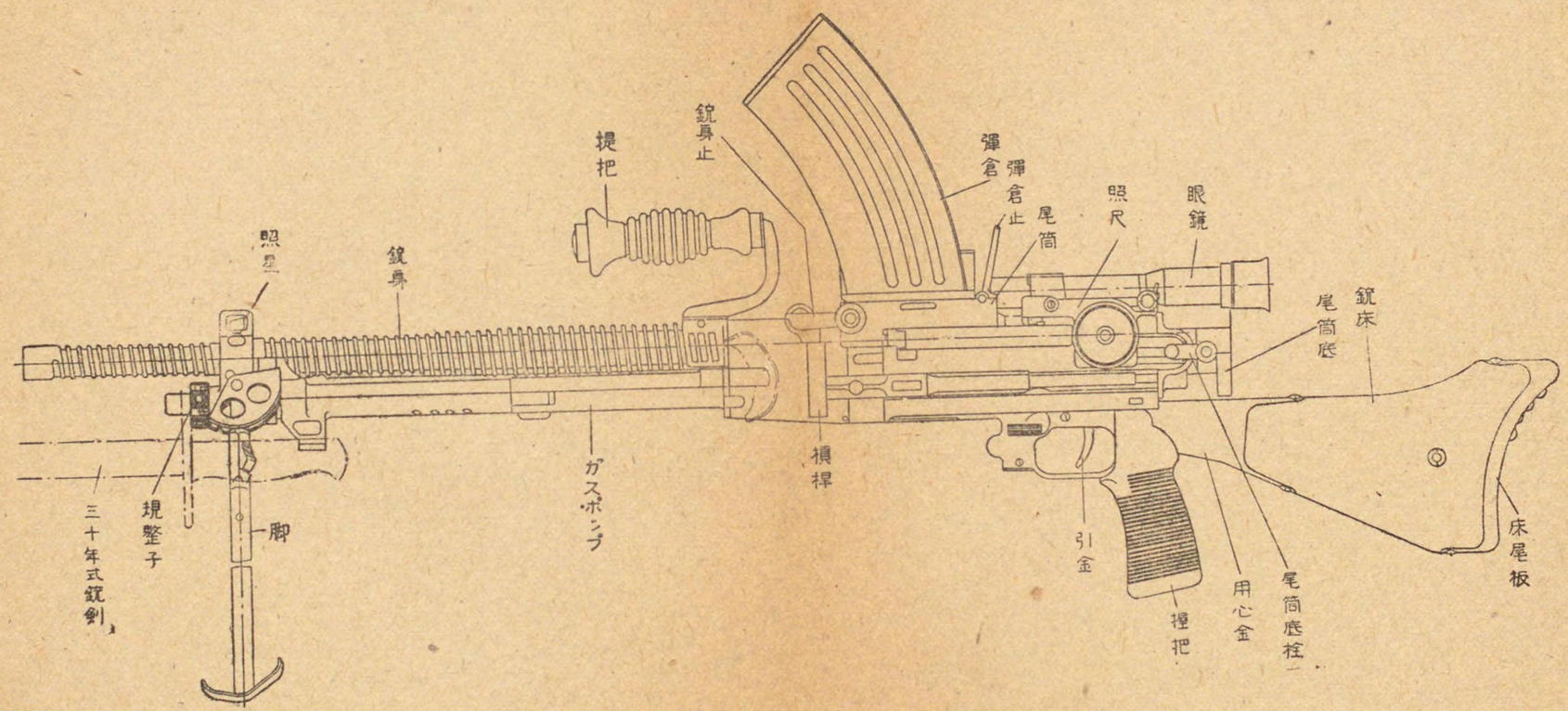
5　銃床ハ用心金、逆鉤、安全栓、引金、逆鉤壓桿、握把及閂子結合子ノ附隨品ヲ有ス

6　脚ハ脚頭、脚桿頭及脚桿ヨリ成ル

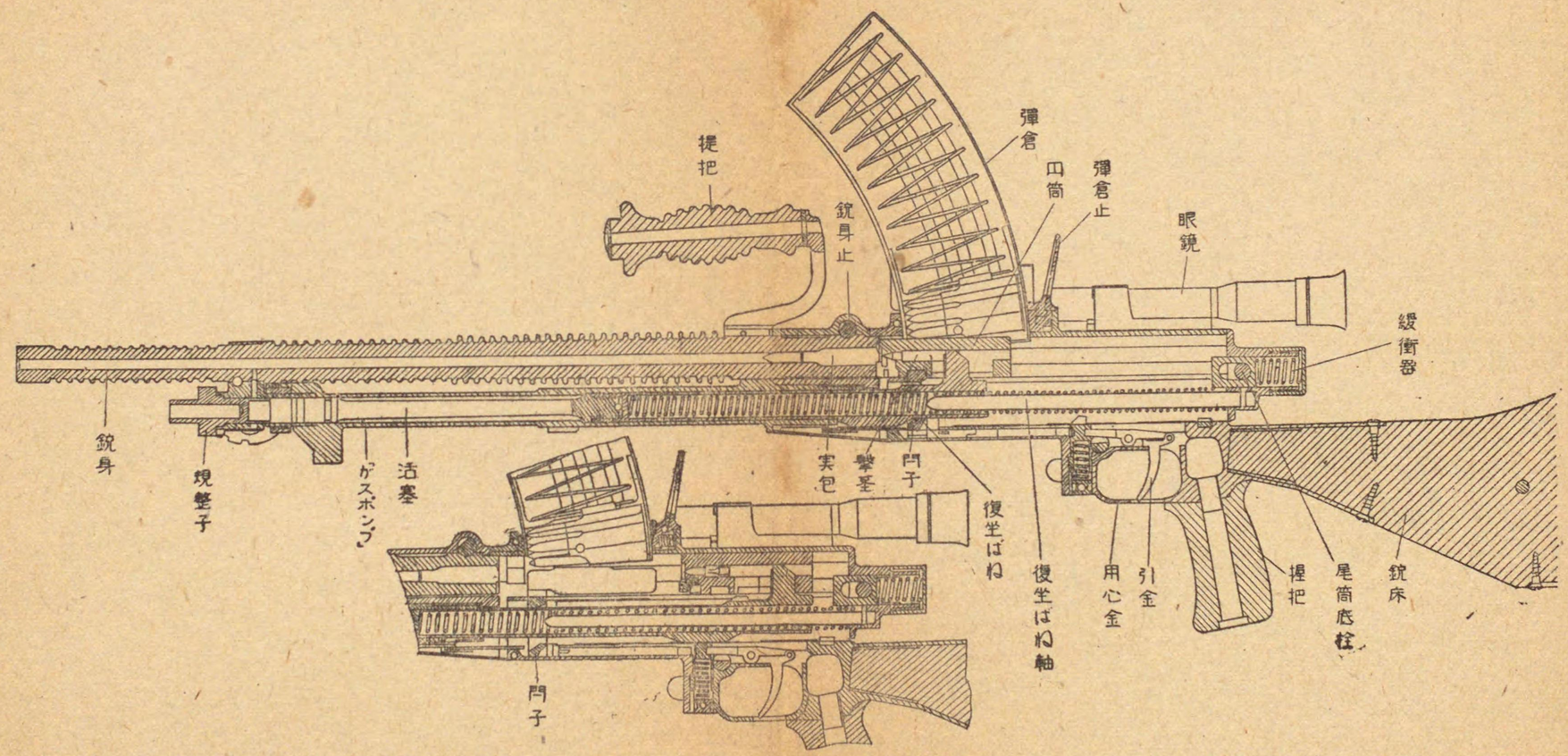
二　屬品ハ負革、銃口蓋、銃被、屬品袋、手入具袋、彈倉袋、彈倉口蓋、彈袋、裝彈器袋、眼鏡袋及各袋ノ收入品

ヨリ成ル

九六式輕機關銃


銃身止
提把
彈倉
彈倉止
尾筒
照尺
眼鏡
照星
銃身
尾筒底
銃床
三十年式銃劍
規整子
脚
ガスポンプ
槓桿
引金
用心金
尾筒底栓
床尾板
握把

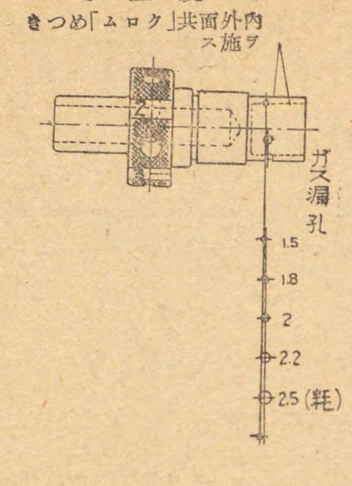
九六式輕機關銃斷面



活塞後退姿勢

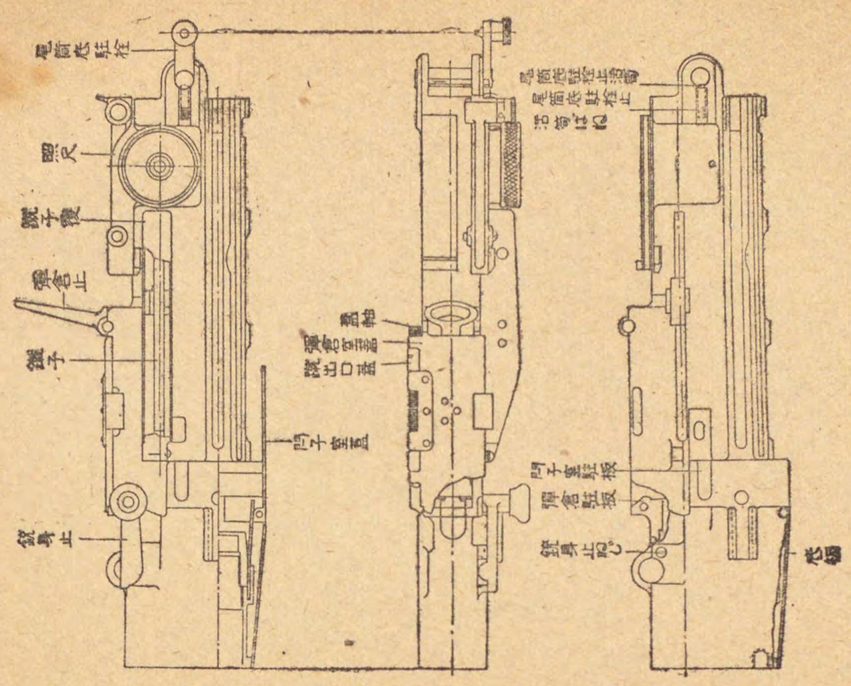
三　規整子ノ構造

規整子



四　尾筒ノ構造

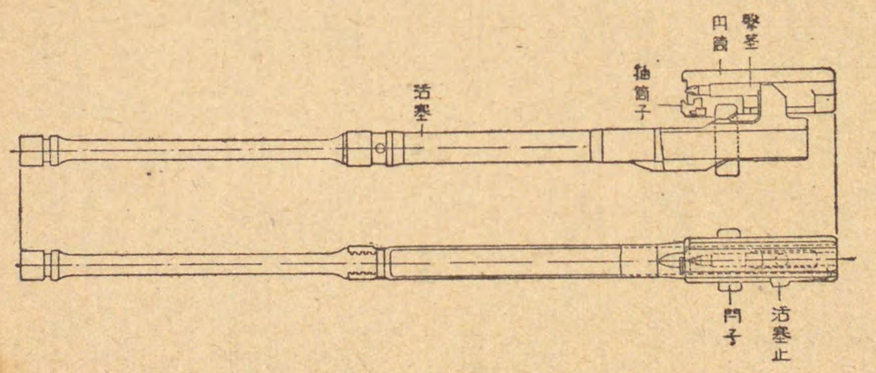
尾筒



五　銃尾機關ノ結合狀態

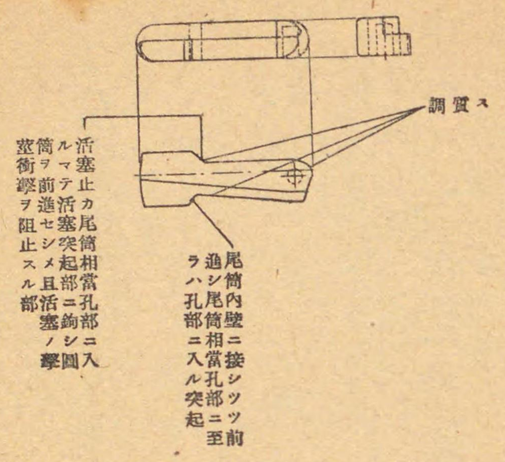
銃尾機關

活塞前進シタル狀態



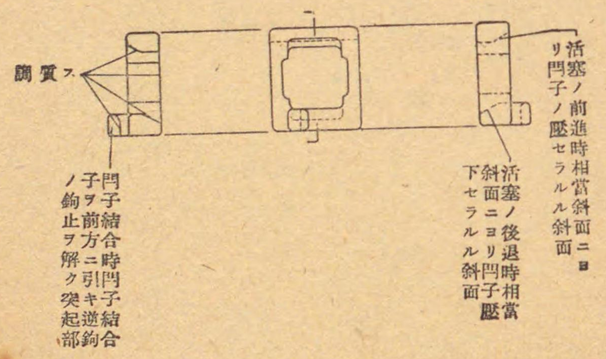
八　活塞止ノ構造

活　塞　止



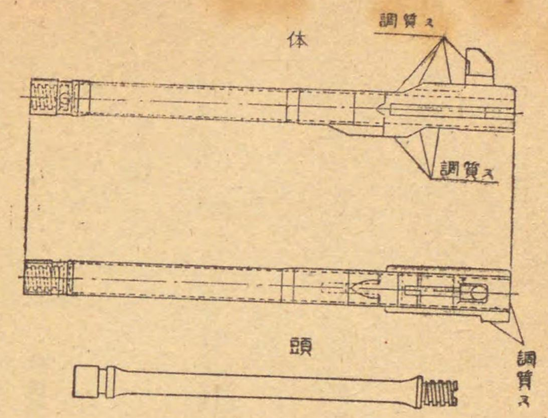
九　閂子ノ構造

閂　子



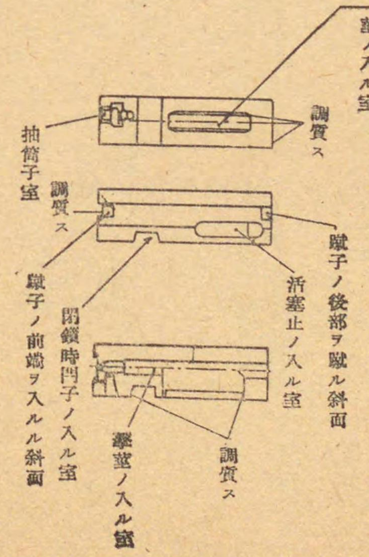
六　活塞ノ構造

活　塞



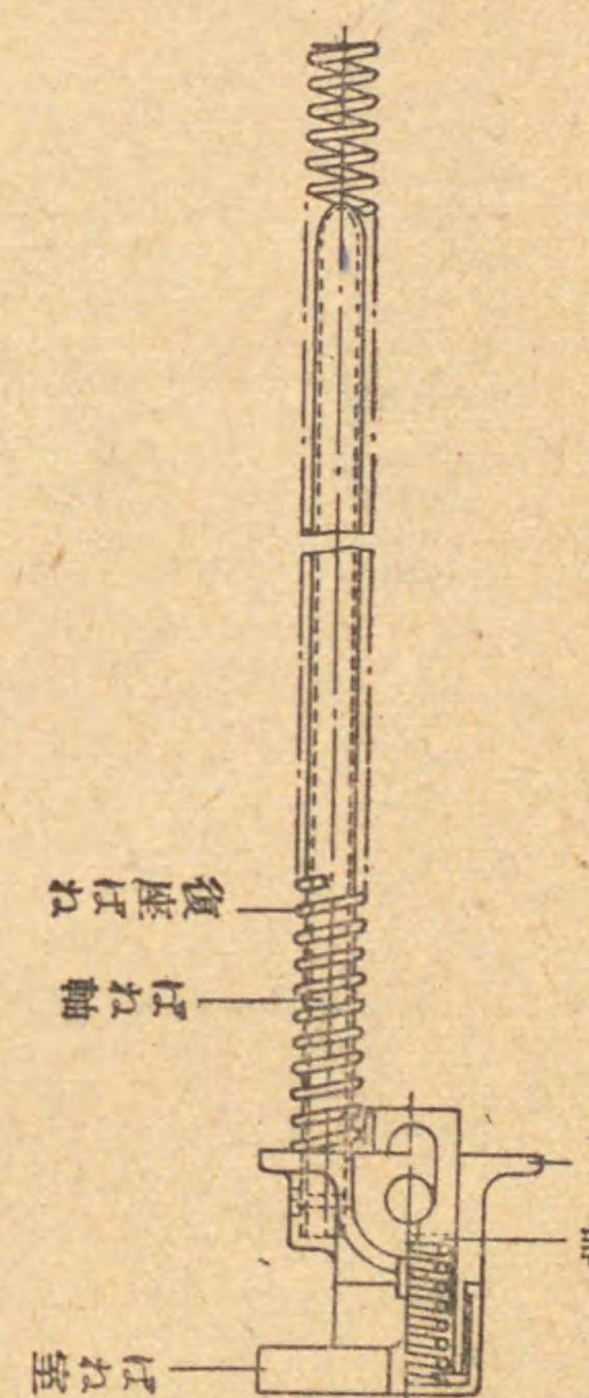
七　圓筒ノ構造

圓　筒

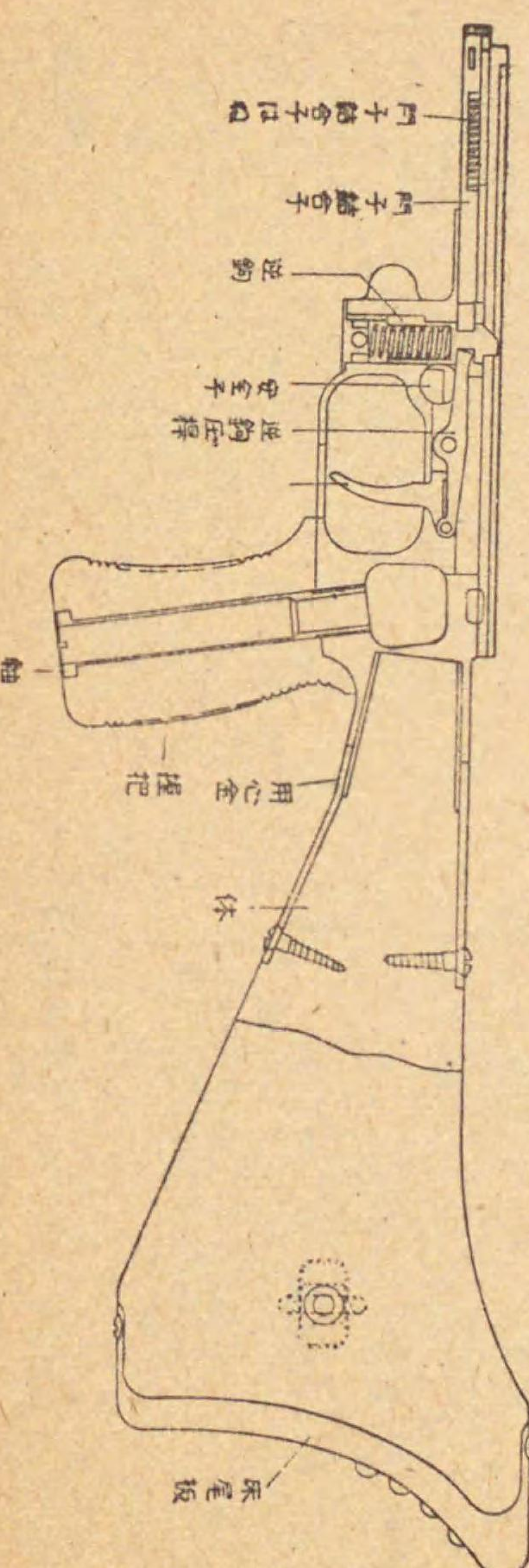


十　尾筒底及附屬品ノ構造

尾筒底及附屬品



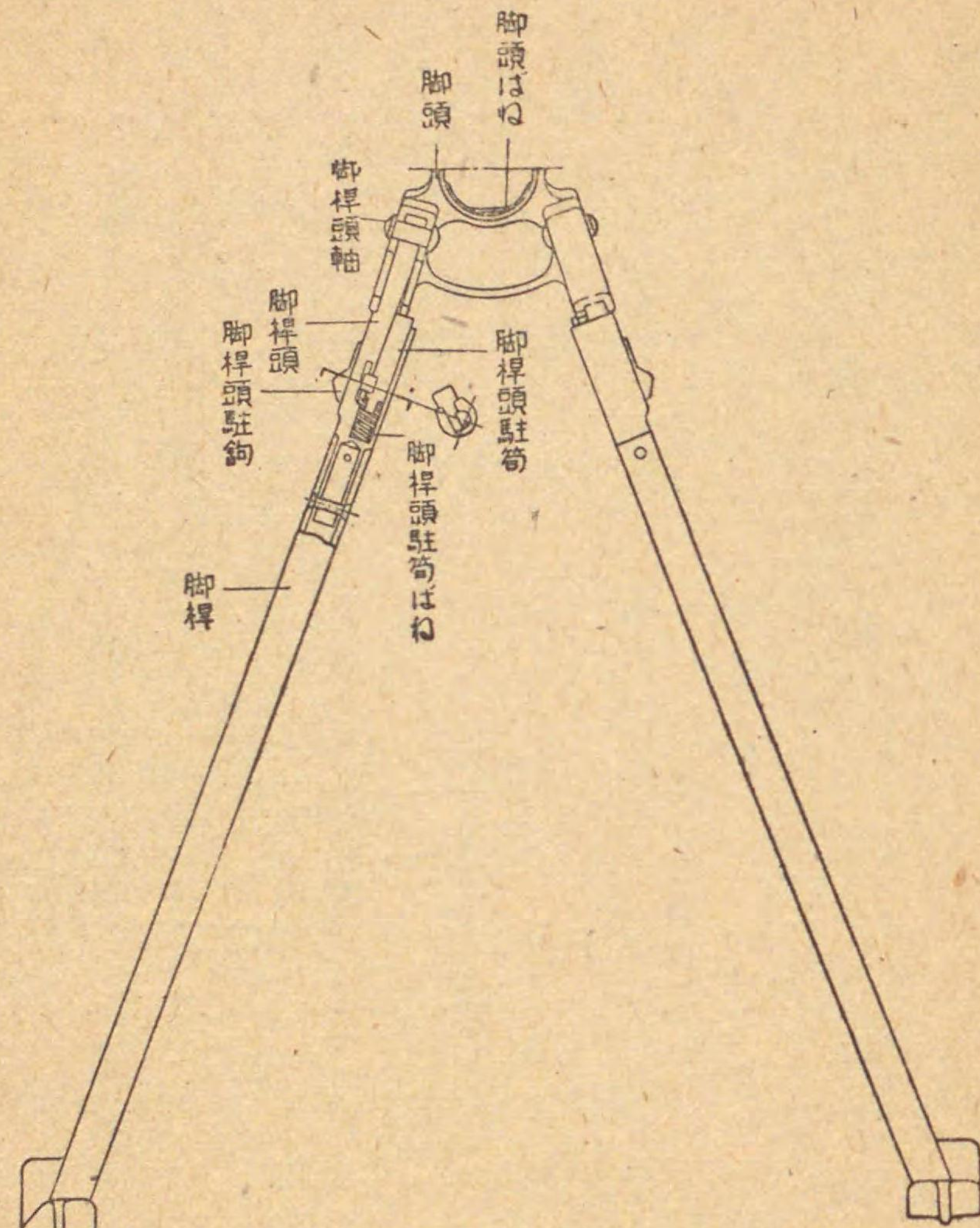
十一　銃床ノ構造

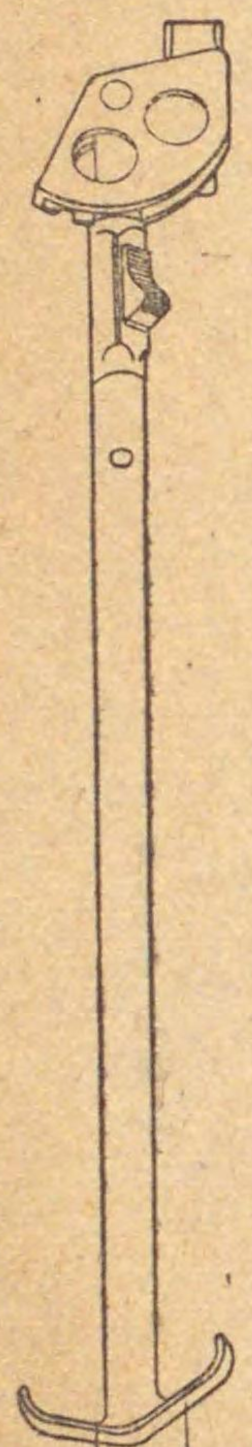


銃床

十二　脚ノ構造

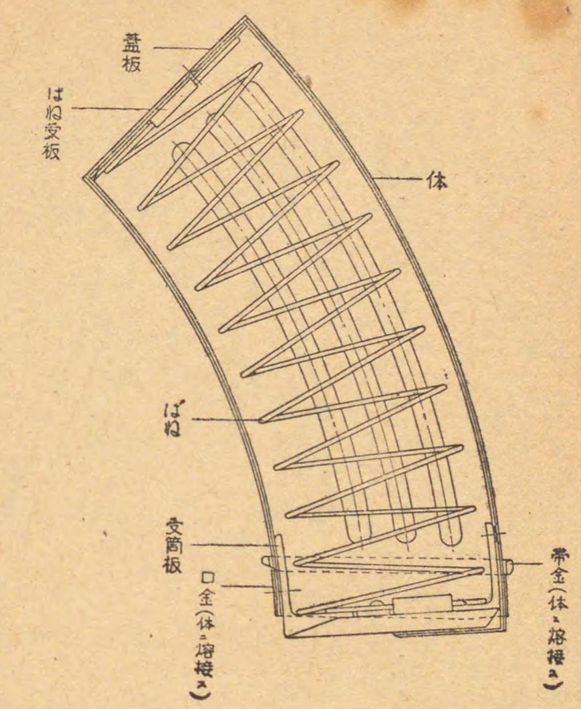
脚





十三　彈倉ノ構造

彈倉



第二款　銃尾機關ノ機能

第百二十四　銃尾機關ノ機能左ノ如シ

一　彈倉ニ實包ノ充塡

彈倉口部　裝彈器ヲ裝シ一五發宛二回、一彈倉ニ三〇發ヲ充塡ス

二　射擊前ニ於ケル閉鎖位置

1　槓桿ハ前方ニ在リ

2　活塞ハ復座ばね力ニヨリ前方ニ位置シ銃尾機關ヲ閉鎖ス

三　銃尾機關ノ開退

1　槓桿ヲ後方ニ引ケバ槓桿鉤板ハ活塞ヲ後退セシム

2　活塞ノ後退ニ伴ヒ

イ　復座ばねハ壓縮セラル

ロ　閂子ハ壓下セラレ圓筒ノ鉤止ヲ解ク

ハ　活塞止ハ活塞突起部ニ壓セラレ尾筒トノ鉤止ヲトキ圓筒ト共ニ後退ス

ニ　活塞ノ逆鉤々部ハ逆鉤ヲ壓下シ之ヲ通過ス

ホ　最後ニ活塞及圓筒ハ緩衝器ニ當リ停止ス

3　槓桿ヲ緩ムレバ活塞ハ復座ばね力ニヨリ僅カニ前進シ逆鉤ニ鉤シ擊發姿勢ヲトル

4　槓桿ヲ前方ニ復歸セシム

四　彈倉ノ裝著

1　彈倉室蓋ヲ開ク

2　彈倉口部前方ノ凹部ヲ彈倉駐板ニ鉤セシメタル後後部ヲ强ク壓下シ彈倉止ニ鉤止セシム

五　發射

1　引金ヲ引ケバ逆鉤ハ壓下シ活塞ノ鉤止ヲ解ク

2　活塞ハ復座ばねノ彈撥力ニヨリ前進ス

3　活塞ノ前進ニ伴ヒ

(イ)　活塞止ハ活塞突起部前面ニテ押サレ圓筒ヲ前進セシム

(ロ)　圓筒ハ其ノ頭部ニテ彈倉內最下ノ實包ヲ押シ進メ之ヲ藥室內ニ裝塡ス

(ハ)　抽筒子ハ其ノ爪ニテ藥莢起緣部ニ鉤ス

(ニ)　活塞止ノ外方鉤部ハ尾筒ノ窓ニ突出シ活塞下ノ鉤止ヲ解ク

(ホ)　門子ハ壓上セラレ圓筒凹部ニ吻鉤ス

(ヘ)　活塞ハ尙僅カニ前進シ擊莖ヲ衝擊シ擊發作用ヲナス

4　活塞ハ其ノ逆鉤々部尾筒ニ當リ停止ス

六　發射後ノ機能

1　彈丸銃腔內ヲ前進シ「ガス」漏孔ヲ通過スルヤ火藥「ガス」ノ部ハ「ガスポンプ」內ニ入リ活塞頭ニ作用シ活塞ヲ後退セシム

2　門子ハ壓下セラレ圓筒ノ鉤止ヲ解キ圓筒ハ後退シ發射前ニ於ケル開退位置ヲトル

3　抽筒子ハ打殼藥莢ヲ抽出シ圓筒頭部ト共ニ之ヲ保持後退シ打殼藥莢ハ蹴子ニ作用セラレ蹴出口蓋ヲ押開キ右下方ニ壓出セラル

4　引金ヲ引キアラザルトキハ單發射擊トナリ引金ヲ引キアルトキハ彈倉ニ實包ノアル限リ連續射擊トナル

七　彈倉ノ離脫

1　彈倉ヲ離脫スルニハ槓桿ヲ十分後方ニ引キ活塞ヲ逆鉤ニ鉤止セシム

2　彈倉止ヲ前方ニ壓シタル儘彈倉ヲ後方ヨリ前方ニ傾ケ上方ニ離脫ス

第三款　分解及結合

第百二十五　普通分解及結合

一　普通分解ニ於テ分解及離脫シ得ベキ部品竝ニ順序左ノ如シ

本分解ヲ行フニハ銃尾機關ヲ閉鎖シ置クヲ要ス

1　眼鏡

2　彈倉

3　銃身

4　規整子

5　支箍ばね

6　尾筒底

7　銃尾機關

但1項乃至5項ハ此ノ順序ニ依ラザルコトヲ得

二　眼鏡　尾筒ヨリ眼鏡ヲ離脱スルニハ緊定把ヲ緩メタル後緊定轉輪ヲ後方ニ緊定桿ノ停止スルマデ十分戻回シ次デ體ヲ握リ徐〻ニ後方ニ引キ抽脱ス

三　彈倉　彈倉ヲ分解スルニハ蓋板孔部ノばね受板凸部ヲ壓入シツツ蓋板ヲ後方ニ抽出ス此ノ際片手ニテばね受板ノ面ヲ抑ヘ之ガ跳出スルヲ防止スベシ

次デばね受板及受筒板ヲ抽出シ各部品ヲ分離ス

四　銃身　尾筒ヨリ銃身ヲ離脱スルニハ銃身止ノ握把部ヲ摘ミ外方ニ引キテ尾筒ト活筯トノ吻合ヲ解キタル後上方ヨリ前方ヘ停止スルマデ旋回シ次デ銃身ノ提把ヲ握リ前方ニ壓シテ抽脱ス

銃身ヲ尾筒ニ結合スル際銃身止ノ活筯ハ完全ニ尾筒ニ吻鉤シアルヲ確ムベシ

五　規整子　支箍ヨリ規整子ヲ離脱スルニハ套部ヲ摘ミ左ニ戻回螺脱ス若シ手力ニテ螺脱困難ナル場合ハ套部圓孔ニ打殼拔又ハ「ピン」拔等ヲ挿入シ螺脱ス

規整子ヲ銃身ニ結合ノ際ハ十分螺入シタル後順次戻シツツ所要ノ分畫ニ合致セシメ置クベシ

六　支箍ばね　支箍ヨリばねヲ離脱スルニハ把持部ヲ摘ミ左ニ戻回螺脱ス

七　尾筒底　尾筒ヨリ尾筒底ヲ離脱スルニハ右手ヲ以テ尾筒底ヲ前ニ壓シツツ左手ヲ以テ尾筒底栓ノ把部ヲ摘ミ外方ニ引キタル後上方ヘ旋回ノ後左方ニ駐止スルマデ十分抽出ス

次ニ徐〻ニ尾筒ノ壓迫ヲ緩メツツ復座ばねト共ニ尾筒底ヲ抽脱ス結合ノ際ハ尾筒底栓把部ノ活筯ヲシテ確實ニ尾筒底ニ吻鉤セシムベシ

八　銃尾機關

1　尾筒ヨリ銃尾機關ヲ抽脱スルニハ尾筒底ヲ離脱シタル後右手ノ掌ヲ銃床ノ上面中央部ニ受ケツツ槓桿ヲ後方ニ引キ銃尾機關部ヲ後方ニ抽脱ス

結合ノ際ハ活塞止ノ鉤部ヲ十分圓筒內ニ吻入セシメ尙圓筒及活塞ノ各緣端部面ヲ揃ヘ尾筒內ニ挿入ス此際活塞ノ前端部ハ尾筒內面ニ衝突セシメザル如ク注意スベシ

2　活塞ト圓筒ヲ分離ス

3　圓筒ヨリ活塞止ヲ分解スルニハ圓筒ノ內方ヨリ「ピン」拔ノ頭部等ヲ以テ活塞止ノ後部ヲ外方ニ壓シ分離ス

此ノ際ばねヲ落失セザル樣注意スベシ

結合ノ際ハばねヲ壓縮シツツ活塞止ノ後部ヨリ挿入ス

4　圓筒ヨリ擊莖ヲ離脱ス

5　圓筒ヨリ抽筒子ヲ分解スルニハ打殼拔ノ基部又ハ彈頭部ヲ利用シ抽筒子ばね軸ノ後端面ヲ前方ニ押シツツ摘出シ抽筒子、抽筒子ばね及ばね軸ヲ離脱ス

結合ノ際ハばね軸ガ同室ニ吻合シアルヤヲ確メ且指頭ヲ以テ其ノ機能ノ調子ヲ點檢スベシ

6　閂子室蓋ヲ下方ニ九〇度施回シタル後尾筒ノ上方彈倉口部ヨリ閂子ヲ下方ニ壓出ス

第百二十六　特別分解及結合

一　特別分解ハ修理若クハ特ニ必要アル場合幹部監督ノ下ニ之ヲ行フモノニシテ分解シ得ル部品左ノ如シ但本分解ヲ行フニハ通常普通分解ヲナシタル後ニ行フモノトス

1　照　星

2 規整子
3 銃身止
4 彈倉止
5 彈倉室蓋、蹴子口蓋軸
6 尾筒蓋栓
7 閂子室蓋
8 槓桿
9 蹴子
10 蹴子覆
11 緩衝器及ばね室
12 閂子結合子
13 引金及逆鉤壓桿
14 逆鉤
15 安全栓
16 脚

二 照星 支箍ヨリ照星ヲ分解スルニハ側方ノ蟻部端面ニ「ピン」抜ヲ當テ輕打シ側方ニ抽脫ス結合ノ際ハ其ノ位置ノ正確ヲ期シ命中試驗後前打刻位置ニ打刻スベシ

三 規整子 體ヨリ活筍、ばね及蓋螺ヲ分解スルニハねじ回ヲ以テ蓋螺ヲ螺脫シタル後活筍ばねヲ分解ス

四 銃身止 尾筒ヨリ銃身ヲ分解スルニハねじ回ヲ以テ銃身止ねじヲ螺脫シタル後體ヲ前方ニ水平ノ位置マデ旋回シタル後左方ヘ抽脫ス

五 彈倉止、尾筒ヨリ彈倉止ヲ分解スルニハ「ピン」抜ヲ以テ軸ヲ抽脫シタル後ばね ト共ニ分離ス

六 彈倉室蓋蹴出口蓋及蓋軸 尾筒ヨリ彈倉室蓋及蹴出口蓋ヲ離脫スルニハ先ヅ蹴出口蓋ヲ斜上方ニ開キタル姿勢ニ於テ彈倉室蓋軸ノ後端部ヲ摘ミ後方ニ駐止スルマデ僅カニ引キ次デ之ヲ左ニ概ネ一八〇度施回シ後方ニ抽出シ彈倉室蓋同ばねヲ共ニ離脫ス結合ニ際シテハ彈倉室蓋及蹴出口蓋ヲ結合シ蹴出口蓋ばね（兩端末同方向ニ突出セルばね）ヲ裝ス蹴出口蓋ばねハ一端ヲ蓋ノ缺部ニ他端ハ餘壓ヲ加ヘ尾筒ノ彈倉口部右側ノ小孔ニ裝入シ軸ヲ逐次挿入シ次デ彈倉室蓋ばねヲ裝ス次デ彈倉室蓋ヲ開キ內方ヨリ軸ばね（兩端末反對方向ニ突出セルばね）ヲ裝シ一端ヲ室蓋ノ鍔部ニ鉤シ他端ヲ彈倉室口部上面ノ溝ニ鉤スル如ク押シツケツツ逐次軸ヲ挿入シ分解ト反對ノ方法ニヨリ結合ス

七 尾筒底栓 尾筒ヨリ尾筒底栓ヲ離脫スルニハ栓溝部ノ細長キ深キ溝部ヨリ尖銳ナル補助具ヲ以テ栓止活筍ノ頭部ヲ壓シタル儘栓ノ他方ヨリ指頭ヲ以テ壓シ抽脫ス此ノ際該部ニ手ヲ當テ栓止活筍ノ落下ヲ防止スベシ次デ栓止活筍及ばねヲ尾筒ヨリ抽脫ス

八 閂子室 蓋尾筒ヨリ閂子室蓋ヲ離脫スルニハ「ピン」抜ヲ以テ軸ヲ離脫シ蓋ヲ離脫ス

九 槓桿 尾筒ヨリ槓桿ヲ離脫スルニハ槓桿ヲ前方ニ進メタル位置ニ於テ「ピン」抜ヲ以テ鉤板ノ栓ヲ上方ニ抽脫シタル後槓桿ヲ尾筒ノ後方迄十分引キ尾筒ノ內室ヨリ「ピン」抜等ノ先端ヲ尾筒內面ニ突出セル鉤板ノ頸部ニ當テ外

方ニ押シ出シタル後握把部ヲ持チ尾筒ヨリ後方ニ離脱ス

槓桿ヨリ活筯及ばねヲ分解スルニハ「ピン」拔等ヲ以テ「ピン」ヲ抽脱シ分解ス

十　蹴子　尾筒ヨリ蹴子ヲ分解スルニハねじ回ヲ以テ軸ヲ螺脱シタル後離脱ス

十一　蹴子覆　尾筒ヨリ蹴子覆ヲ分解スルニハ壓筯ヲ壓シ摘ミタル儘前方ニ開キタル後ねじ回ヲ以テ軸ヲ螺脱シ尾筒ヨリ分離ス

十二　ばね室及緩衝器　尾筒底ヨリばね室及緩衝器ヲ分解スルニハ指頭ヲ以テ駐子ヲ尾筒底體ノ方向ニ退避セシメばね室ヲ左ニ旋回螺脱セシメタル後緩衝器及ばねヲ分解ス

十三　閂子結合子　銃庄ヨリ閂子結合子ヲ分解スルニハ打殼拔ノ基部ヲ以テばねヲ後方ニ壓シツツ外方ニ抽脱シタル後結合子ヲ前方ニ抽出ス

十四　引金及逆鉤壓桿　銃床ヨリ引金及逆鉤壓桿ヲ分解スルニハ「ピン」拔ヲ以テ逆鉤壓桿軸ヲ抽脱シタル後共ニ下方ニ抽脱ス引金軸ハ兩端面ヲかしめアルヲ要ス

十五　逆鉤　銃床ヨリ逆鉤ヲ分解スルニハ「ピン」拔ヲ以テばね室蓋ノ蓋栓ヲ抽脱シタル後ばね室蓋ヲ脱シ次デ逆鉤及ばねヲ抽出ス但ばね室蓋栓ヲ抽脱スル際ハ下方ニ手ヲ當テ落下スルヲ防止スベシ

十六　安全栓　銃床ヨリ安全栓ヲ分解スルニハ把部「火」「安」ノ中間ノ箇所ニ廻シ右方ヨリ指頭ニテ押シ左方ニ抽出ス

十七　脚　「ガスポンプ」ヨリ脚ヲ離脱スルニハ脚桿及「ガスポンプ」ヲ握リ蟻部ヲ相互ニ逆旋回シテ分離ス此ノ際脚頭ばねヲ落失セザル如ク注意スベシ

第三節　九二式重機關銃

第一款　構造

第百二十七　九二式重機關銃ハ機關銃ト眼鏡照準具ヨリ成ル

一　機關銃ハ銃　三脚架、屬品、豫備銃身ヨリ成ル

二　銃ハ銃身、放熱筒、尾筒、銃尾機關、送彈機關、尾筒底ヨリ成ル

1　銃身ハ緊定管、「ガス」誘導ねじノ附隨品ヲ有ス

2　放熱筒ハ照星「ガスポンプ」規整子、緊定管抑ねじノ附隨品ヲ有ス

3　尾筒ハ照尺、照尺座、逆鉤止、蹴止、照準齒弧止栓、油入ノ附隨品ヲ有ス

4　銃尾機關ハ圓筒、閂子、擊莖、抽筒子、抽筒子ばね（以上ヲ遊底ト稱ス）活塞、復座ばね、槓桿ヨリ成ル

5　送彈機關ハ送彈輪、送彈子座、送彈子、がいしヨリ成ル

6　尾筒底ハ床尾、握リ、押鐵、復座ばね軸、緩衝器ヨリ成ル

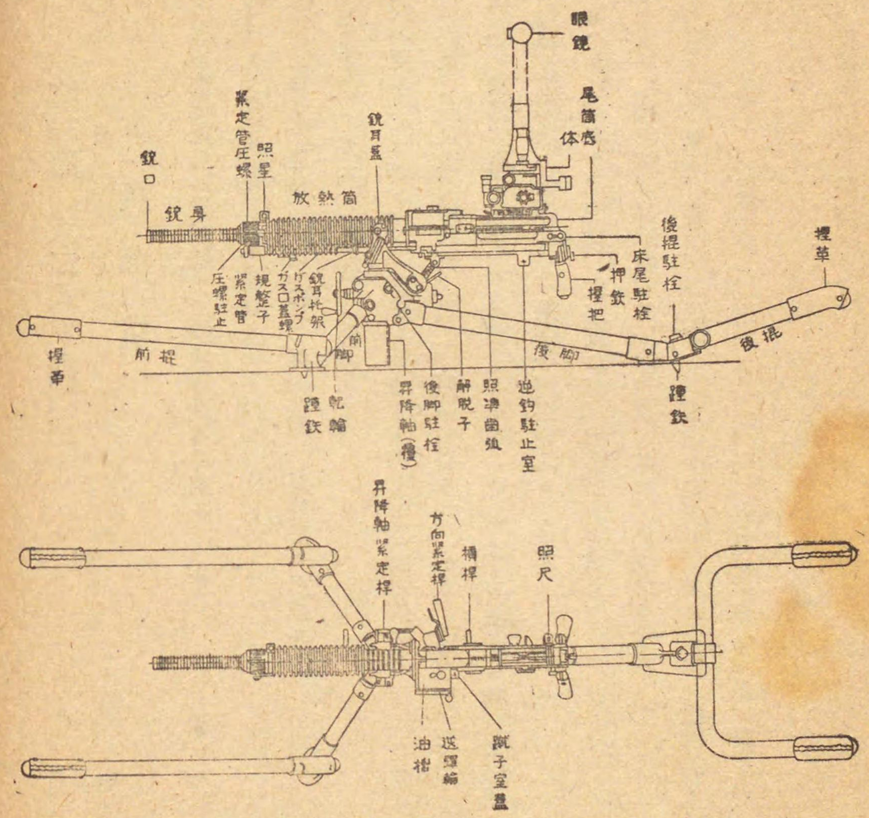
三　三脚架ハ銃耳托架架頭、昇降軸、前脚、後脚、前棍、後棍ヨリ成ル

1　銃耳托架ハ照準齒弧、解子、齒弧轉輪、方向緊定桿、方向緊定板ノ附隨品ヲ有ス

2　架頭ハ「ハンドル」、起動ねじ、起動ねじ室、蓋誘導齒車、齒車室蓋、緊定桿、昇降軸被、前脚止、後脚止ノ附隨品ヲ有ス

3　前脚ハ接續金、管、踵鐵ヨリ成ル

九二式重機關銃



4　後脚ハ接續金、管、踵鐵、後棍止ヨリ成ル

四　屬品ハ照準具托座被、銃被、屬品匣ヨリ成ル

屬品匣ノ裝塡中主ナルモノ左ノ如シ

緊定管分解器、緊定管抑ねじ分解器、消焰器、圓筒手入棒、垂球、規整子「ガス」誘導ねじ「スパナ」、萬能鋏、擊莖拔、「ガス」搔、洗桿

五　銃身及附隨品ノ構造